

- 2 委員会は、選出した候補者の履歴書、業績調書等の資料を、次の教授会開催日の前日まで、庶務係において閲覧に供するものとする。

(教授会による決定)

- 第十一条 採用及び昇任の決定は、教授会構成員の無記名投票により行う。

- 2 前項の決定に当たっては、投票者の三分の二以上の賛成を得なければならぬ。

(雑則)

- 第十二条 この内規の改正は、教授会の議を経て行う。

- 第十三条 この内規に疑義が生じたときは、教授会が決定する。

- 第十四条 委員会の運用に関する細目は、委員会が定める。

附 則

- 1 この内規は、昭和六十一年四月一日から施行する。

- 2 この内規施行の際、現に採用又は昇任に関し選考中等のものは、なお従前の例によることができる。

- 3 東京芸術大学音楽学部専任教員の人事に関する申合せ事項（昭和四十四年九月四日）は、廃止する。

〔横組〕

〔東京芸術大学学報〕第二四二号 昭和六十年十二月十四日 一～三頁

二 カリキュラム

昭和二十四年の大学設置にともない、カリキュラムも一新された。カリキュラムは、各年度の『音楽学部カリキュラム』（昭和二十四～二十九

年度、『履修簿』（昭和三十～三十八年度、『履修案内』（昭和三十九～四十四年度、『履修規程』（昭和四十五年～五十年年度、『履修便覧』（昭和五十一年～六十二年年度）に掲載されている。ここでは昭和二十四年度、四十五年、四十六年度、六十二年年度のカリキュラム全文と、それ以外の年度の大きな変更があった箇所を掲載する。

なお、昭和二十三年七月の『大学設置案』（第七 履修方法及び学位授与）については、第一章を参照のこと。

昭和24年度

昭和24年度カリキュラム案内

§ I. 系列別単位数表

系 列	単位数	総単位数
一般教育科目系列	36	124
体 育 科 目 系 列	4	
専 門 科 目 系 列	74	
教職科目系列(卒特)	10	

☆ 1. 一般教育科目系列

系列	科目(教官名)	単位	取得すべき単位数
人 文 科 学	哲 学	4	(8) 12
	倫 理 学	4	
	心 理 学	4	
	芸 術 学	4	
	国 文 学	4	
	英 語	4	
	独 語	4	
	佛 語	4	
	伊 語	4	
社 会 科 学	露 語	4	(8) 12
	法 学	4	
	經 済 学	4	
	社 会 学	4	
	教 育 学	4	
	歴 史 学	4	
	考 古 学	4	
自 然 科 学	人 類 学	4	(8) 12
	数 学	4	
	物 理 学	4	
	力 学	4	
	生 物 学	4	
	地 学	4	

計
36
④
位科目三
を以つの
取得、系
す合計に
ること九
科目。互
て夫々二
単

☆ 2. 教職科目系列

科 目	単位	総単位数
教 育 原 理	4	10
教 育 心 理	2	
音楽教育法	2	
教 育 実 習	2	

④ 音楽教員免許状を取得出来る者は上記教職
単位10単位の他に、一般教育科目の人文・
社会・自然科学の各系列に亘って夫々三科
目以上（社会系列中より法学（含日本国憲
法2単位）4単位を必ず含む）を取得、専
門科目に於ては声楽（含合唱）2単位以上
取得してなければならない。

§ II. 専門科目

音楽理論（8単位）

年	一年		二年		三年		四年	
期	前	后	前	后	前	后	前	后
科 目	和 声 学 I	〃 II	〃 III	対 位 法 I	〃 II	楽 式 論 I	〃 II	オ レ ー シ ョ ン
単 位	1	1	1	1	1	1	1	1

単位算出基準

- 講義（一般教育・体育理論・教職科目・専
門講義・外国語）
一週1時間半期1単位を与へる。
- 演習（楽理科の演習科目）
一週2時間半期1単位。
- 実技 45時間をもって1単位。
専門実技は各期所定単位。副科は各期
1単位。

1. 作曲科カリキュラム

科 目	年次 期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位 小計	〃 中計	〃 合計	
		前	后	前	后	前	后	前	后				
一 般 教 育		36								36	36	124	
体 育 実 技		2								2	4		
〃 講 義		2								2			
作 曲		5	5	5	5	5	5	6	6	42	オーケストラ楽器・独唱・オーケストラ10単位・音響学・ス		
ピ ア ノ		1	1	1	1	1	1	1	1	8			
☆オーケストラ楽器		1	1	1	1	1	1			6			
☆オ ー ケ ス ト ラ								2		2			
西 洋 音 楽 史		4		4						8			
音 楽 美 学						4				4			
☆独 唱 (含合唱)				2						2			
☆スコアリーディング		1	1							2			
☆音響学又は楽器論				4						4			
卒 業 作 品									2	2			
卒業特別研究作品									10	10			

(☆印は選択科目)

2. 声楽科カリキュラム

科 目	年次 期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単 位		
		前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育		36								36	36	124
体 育 実 技		2								2	4	
〃 講 義		2								2		
声 楽		2	2	2	2	2	2	2	2	16	24	
合 唱 (ソルフェージュ 聴音)		2		2						4		
重 唱						1	1	1	1	4		
ピ ア ノ		1	1	1	1	1	1	1	1	8	50	
音 楽 理 論		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
西 洋 音 楽 史		4		4						8		
音 楽 美 学				4						4		
音 声 学						4				4		
外 国 語		4		4		4		4		16		
卒 業 演 奏									2	2		
卒業特別研究演奏									10	10	10	

3. 合唱(専攻)科カリキュラム

科 目	年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単 位		
	期	前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育		36								36	36	124
体 育 実 技		2								2	4	
〃 講 義			2							2		
合 唱（ソルフェージュ） （聴音・指揮）		2	2	2	2	2	2	2	2	16	74	
独 唱		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
ピ ア ノ		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
外 国 語		4		4		4		4		16		
音 楽 理 論		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
西 洋 音 楽 史		4		4						8		
音 楽 美 学				4						4		
音 声 学						4				4		
卒 業 演 奏									2	2		
卒 特 演 奏									10	10	10	

4. 器楽科(ピアノ)カリキュラム

科 目	年次 期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単 位			
		前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計	
一 般 教 育		36								36	36	124	
体 育 実 技		2								2	4		
〃 講 義			2							2			
ピ ア ノ		5	5	5	5	6	6	6	6	44	68		
合 奏						1	1	1	1	4			
音 楽 理 論		1	1	1	1	1	1	1	1	8			
西 洋 音 楽 史		4		4						8			
音 楽 美 学					4					4			
☆音 響 学					4						4		4
☆楽 器 論					4						4		
卒 業 演 奏									2	2	2		
卒 特 演 奏									10	10	10		

(☆印は選択科目)

5. 器楽科(オルガン)カリキュラム

科 目	年次 期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単 位		
		前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育		36								36	36	124
体 育 実 技		2								2	4	
〃 講 義			2							2		
オ ル ガ ン		4	4	4	4	5	5	5	5	36	68	
ピ ア ノ		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
音 楽 理 論		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
オルガン演奏理論								4	4			
西 洋 音 楽 史		4		4					8			
音 楽 美 学				4					4			
☆音 響 学				4					4	4		
☆楽 器 論				4					4			
卒 業 演 奏								2	2	2		
卒 特 〃								10	10	10		

☆印 選択科目

6. 器楽科(弦)カリキュラム

科 目	年次 期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単 位		
		前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育		36								36	36	124
体 育 実 技		2								2	4	
〃 講 義		1	2							2		
専 攻 実 技		3	3	3	3	3	3	3	3	24	32	
ピ ア ノ		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
オ ー ケ ス ト ラ				2	2	2	2	2	2	12	16	
合 奏 (学 生 オ ケ)		2	2							4		
音 楽 理 論		1	1	1	1	1	1	1	1	8	20	
西 洋 音 楽 史		4		4						8		
音 楽 美 学				4						4		
☆音 響 学				4						4	4	
☆楽 器 論				4						4		
卒 業 演 奏									2	2	2	
卒 特 〃									10	10	10	

☆印 選択科目

7. 器楽科(管打)カリキュラム

科 目	年次 期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単 位		
		前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育		36								36	36	124
体 育 実 技		2								2	4	
〃 講 義			2							2		
専 攻 実 技		1	1	1	1	2	2	2	2	12	68	
合 奏 (オーケストラ プラスバンド)		3	3	3	3	4	4	4	4	28		
ピ ア ノ		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
音 楽 理 論		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
西 洋 音 楽 史		4		4						8		
音 楽 美 学				4						4		
☆音 響 学				4						4	4	
☆楽 器 論				4						4		
卒 業 演 奏									2	2	2	
卒 特 〃									10	10	10	

☆印 選択科目

8. 楽理科カリキュラム

科 目	年次 期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単 位		
		前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育		36								36	36	124
体 育 実 技		2								2	4	
〃 講 義			2							2		
ピ ア ノ		1	1							2	74	
(含実技) に関する科目 音楽専門教科		70								70		
卒 業 論 文									2	2		
卒 特 〃									10	10		

〔謄写版・手書き〕(『音楽学部カリキュラム』1～6頁)

昭和25年度

「合唱（専攻）科」の名称が「声楽（合唱科）」と変更される。また，邦楽科カリキュラムが増設される。楽理科は，前年度には「音楽専門教科に関する科目（含実技）」という記載であったが，具体的な科目名の記載へと変更された。

以下に邦楽科と楽理科のカリキュラムを掲載する。

8. 邦 楽 科 カ リ キ ュ ラ ム

科 目	年次 期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位	取得単位	
		前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育		36								36	36	124
体 育 実 技		2								2	4	
〃 講 義			2							2		
専 攻 実 技		3	3	4	4	4	4	4	4	30	64	
ピ ア ノ		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
音 楽 理 論		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
音楽史(西又は東洋)				4		4				8		
音 楽 美 学				4						4		
音 声 学				4						4		
日 本 芸 能 史				2						2		
☆音 響 学				4						4	4	
☆楽 器 論				4						4		
☆合 唱		2		2						4	4	
☆弦 楽				1	1	1	1			4		
☆管 楽				1	1	1	1			4		
☆打 楽				1	1	1	1			4		
卒 業 演 奏									2	2	2	
卒 特 〃									10	10	10	

☆印 選択科目

9. 楽理科カリキュラム

年次 期 科 目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位	単位取得	
	前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育	36								36	36	4
体 育 実 技	2								2	60	
〃 講 義		2							2		
西洋音楽史概説	4		4						8		
音 楽 理 論	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
音楽美学概論			4						4		
専攻別特殊講義	4		4		4		4		16		
専 攻 別 演 習							2		2		
上級楽書講読					2		2		4		
ピ ア ノ	1	1							2		
外 国 語	4		4		4		4		16		
☆東洋音楽史概説			4						4		12
☆比 較 音 楽 学			4						4		
☆美 術 史			4						4		
☆楽 器 論	2								2		
☆音 響 学		2							2		
☆音 声 学			4						4		
☆音 楽 心 理					4				4		
☆音 楽 学 概 論					4				4		
卒 業 論 文								2	2	2	
卒 特 〃								10	10	10	

☆印 選択科目

〔謄写版・手書き〕

(『音楽学部カリキュラム』12～13頁)

昭和26年度

指揮科カリキュラムが増設される。楽理科は専門科目を中心に若干の変更が見られる。以下、指揮科と楽理科のカリキュラムを掲載する。

8. 指揮科カリキュラム

科 目	年次		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位	取得単位	
	期		前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育	36										36	36	124
体 育 実 技	2										2	4	
〃 講 義		2									2		
一 般 外 語	4										4	4	
指 揮 実 技	2	2	3	3	3	3	3	3	3	22	70		
弦 楽 器	1	1	1	1						4			
管 打 楽 器			1	1	1	1				4			
合奏(オーケストラ)					1	1	1	1				4	
合 唱			2							2			
独 唱	1	1										2	
ピ ア ノ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
音 楽 理 論	1	1	1	1	1	1				6			
〃 美 学			4							4			
西 音 史	4		4							8			
音 響 学		2										2	
楽 器 論	2											2	
卒 業 演 奏										2		2	
卒 特 〃										10	10	10	

9. 楽理科カリキュラム

科 目	年次 期	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位	取得単位	
		前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育		36								36	36	124
体 育 実 技		2								2	4	
〃 講 義			2							2		
一 般 外 語		4								4	4	
専 門 外 語 (英)		4	4						8	70		
西 音 史 概 説		4	4		4				12			
東 音 史 概 説 II		4						4				
理 論		1	1	1	1			4	8			
ピ ア ノ		1	1						2			
合 唱				2							2	
専 攻 別 演 習		2		2		2	2		8			
〃 特 講		4		4		4			12			
専 門 外 語 (独)		6		6							12	
卒 業 論 文									2		2	
卒 特 〃									10	10	10	

〔謄写版・手書き〕(『音楽学部カリキュラム』19～20頁)

昭和27, 28, 29年度

作曲科は「作曲」の単位数がほぼ半減し、選択科目がなくなり、科目数が増えている。

声楽（合唱）科が昭和29年度から廃止され、声楽科ひとつにまとめられる。器楽（弦楽）科、器楽（管打）科に分かれていたものが、弦管打となる。

また、全科にソルフェージュの授業が課され、「合唱」が器楽（ピアノ）科、器楽（オルガン）科、器楽（管打）科にも新たに加えられた。楽理科は科目が増設され、選択の幅も広がった。

以下、『昭和27, 28, 29年度 カリキュラム案内』より作曲科、声楽科、楽理科のカリキュラムを掲載する。

1. 作曲科カリキュラム

年次 期 科 目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位	取得単位	
	前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育	36								36	36	4
体 育 実 技	2								2		
〃 講 義		2							2		
一 般 外 語	4								4	4	
作 曲	2	2	2	2	3	3	3	3	20	62	124
ソルフェージュ	1	1							2		
合 唱			2					2			
独 唱					1	1			2		
ピ ア ノ	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
合 奏					1	1			2		
西 音 史	4		4					8			
音 楽 美 学					4				4		
音 響 学	2							2			
楽書講読(外語)					4		4		8		
弦 管 打	1	1	1	1				4			
總 譜 視 奏 法					1	1	1	1	4	4	
指 揮 法					1	1	1	1	4		
楽 器 論(講義)	2								2	2	
〃 (実習)	2								2		
卒 業 作 品								2	2	2	
卒 特 〃								10	10	10	

2. 声楽科カリキュラム

年次 期 科 目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位	取得単位	
	前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育	36								36	36	124
体 育 実 技	2								2	4	
〃 講 義		2							2		
一 般 外 語	4								4	4	
声 楽	1	1	1	1	1	1	1	1	8	70	
重 唱					1	1	1	1	4		
ソルフェージュ {(合唱)} {(コールシュール)} {(合唱指揮)}	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	○ 1	8		
ピ ア ノ	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
音 楽 理 論	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
西 音 史	4		4						8		
音 楽 美 学					4				4		
音 声 学	4								4		
外 国 語	4		4		4		4		16		
卒 業 演 奏								2	2		
卒 特 〃								10	10	10	

6. 楽理科カリキュラム

年次 期 科 目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位	取得単位	
	前	后	前	后	前	后	前	后	小計	中計	合計
一 般 教 育	36								36	36	4
体 育 実 技	2								2	4	
〃 講 義	2								2		
一 般 外 語	4								4		
ソルフェージュ ^{ママ}	1	1							2	60	124
合 唱			2						2		
西 音 史	2		2		2				6		
東 〃	2		2						4		
音 楽 理 論	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
〃 美 学	2								2		
〃 心 理			2						2		
比 較 音 楽 学					2				2		
特殊講義(演習)					2		2		4		
楽 書 講 読	2		2		2				6		
外 語 (英)			2				2				
〃 (独)	3		3		2		2		14		
〃 (選択)											
器 楽 実 習	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
☆美 学					2				2	8	
☆哲 学 史					2				2		
☆楽 書 講 読							2		2		
☆理 論 特 講							2		2		
☆其 他							2		2		
卒 業 論 文								2	2		2
卒 特 〃								10	10	10	

☆印 選択科目

(謄写版・手書き)

(『音楽学部カリキュラム』23, 24, 27頁)

昭和30,31年度

昭和30,31年度は、「ジュニア・コース」と「シニア・コース」に分けられ、それぞれの単位数が定められる。

楽理科の科目に「演習（含卒論指導）」が増設され、邦楽科のシニア・コースに「西洋音楽史」と「国文学」が増設される。

ここではコースの説明部分と、コース別の所定単位の例として作曲科のカリキュラムを掲載する。

また指揮科は昭和30年度に、3年次からの編入扱いとなる。指揮科編入についての注意書きと指揮科のカリキュラムを掲載する。

履 修 案 内 （昭和30・31年度入学生用）

1、★（ジュニア・コース）★（シニアコース）の区分

★ジュニア・コース＝入学後の最初の二ケ年のコースを云う。

★シニア・コース＝ジュニア・コースを修了した後の二ケ年のコースを言う。

2、ジュニア・コース、シニア・コースに於ける所定単位（原則）

科 目	ジュニア・コース	シニア・コース
	一 年・二 年	三 年・四 年
一 般 教 育 科 目	36(単位)	0(単位)
一 般 外 国 語	4	0
体 育 科 目	2	2
専門科目(含外国語)	20	50
卒特(又は教職科目)	0	10
中 計	62	62
合 計	124(単位)	

作曲科カリキュラム及取得単位成績記録 (昭和30・31年度入学生用)

コース	年次 科目	1 年次 (年度)		2 年次 (年度)		3 年次 (年度)		4 年次 (年度)		(年度)		(年度)		単位小計	単位中計	単位合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
ジュニア・コース	作曲	1	1	2	2									6	18	
	ソルフェージュ	1	1											2		
	合唱			2										2		
	ピアノ	1	1	1	1									4		
	器楽(弦・管打・邦)	1	1	1	1									4		
シニア・コース	作曲					3	3	3	3					12	52	
	声楽(独唱)					1	1							2		
	ピアノ					1	1	1	1					4		
	合奏					1		1						2		
	スコアリーダー 又は指揮法					1	1	1	1					4		
	西音楽史					4		4						8		
	音楽学					2								2		
	楽器論						2							2		
	音楽美学					4								4		
	卒業作品								2					2		
卒特作品								10					10			

一般教育科目(ジュニア・コース)

外 國 語 (一般・専門)

系列	科目名	單位	成績	年度	單位計
人文科學	哲學	4			12
	國文學	4			
	文學論	4			
	倫理學	4			
	美術	4			
社會科學	法學	4			12
	考古學	4			
	人類學	4			
	社會學	4			
	教育	4			
	歷史	4			
自然科學	文化史	4			12
	心理學	4			
	數學	4			
	力學	4			
	地學	4			
	生理學	4			
	生物	4			
	物理	4			

科 目	コース	ジュニア・コース				シニア・コース				単 位 計
		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英 語									14 単 位	
独 語										
仏 語										
伊 語										
露 語										
単 位		4		2		4		4		

教 職 科 目

科目名	単位	成績	年度	計
教育原理	4			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			

体 育 科 目

科 目 名	単位	成績	年度	計
講 義	2			4
実 技	2			

自由選択科目

[illegible]

八、指揮科について

邦楽科を除く各科のジュニア・コースを終えた者は指揮科への転科試験を受けることができる。(指揮科カリキュラム参照のこと)

指揮科カリキュラム及取得単位成績記録 (昭和30・31年度入学生用)

コース	科目	年次		1年次(年度)		2年次(年度)		3年次(年度)		4年次(年度)		(年度)		(年度)		単位小計	単位中計	単位合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
ジュニア・コース	音楽一般	20														20	62	
	一般教育	36														36		
	外国語	4														4		
	体育	2														2		
シニア・コース	専攻	聴音															12	12
		スコアリング																
		オーケストレーション						3	3	3	3							
		指揮法																
	ピアノ							1	1	1	1					4	50	124
	弦楽器																	
	管楽器							2	2	2	2					8		
	打楽器																	
	音楽理論							1	1	1	1					4		
	音楽美学							4								4		
	比較音楽学							4								4		
	音楽心理学									4						4		
	西音史							4		4						8		
	体育									2						2		
	卒演										2					2		
	卒特演										10					10	10	

教職科目

科目名	単位	成績	年度	計
教育原理	4			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講義	2			4
実技	2			

自由選択科目

(『東京芸術大学音楽学部 履修簿』6,11頁)

昭和32,33年度

昭和32,33年度のカリキュラムでは「ジュニア・コース」「シニア・コース」という分類はなくなり、「音楽理論」以外の音楽に関わる科目が「専攻科目」「副専攻科目」に振り分けられる。声楽科は声楽専攻とオペラ専攻に分かれ、器楽科は、弦楽専攻と管打専攻に分かれる。邦楽科も長唄、三味線、箏、能楽の各専攻に分かれる。

また、「器楽(ピアノ)科」の専攻科目の中に「ピアノ演奏理論」「楽曲分析」が、副専攻科目の中に「独唱」が増設される。

以下、声楽科と邦楽科のカリキュラムを掲載する。

声楽（声楽）科カリキュラム及取得単位成績記録（昭和33年度入学生用）

科目		年次 期		1年次(年度)		2年次(年度)		3年次(年度)		4年次(年度)		5年次(年度)		6年次(年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
専 攻 科 目	声 楽	2	2	2	2	2	2	2	2							16	32	56
	ソルフェージュ	・ } 1	・ } 1	・ 1	・ 1	・ } 1	・ } 1	・ } 1	・ } 1							8		
	コール・シュレ	・ } 1	・ } 1															
	合唱指揮理論					・ } 1	・ } 1											
	合唱指揮実技							・ } 1	・ } 1									
	合 唱	1	1	1	1	1	1	1	1						8			
副 専 攻 科 目	ピ ア ノ	1	1	1	1	1	1	1	1							8	20	
	選 重 唱					1	1	1	1							4		
	オペラ総論									2								
	(声楽)音楽史					4							4					
	音 声 学							4						4				
	卒演	卒業演奏								4						4		

一般教育科目

系列	科目名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	国 文 学	4			8
	美 術	4			
	文 学	4			
	哲 学	4			
社会科学	○音楽史概説	4			4
	法 学	4			8
	歴 史	4			
	文 化 史	4			
自然科学	心 理	4			12
	物 理	4			
	生 理	4			
	音 響 学	4			

○印は必修科目

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講 義	2			4
実 技	2			

外国語（一般8・専門12単位）

科目	学年 期	一 年 次		二 年 次		三 年 次		四 年 次		単位計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英 語		4		4						20
独 語		4		4		4				
仏 語		4		4		4				
伊 語		4		4		4				
露 語		4		4						
単 位		8		4		8		4		

音楽理論

学 年	科目名	単位	成績	年度
一年次	和声初級	2		
二年次	和声中級	2		
三 四	対 位 法	1		
	楽 式 論	2		
	管弦楽法	1		
単位計		8 単位		

教員コース

A 教職に関する科目

科目名	単位	成績	年度	計
教 育 原 理	2			10
教 育 心 理	2			
音楽教育法	2			
教 育 実 習	2			
道徳教育の研究	2			

声楽（オペラ）科カリキュラム及取得単位成績記録（昭和33年度入学生用）

科目		年次 期		1年次(年度)		2年次(年度)		3年次(年度)		4年次(年度)		5年次(年度)		6年次(年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
専攻科目	声 楽	2	2	2	2	2	2	2	2							6	31	56
	ソルフエージ	・ } 1	・ } 1	・ 1	・ 1	・ } 1	・ } 1	・ 1	・ 1							8		
	コールシユレー																	
	(合唱指揮理論)							・ } 1	・ } 1									
	合 唱	1	1	1	1	1	1								6			
	オペラ演技理論							・ } 1	・ } 1							2		
	演出方法論																	
	オペラ実習							・ } 1	・ } 1									
	オペラ総合実習																	
副専攻科目	ピ ア ノ	1	1	1	1	1	1	1	1								18	
	選 重 唱 択 オペラ総論					1	1									2		
		(声楽)音楽史							4									
	音 声 学							4							4			
	卒 業 演 奏								4							4		

一般教育科目

系列	科 目 名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	国 文 学	4			8
	美 術	4			
	文 学 学	4			
	哲 学 学	4			
社会科学	○音楽史概説	4			4
	法 学 学	4			8
	歴 史 学	4			
	文 化 史	4			
自然科学	心 理 学	4			12
	物 理 学	4			
	生 理 学	4			
	音 響 学	4			

○印は必修科目

体 育 科 目

科 目 名	単位	成績	年度	計
講 義	2			4
実 技	2			

外 国 語 （一般8・専門12単位）

科目	学年 期	一 年 次		二 年 次		三 年 次		四 年 次		単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英 語		4		4		4				20
独 語		4		4		4				
仏 語		4		4		4				
伊 語		4		4		4				
露 語		4		4		4				
単 位		8		4		4		4		

音 楽 理 論

学 年	科 目 名	単位	成績	年度
一年次	和声初級	2		
二年次	和声中級	2		
三 四	対 位 法	1		
	楽 式 論	2		
	管弦楽法	1		
単位計		8 単位		

教員コース

A 教職に関する科目

科 目 名	単位	成績	年度	計
教 育 原 理	2			10
教 育 心 理	2			
音 楽 教 育 法	2			
教 育 実 習	2			
道徳教育の研究	2			

邦楽（長唄）科カリキュラム及取得単位成績記録（昭和33年度入学生用）

科目 \ 年次 期		1 年次 (年度)		2 年次 (年度)		3 年次 (年度)		4 年次 (年度)		5 年次 (年度)		6 年次 (年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
専 攻 科 目	長 唄 実 技	2	2	2	2	2	2	2	2					16	48	68
	(長唄基礎理論)	1	1	2	2	2	2	2	2					14		
	三 味 線	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	囃 子	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	邦 楽 器 論					2								2		
副 専 攻 科 目	ピ ア ノ	1	1	1	1									4	16	
	ソルフェージュ	1	1											2		
	合 唱			2										2		
	東洋音楽史			4										4		
	邦 楽 概 論					4								4		
卒演	卒 業 演 奏								4					4	4	

一般教育科目

系列	科目名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	国文学	4			8
	美術	4			
	文学	4			
	哲学	4			
社会科学	○音楽史概説	4			4
	法学	4			8
	歴史	4			
	文化史	4			
自然科学	心理	4			12
	物理	4			
	生理	4			
	音響学	4			

○印は必修科目である

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講義	2			4
実技	2			

外国語（一般8・専門単位）

科目	学年 期	一年次		二年次		三年次		四年次		単位計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英語		4		4						8
独語		4		4						
仏語		4		4						
伊語										
露語										
単位		4		4						

音楽理論

学年	科目名	単位	成績	年度
一年次	和声初級	2		
二年次	和声中級	2		
三 四	対位法	1		
	楽式論	2		
	管弦楽法	1		
単位計 8 単位				

教員コース

A 教職に関する科目

科目名	単位	成績	年度	計
教育原理	2			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			
道德教育の研究	2			

邦楽（三味線）科カリキュラム及取得単位成績記録（昭和33年度入学生用）

科目 \ 年次 期		1 年次(年度)		2 年次(年度)		3 年次(年度)		4 年次(年度)		5 年次(年度)		6 年次(年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
専攻科目	三味線実技	2	2	2	2	2	2	2	2					16	48	70
	(三味線基礎理論)	1	1	2	2	2	2	2	2					14		
	長 唄	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	囃 子	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	邦 楽 器 論					2								2		
副専攻科目	ピ ア ノ	1	1	1	1									4	16	
	ソルフェージュ	1	1											2		
	合 唱			2										2		
	東洋音楽史			4										4		
	邦 楽 概 論					4								4		
卒演	卒 業 演 奏							4						4	4	

一般教育科目

系列	科目名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	国文学	4			8
	美術	4			
	文学	4			
	哲学	4			
社会科学	○音楽史概論	4			4
	法学	4			8
	歴史	4			
	文化史	4			
自然科学	心理	4			12
	物理	4			
	生理	4			
	音響学	4			

○印は必修科目

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講義	2			4
実技	2			

外国語（一般8・専門単位）

科目	学年 期	一年次		二年次		三年次		四年次		単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英語		4		4						8
独語		4		4						
仏語		4		4						
伊語										
露語										
単位		4		4						

音楽理論

学年	科目名	単位	成績	年度
一年次	和声初級	2		
二年次	和声中級	2		
三 四	対位法	1		
	楽式論	2		
	管弦楽法	1		
単位計		8	単位	

教員コース

A 教職に関する科目

科目名	単位	成績	年度	計
教育原理	2			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			
道德教育の研究	2			

邦楽（箏曲）科カリキュラム及取得単位成績記録（昭和33年度入学生用）

科目 \ 年次 期		1年次(年度)		2年次(年度)		3年次(年度)		4年次(年度)		5年次(年度)		6年次(年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
専攻科目	箏曲 ()	2	2	2	2	2	2	2	2					16	48	68
	(箏曲基礎理論)	1	1	2	2	2	2	2	2					14		
	三 味 線	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	合 奏	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	邦 楽 器 論					2								2		
副専攻科目	ピ ア ノ	1	1	1	1									4	16	
	ソルフェージュ	1	1											2		
	合 唱			2										2		
	東洋音楽史			4										4		
	邦 楽 概 論					4								4		
卒演	卒業演奏								4					4	4	

一般教育科目

系列	科目名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	国文学	4			8
	美術	4			
	文学	4			
	哲学	4			
社会科学	○音楽史概説	4			4
	法学	4			8
	歴史	4			
	文化史	4			
自然科学	心理	4			12
	物理	4			
	生理	4			
	音響学	4			

○印は必修科目

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講義	2			4
実技	2			

外国語（一般8・専門単位）

科目	学年 期	一年次		二年次		三年次		四年次		単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英語		4		4						8
独語		4		4						
仏語		4		4						
伊語										
露語										
単位		4		4						

音楽理論

学年	科目名	単位	成績	年度
一年次	和声初級	2		
二年次	和声中級	2		
三 四	対位法	1		
	楽式論	2		
	管弦楽法	1		
単位計		8	単位	

教員コース

A 教職に関する科目

科目名	単位	成績	年度	計
教育原理	2			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			
道徳教育の研究	2			

邦楽（能楽）科カリキュラム及取得単位成績記録（昭和33年度入学生用）

科目		1年次(年度)		2年次(年度)		3年次(年度)		4年次(年度)		5年次(年度)		6年次(年度)		単位小計	単位中計	単位合計	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
専攻科目	謡曲()	2	2	2	2	2	2	2	2					16	48	68	
	(仕舞)	1	1	1	1	1	1	1	1					8			
	(囃子)	1	1	1	1	1	1	1	1					8			
	(能楽基礎理論)	1	1	2	2	2	2	2	2					14			
	能楽器論					2								2			
副専攻科目	ピアノ	1	1	1	1									4	16		
	ソルフェージュ	1	1											2			
	合唱			2										2			
	東洋音楽史			4										4			
	邦楽概論					4								4			
卒演	卒業演奏								4					4	4		

一般教育科目

系列	科目名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	国文学	4			8
	美術	4			
	文学	4			
	哲学	4			
社会科学	○音楽史概説	4			4
	法学	4			8
	歴史	4			
	文化史	4			
自然科学	心理	4			12
	物理	4			
	生理	4			
	音響学	4			

○印は必修科目

外国語（一般8・専門単位）

科目	学年 期	一年次		二年次		三年次		四年次		単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英語		4		4						8
独語		4		4						
仏語		4		4						
伊語										
露語										
単位		4		4						

音楽理論

学年	科目名	単位	成績	年度
一年次	和声初級	2		
二年次	和声中級	2		
三 四	対位法	1		
	楽式論	2		
	管弦楽法	1		
単位計		8	単位	

教員コース

A 教職に関する科目

科目名	単位	成績	年度	計
教育原理	2			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			
道徳教育の研究	2			

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講義	2			4
実技	2			

（『東京芸術大学音楽学部（昭和33年度入学生用）履修簿』7～8、14～17頁）

昭和38年度

器楽（ピアノ）科の専攻科目に「伴奏」が増設される。

昭和39, 40年度

「器楽科（弦楽）」の専攻科目中の「合奏（学生・大学オーケストラ、吹奏楽、オペラオーケストラ）」が、「弦楽合奏」「室内楽」「オーケストラ」に分けられ、「室内楽」が増設される。
「器楽科（管打）」も同じく「合奏」が、「管楽合奏」「室内楽」「オーケストラ」「吹奏楽」に分けられる。

また指揮科は一年次からのカリキュラムとなる。

以下、器楽科（弦楽）と指揮科のカリキュラムを掲載する。

器楽科（弦楽）カリキュラム及取得単位配分表（昭和39・40年度入学生用）

年次 期 科 目		1 年次 (年度)		2 年次 (年度)		3 年次 (年度)		4 年次 (年度)		5 年次 (年度)		6 年次 (年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
専 攻 科 目	実 技 ()	2	2	2	2	2	2	2	2					16	47	66
	弦 楽 合 奏	4		4										8		
	室 内 楽	2		2		2		1						7		
	オーケストラ					8		8						16		
副 専 攻 科 目	ピ ア ノ	1	1	1	1	1	1							6	15	
	ソルフェージュ	2		2										4		
	合 唱			1										1		
	音 楽 史			4										4		
卒演	卒業演奏							4						4	4	

一般教育科目

系列	科目名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	国文学	4			8
	美術	4			
	西洋文学	4			
	倫理	4			
	哲学	4			36
社会科学	○音楽史概説	4			4
	法学	4			8
	歴史	4			
	文化史	4			
自然科学	心理	4			12
	物理	4			
	生理	4			
	音響学	4			

○印は必修科目である。

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講義	2			4
実技	2			

外国語（一般8・専門2単位）合計10単位

科目	年次 期	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英語		4		4				2		10
独語		4		4				2		
仏語		4		4				2		
単位		4		4				2		

音楽理論

学年	科目名	単位	成績	年度
1年次	和声初級	2		
2年次	和声中級	2		
3年次	和声上級	2		
	楽式論	2		
単位計		8	単位	

教員コース

A 教職に関する科目

科目名	単位	成績	年度	計
教育原理	2			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			
道徳教育	2			

B 教職に関する専門科目

課程 科目	教員課程者				一般課程者			
	合唱	独唱	指揮法	計	合唱	独唱	指揮法	計
専攻科別 弦楽	2・2	2	2	6	1	2	2	5

指揮科カリキュラム及取得単位配分表（昭和39・40年度入学生用）

年次 期 科目		1 年次 (39年度)		2 年次 (40年度)		3 年次 (41年度)		4 年次 (42年度)		5 年次 (43年度)		6 年次 (44年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後				
専攻科目	指揮実技	2	2	2	2	2	2	2	2					16	22	58	
	スコアリーダー ング	1	1	1	1	1	1							6			
副 専 攻 科 目	ピアノ	1	1	1	1	1	1	1	1					8	24		
	管弦打楽器			2	2	1	1	1	1					8			
	ソルフエージュ	2		2										4			
	声楽			1	1									2			
	合唱			1	1									2			
	音楽史			4										4	8		
	民族音楽学					4								4			
卒演	卒業演奏							4							4		

一般教育科目

系列	科目名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	国文学	4			8
	美術	4			
	西洋文学	4			
	倫理	4			
	哲学	4			
社会科学	○音楽史概説	4			4
	法学	4			8
	歴史	4			
	文化史	4			
		4			
自然科学	心理	4			12
	物理	4			
	生物	4			
	音響学	4			
		4			

外国語（一般8・専門10単位）

科目	年次 期	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英語		4		4						18
独語		4		4		2				
仏語		4		4		2				
伊語		4		4		2				
単位		8		8		2				

教員コース

B 教職に関する科目

音楽理論

学 年	科 目 名	単位	成績	年度
1 年次	和 声 初 級	2		
2 年次	和 声 中 級	2		
3 年次	和 声 上 級	2		
	楽 式 論	2		
単位計		8 単位		

科目名	単位	成績	年度	計
教育原理	2			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			
道徳教育	2			

○印は必修科目である。

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講義	2			4
実技	2			

B 教科に関する科目

指揮科で免許状を受けるものはこの科目は十分単位があるので履修の要はない

（『東京芸術大学音楽学部 昭和39・40年度入学生用 履修案内』12,14頁）

昭和42年度

専攻実技の個人レッスンが、これまで週2回とされていたのが、「毎週1回1時間、但し作曲科については理論（クラスレッスン）2時間、実技2/3時間（1～2回）の個人レッスンを受け、学期末試験に合格すれば単位が与えられる」となる。

昭和44年度

声楽科のオペラコースが3年次に声楽からの移行選択制となる。

邦楽科に長唄囃子、能楽囃子が増設される。以下これらのカリキュラムを掲載する。

声楽科（声楽）カリキュラム及取得単位配分表（昭和44年度入学生用）

科 目		年次 期		1 年次 (44年度)		2 年次 (45年度)		3 年次 (46年度)		4 年次 (47年度)		5 年次 (48年度)		6 年次 (49年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
専 攻 科 目	声 楽	2	2	2	2	2	2	2	2							16	36	56
	ソルフエージュ	1	1	1	1	1	1	1	1							8		
	コールシュレ	1	1													2		
	合唱指揮法					1	1									2		
	合 唱	1	1	1	1	1	1	1	1							8		
副 専 攻 科 目	ピ ア ノ	1	1	1	1	1	1	1	1							6	16	
	選 重 唱 択 オペラ総論 演 習					2		2								4		
						2										4		
	(声楽)音楽史					4										4		
卒演 卒業演奏										4						4	4	

※ 3年次の「合唱指揮法」は集中講義（9月予定）による。※ オペラコース（3年次より）の選択は3年次の学期始め担任の許可を得て願出ること。

一般教育科目

系列	科 目 名	単位	成績	年度	単位計
人 文 科 学	○音楽美学	4			4
	日 本 文 学	4			8
	美 術	4			
	西 洋 文 学	4			
	倫 理	4			
社 会 科 学	哲 学	4			36
	○音楽史概説	4			
	法 学	4			
	歴 史	4			
自 然 科 学	文 化 史	4			12
	心 理	4			
	自 然 科 学 (物理・化学)	4			
	生 理	4			
	音 響 学	4			
	○音 声 学	4			

○印は必修科目である。但し「音声学」は2年次に取得すること。

体 育 科 目

科 目 名	単位	成績	年度	計
講 義	2			4
実 技	2			

外 国 語（一般8・専門12単位）合計20単位

科 目	年次 期	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		単 位 計
		前	後	前	後	前	後	前	後	20
独 語		4		4		4				
仏 語		4		4		4				
伊 語		4		4		4				
露 語		4		4						
単 位		8		8		4				

音 楽 理 論

学 年	科 目 名	単位	成績	年度
1年次	和声初級	2		
2年次	和声中級	2		
3年次	和声上級	2		
	楽式論	2		
単位計		8		

A 教職に関する科目

科 目 名	単位	成績	年度	計
教育原理	2			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			
道徳教育	2			

B 教科に関する専門科目

声楽科で免許状を受けるものはこの科目の単位は充たされているので履修の要はない

重唱……声楽専門科目中の「重唱」は集中講義（9月実施予定）によって単位を与える。

声楽科（オペラ）カリキュラム及取得単位配分表（昭和44年度入学生用）

科目	年次 期	1年次 (44年度)		2年次 (45年度)		3年次 (46年度)		4年次 (47年度)		5年次 (48年度)		6年次 (49年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
専攻科目	声楽	2	2	2	2	2	2	1	1					14	42	60
	ソルフエージュ	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	コールシュレ	1	1											2		
	合唱指揮法					1	1							2		
	合唱	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	オペラ総論演習					2								2		
	オペラ基礎演習 (1)					2								2		
	オペラ基礎演習 (2)							2						2		
	オペラ演技演出 論演習							2						2		
副専攻科目	ピアノ	1	1	1	1	1	1	1	1					8	14	
	(声楽)音楽史					4								4		
	舞台語発音法							2						2		
卒演	卒業演奏								4					4	4	

※ 3年次の「合唱指揮法」は集中講義（9月予定）による。※ オペラコースは3年次に声楽から移行選択制とする。

一般教育科目

系列	科目名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	日本文学	4			8
	美術	4			
	西洋文学	4			
	倫理	4			
	哲学	4			
社会科学	○音楽史概説	4			4
	法学	4			8
	歴史	4			
	文化史	4			
自然科学	心理	4			12
	自然科学 (物理・化学)	4			
	生理	4			
	音響学	4			
	○音声学	4			

○印は必修科目である。但し「音声学」は2年次に取得すること。

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講義	2			4
実技	2			

外国語（一般8・専門8単位）合計16単位

科目	年次 期	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
独語		4		4		4				16
仏語		4		4		4				
伊語		4		4		4				
露語		4		4						
単位		8		4		4				

音楽理論

学年	科目名	単位	成績	年度
1年次	和声初級	2		
2年次	和声中級	2		
3年次	和声上級	2		
	楽式論	2		
単位計 8単位				

A 教職に関する科目

科目名	単位	成績	年度	計
教育原理	2			10
教育心理	2			
音楽教育法	2			
教育実習	2			
道德教育	2			

B 教科に関する専門科目

声楽科で免許状を受けるものはこの科目の単位は充たされているので履修の要はない

邦楽科（長唄囃子）カリキュラム及取得単位配分表（昭和44年度入学生用）

年次 期 科目		1 年次 (44年度)		2 年次 (45年度)		3 年次 (46年度)		4 年次 (47年度)		5 年次 (48年度)		6 年次 (49年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
専攻科目	長 唄 囃 子	2	2	2	2	2	2	2	2					16	43	68
	長唄囃子基礎理論	1	1	1	1	1	1	1	2					9		
	長 唄	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	三 味 線	1	1	1	1	1	1	1	1					8		
	邦 楽 器 論					2								2		
副専攻科目	ピ ア ノ	1	1	1	1									4	21	
	ソルフエージュ	2		2										4		
	合 唱			1										1		
	東洋音楽史			4										4		
	邦 楽 概 論					4								4		
	国 語					4								4		
卒演	卒 業 演 奏								4					4	4	

一般教育科目

系列	科目名	単位	成績	年度	単位計
人文科学	○音楽美学	4			4
	日本文学	4			8
	美術	4			
	西洋文学	4			
	倫理	4			
	哲学	4			
社会科学	○音楽史概説	4			4
	法学	4			8
	歴史	4			
	文化史	4			
自然科学	心理	4			12
	自然科学 (物理・化学)	4			
	生理	4			
	音響学	4			
					36

外国語（一般8・専門0単位）

科目	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	期	前	後	前	後	前	後	前	後	
英語		4		4						8
独語		4		4						
仏語		4		4						
単位		4		4						

音楽理論

学年	科目名	単位	成績	年度
1年次	和声初級	2		
2年次	和声中級	2		
3年次	和声上級	2		
	楽式論	2		
単位計	8			

○印は必修科目である。

体育科目

科目名	単位	成績	年度	計
講義	2			4
実技	2			

邦楽科（能楽囃子）カリキュラム及取得単位配分表（昭和44年度入学生用）

科 目		年次 期		1 年次 (44年度)		2 年次 (45年度)		3 年次 (46年度)		4 年次 (47年度)		5 年次 (48年度)		6 年次 (49年度)		単位 小計	単位 中計	単位 合計
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
専 攻 科 目	(囃 子)	2	2	2	2	2	2	2	2							16	43	68
	謡 曲 ()	1	1	1	1	1	1	1	1							8		
	(仕 舞)	1	1	1	1	1	1	1	1							8		
	(能楽囃子) 基礎理論	1	1	1	1	1	1	2	2							10		
	能 楽 器 論					1										1		
副 専 攻 科 目	ピ ア ノ	1	1	1	1											4	21	
	ソルフエージュ	2		2												4		
	合 唱			1												1		
	東洋音楽史			4												4		
	邦 楽 概 論					4									4			
	国 語					4									4			
卒演	卒業演奏								4						4	4		

一般教育科目

系 列	科 目 名	単 位	成 績	年 度	単 位 計
人 文 科 学	○音楽美学	4			4
	日 本 文 学	4			8
	美 術	4			
	西 洋 文 学	4			
	倫 理	4			
	哲 学	4			
社 会 科 学	○音楽史概説	4			4
	法 学	4			8
	歴 史	4			
	文 化 史	4			
自 然 科 学	心 理	4			12
	自 然 科 学 (物理・化学)	4			
	生 理	4			
	音 響 学	4			

○印は必修科目である。

外 国 語（一般8・専門0単位）

科 目	年次 期	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		単 位 計
		前	後	前	後	前	後	前	後	
英 語		4		4						8
独 語		4		4						
仏 語		4		4						
単 位		4		4						

音 楽 理 論

学 年	科 目 名	単 位	成 績	年 度
1 年次	和 声 初 級	2		
2 年次	和 声 中 級	2		
3 年次	和 声 上 級	2		
	楽 式 論	2		
単位計 8 単位				

体 育 科 目

科 目 名	単 位	成 績	年 度	計
講 義	2			4
実 技	2			

（『東京芸術大学音楽学部 昭和44年度入学生用 履修案内』8, 9, 18, 22頁）

昭和45年度、46年度

昭和45年度には、専攻に関する科目がこれまで「専攻科目」と「副専攻科目」に分類されていたのが、「専門教育科目」中の「主要学科目」ならびに「関連学科目」と名称が変更される。「主要学科目」は従来別枠になっていた「卒業演奏」と、新たに増設された「学内演奏」を含むことになる。また、「音楽理論」は科目が増えて選択方法が変わり、ソルフェージュはグレード制となる。

46年度には、前年度「主要学科目」と「関連学科目」に変更された専門科目の枠組が、「主要学科目」と「関連学科目」、「選択関連学科目」とに分けられる。またそれまで「一般教育科目」に含まれていた「基礎教育科目」が独立し、「一般教育科目」と「基礎教育科目」に分けられる。

この2年間で整えられたカリキュラムが、昭和62年度までほぼ継続されている。

以下に昭和45年度、46年度のカリキュラムを掲載する。

1. 卒業に要する各授業科目別最低単位数について

授 業 科 目 名	単 位 数 (修得方法の概要)	単位総計
一 般 教 育 科 目 (含基礎教育科目)	36単位 (人文・社会・自然の各系列共3科目12単位、合計9科目36単位を修得する 但し、基礎教育科目として指定された科目は2科目8単位を限度とする)	124単位 以上
一般外国語科目	8単位 (1種類の外国語で修得する)	
保 健 体 育 科 目	4単位 (講義2単位・実技2単位)	
専 門 教 育 科 目 (含専門外国語)	76単位 (主要・関連科目と専門外国語の単位の うち定められた科目を修得する)	

※ 上記の表に示すとおり大学に4ヶ年在籍して、所定の124単位以上を修得した場合「卒業証書」が授与され「芸術学士」の資格が与えられる。なお、中学校、高等学校の音楽科教員免許状を取得しようとする者は上記の表に示す124単位の他に4頁〔本書99頁〕に示す「教職に関する専門科目」と各専攻科別のカリキュラムの表に示す「教科に関する専門科目」の所定科目の単位をそれぞれ取得しなければならない。

2. 単位の授与と授業の方法について

- ◎ 本学における授業は講義・演習・実技・実習のいずれかにより行われ、学生は履修しようとする科目について毎学年の始め、定められた期間内に履修届（6頁〔本書102頁〕の「履修手続」の項参照）をしなければならない。
- ◎ 一般教育科目（含む、基礎教育科目）の単位は1科目について前期後期の通年に亘って週1回（1コマ＝2時間）の講義形式の授業に出席し、学年末試験に合格したものについて4単位（但し、基礎教育科目は半期で2単位制の科目があるがこの科目を一般教育科目とする場合は前期2単位と後期の2単位を加え4単位としなければ一般教

育科目として認定されない) が与えられる。

- ◎ 外国語科目の単位は1科目(同一科目番号)について前期・後期の通年に亘って週2回(2コマ=4時間)の授業で4単位(但し、上級の一部の科目は週1回, 通年2単位のものがある) が与えられる。
- ◎ 保健体育科目の単位は4頁(本書99頁)に示された方法によって履修のこと。
- ◎ 専門教育科目の単位は4頁(本書100頁)以降に示された各科のカリキュラムにより主要学科目・関連学科目の所定科目を各学年に履修した者に所定の単位が与えられる。
- ◎ 本学が行う各授業科目の単位算出基準は学則第48条の2によるが各科目ともそれらの受験資格は原則として当該科目の授業時数の2/3以上出席しなければならない。
但し、合奏・合唱授業は正当な理由なく2回以上無届欠席した場合は失格とする。

3. 一般教育科目(含む基礎教育科目)の履修について

系列	科目名		単 位			
	科	目	単	位		
人文科学（○印は基礎教育科目）	美	学	4	3 科目 12 単位	合計 9 科目 36 単位	
	日	本 文 学	4			
	美	術	4			
	西	洋 文 学	4			
	○ 哲	学 (A)	4			
	哲	学 (B)	4			
	宗	教 学	4			
	邦	楽 鑑 賞 法	4			
	○ 作家・作品研究 (前・後)		4			
	○ 音楽思想史 (前・後)		4			
	○ 現代と音楽 (前・後)		4			
	○ 邦楽概論 II (前・後)		4			
	○ 文化芸術論 (美術学部開講)		4			
社会科学	法	学 (日本国憲法)	4	3 科目		
	歴	史	4			
	文	化 史	4			
	○ オラトリオ・リート史 (前・後)		4			
(含む基礎教育科目)	○印は基礎教育科目	○ オ	ペ ラ 史 (前・後)	4	12 単位	
		○ 鍵 盤 音 楽 史 I (前・後)	4			
		○	〃 II (前・後)	4		
		○ 管 弦 楽 史 (前・後)	4			
		○ 室 内 楽 史 (前・後)	4			
		○ 音 楽 理 論 史 (前・後)	4			
		○ 邦 楽 概 論 I (前・後)	4			
	自然科学（○印は声楽科必修）	心	理	4	3 科目 12 単位	
		自	然 科 学	4		
		音	響 学	4		
		○ 音	声 学	4		
		科 学 哲 学 (情報理論)	4			
楽	器 学	4				

- ◎ 一般教育科目は左表にあげられた人文・社会・自然の3系列があり、その履修方法はそれぞれの系列から3科目ずつ選択し、合計9科目(36単位)以上を修得しなければならない。

但し、○印のある科目は音楽に直接関連のある基礎教育科目であり前期で完結する2単位の科目は後期も引続いて2単位を履修し、併せて4単位を一般教育科目1科目とすることができる。その場合前・後期の組合せは次のとおりとする。

組合せ	前期（2単位）（内容）	後期（2単位）（内容）
人文	作曲家・作品研究 （声楽）	作曲家・作品研究 （声楽）
〃	〃 （鍵盤）	左 同 （鍵盤）
〃	〃 （管弦）	〃 （管弦）
〃	音楽思想史 （古典派まで）	〃 （ロマン派以後）
〃	現代と音楽	〃
〃	邦楽概論Ⅱ （能楽概論）	〃 （日本音楽理論）
〃	邦楽概論Ⅰ （三味線音楽史）	〃 （三曲史）
社会	オラトリオ・リート史 （オラトリオ）	左 同 （リート）
〃	オペラ史（イタリア）	〃 （独・仏等）

組合せ	前期（2単位）（内容）	後期（2単位）（内容）
社会	鍵盤音楽史Ⅰ （バロック古典派）	左 同 （ロマン派初期）
〃	〃 Ⅱ （ロマン派後期）	〃 （近代・現代）
〃	管弦楽史 （ロマン派初期まで）	〃 （つづき）
〃	室内楽史 （ 〃 ）	〃 （つづき）
〃	音楽理論史 （古典派まで）	〃 （ロマン派以後）

- 1頁（本書95頁）の表の中にも記載されているが、基礎教育科目は8単位を限度として一般教育科目に振り替えることができる。
それ以上に履修した基礎教育科目については、カリキュラムに組み込まれている単位は専門教育科目の単位となるがそれ以外の単位は自由選択として扱う。

- ◎ 中学、高校の音楽教科の教育免許状を取得しようとする者は人文系列の科目として哲学・宗教学及び倫理のいずれか1科目（4単位）を3科目のうちに含めなければならない。また同様に社会系列の科目として法学（憲法を含む）4単位を含めなければならない。
なお人文系列の中に邦楽鑑賞法（4単位）を履修することが望ましい。
- ◎ 声楽科の学生は自然系列の必修科目として音声学（4単位）を3科目のうちに含めなければならない。
- ◎ 一般教育科目の履修計画は毎学年始め発表される授業時間割表と専門教育科目としての学科・クラス授業・個人レッスンとの授業時間の調整を充分計画した上、各学年に配当し、4年次までに無理のないように履修することが肝要である。従って卒業学年である4年次を除いて第3年次までに修得し終えることが望ましい。
- ◎ 美術学部開設科目のうち哲学A・哲学B・文化芸術論の3科目は時間表に掲載したとおり音楽学部学生が美術学部に行って受講出来る交流科目である。楽理科については別に楽理科教官の指示により美術学部開設科目を受講できる。

4. 外国語科目の履修について

1. 外国語は次の種類と級がある。

開設科目名	各 ク ラ ス		
英 語	初 級	中 級	上 級
独 語	〃	〃	〃
仏 語	〃	〃	〃
伊 語	〃	〃	〃
露 語	〃	〃	〃

※ 外国語の単位は授業時間割表A，開設科目表Cで定めた同一科目番号の授業（週2回）を1年間（前，後期）受講することによって4単位が与えられる。但し，上級のうち週1回の授業のものは附与する単位は2単位である。

※ 一般外国語・専門外国語の区別は単位上（カリキュラム上単位の所属区分）の扱いであり授業上クラス区分はしていない。

2. 履修方法（声楽科の履修方法は第「D」項による。）

A 一般外国語

各科カリキュラム所定の種類の外国語のうち1科目につき中級まで（初級4単位，中級4単位，計8単位）を必修とし，これを一般外国語として扱う。

B 専門外国語

各科カリキュラム所定の単位数を修め，そのうちの8単位を上記のごとく一般外国語として扱い，それ以外の履修分は専門外国語の単位として専門科目の76単位のうちに含まれる。

C 履修上の注意

イ 初級，中級においては同一外国語の同一クラスを2度履修しても，その単位は認めない，但し上級の単位に限り重ねることができる（楽理科の上級は一年4単位，その他の科の上級は2単位の授業である。）

ロ 中級，上級は夫々，初級中級の単位を修得した者でなければ修得できない。但し，初級以上の実力のある者は，担当教官の認定（単位は認定されない）を受けて最初から中，上級を履修することが出来る。この場合単位数の不足が生じるから注意すること。

D 声楽科における外国語科目の履修方法はつぎのとおりとする。

1) 履修単位数

系 列	必修選択単位	合 計
一般外国語科目	8 単 位	声楽専攻者20単位 オペラ専攻者16単位
専門外国語科目	声楽専攻者12単位 オペラ専攻者8単位	

2) 履修方法

開設科目	開設クラス・単位数			一般外国語 (1科目8単位)	専門外国語 (2科目) 声楽専攻者12単位 オペラ専攻者8単位	
	初級	中級	上級		第1専門外国語 (4単位)	第2専門外国語 (声楽専攻者8単位 オペラ専攻者4単位)
独語	4	4	4	左記3科目(種別)のうちいずれか1科目を選択し、初級(4単位)中級(4単位)合わせて8単位を必修する。	一般外国語として選択履修した科目と同一科目の上級(4単位)を必修する。	一般外国語及び第1専門外国語として選択履修した科目以外の外国語を選択し、「声楽専攻者」は初級(4単位)及び中級(4単位)を必修し、「オペラ専攻者」は初級(4単位)を必修する。
仏語	4	4	4			
伊語	4	4	4			
露語	4	4				

(註) 声楽科においては、「英語」の単位は自由選択科目とし、一般外国語、専門外国語の必修単位としない。(卒業の要件である124単位のうちに含めない)

5. 保健体育科目の履修について

体育科目は講義と実技とに分れ、講義は半年(4月～9月)又は(10月～2月)の授業であり、2単位が与えられる。(45年度の講義は集中講義を行う予定である。)

実技は卒業迄に90時間以上出席履修した者に2単位が与えられる。尚、1年次の間に履修して置くことが望ましい。(6頁〔本書102頁〕参照のこと)

6. 教職志望者の科目履修について

本学卒業後、教員免許状取得(中学一級、高校二級教員免許状が与えられる)を希望する者は在学中次の各号に示す教職、教科に関する所定の単位と下記C・D項に示す一般教育科目を必ず修得しなければならない。

(注) 下記表のA、B単位は各科所定のカリキュラム(124単位)の外に取得すること

A 教職に関する専門科目

科目名	教育原理	教育心理 (含青年心理)	音楽教育法	音楽教育実習	道德教育の研究
単位数	2	2	2	2	2
合計	10単位				

B 教科に関する専門科目

「教科に関する専門科目」は各科のカリキュラムに指定された科目を付加履修すること。

(注)

※独唱、器楽は在学中随時年次に履修すれば良い。(1カ年2単位)

※指揮法の2単位は3・4年次の何れかで履修すれば良い。(1カ年2単位)

※管打学生で副科合唱(週1回)を履修する者は3年・4年の2年間(2単位)履修する。

- C 法学：一般教育科目中「法学」（憲法 2 単位を含む）を必ず修得すること。
- D 哲学又は倫理学および宗教学：一般教育科目中「哲学(A)」「哲学(B)」・「宗教学」のうちいずれか 1 科目（4 単位）を必ず修得すること。
- E 一般教育科目の中で「邦楽鑑賞法」を履修することが望ましい。

7. 専門教育科目（含む専門外国語）の履修について

専門教育科目の単位は別表に示す各科カリキュラムの主要・関連科目と専門外国語の所要科目と単位を修得すること。

1. 個人レッスン

- イ 主要学科目（専攻実技）については原則として毎週 1 時間、但し作曲科については理論（クラスレッスン）2 時間、実技 2 時間（1 回～2 回）の個人レッスンを受け、学期末試験に合格すれば所定の単位が与えられる。（当該実技レッスン中に、楽曲分析、基礎理論等を行うので、特別に時間割を組んで行わない。）
- ロ 関連学科目中の実技については毎週 1 回の個人レッスンを受ける。副科ピアノ及びチェンバロは 1 期 1 単位その他は 1 年 2 単位。
- ハ 関連学科目中の副科実技の履修を希望するときは所定の手続を経て願い出ること。
出願期は毎年 11 月末頃である。教官に直接申し込んでも履修することは認められない。
- ニ 関連学科目の副科実技（ピアノを除き）は、2 年生になってから履修を認める。履修申込は入学した年の 11 月行う。
- ホ 関連学科目の副科実技で履修できる範囲内は個人レッスンのものは原則として 1 学年当たり 1 科目とする。但し作曲科、指揮科、楽理科については別途指示する。
- ヘ 申し込んだ副科実技について無断でレッスンを受けない場合、又はレッスンを受けても無断で試験を受けない場合、その科目についての成績は「不可」とする。

2. 音楽理論（作曲・楽理を除く）

各科共下記のコースによって履修する。

科 目	履修年次	期 間	単 位
★) 和 声 (初 級)	1 年次必修	通 年	4
和 声 (中 級)	2 年次 ～	〃	4
対 位 法	2 年次～ 3 年次迄	〃	4
管 弦 楽 法	〃	1 期 前期又 は後期	2
楽式原論 (講義)	〃	通 年	4
★★) 楽曲分析 (〃)	〃	各 1 期	2

〔備考〕

◎和声(初級) 4 単位のみ必修、
 その他は選択必修 4 単位、合
 計 8 単位が最低要求、それ以
 上取得した単位は、科によっ
 ては他の専門科目に代替する
 こともあり得るがその場合は
 当該科の指定によるものとす
 る。

◎和声・対位法・管弦楽法の授
 業は実技形態とする。

★) 和声(上級)は自由選択

★★) 楽曲分析の内容…「1・2・3 部形式」「変奏曲形式」「ソナタ形式」「ロンド形式」「カノン及
 びフーガ」「組形式一般」(ソナタ・室内楽・シンフォニー・コンチェルト・
 交響詩曲その他)

3. ソルフエージュ

グ レード	単位 週 2 回 通 年	履 修 方 法
E 級 (第 1 段階)	2 単 位	※ 作曲・器楽・楽理は左のグレードのうち指定された級 (段階) を第 1 年 (2 単位)・第 2 年次 (2 単位) の合計 4 単位を必修とする。 ※ 声楽は左のグレードのうち指定された級 (段階) を第 1 年次、から第 4 年次まで合計 8 単位を必修とする。 ※ グレードによるソルフエージュの授業は同一級に週 2 回出席すること。
D 級 (第 2 段階)	2 〃	
C 級 (第 3 段階)	2 〃	
B 級 (第 4 段階)	2 〃	
A 級 (第 5 段階)	2 〃	

4. 合奏……ピアノ・弦・管打のカリキュラム欄参照。

5. 卒業作品, 卒業演奏, 卒業論文, 学内発表

イ 卒業作品 (作曲科) の 4 単位は卒業年次の特定の期日迄に作品を提出, 合格しなければ与えられない。

ロ 卒業論文 (楽理科), 作曲科に準ずる。

ハ 卒業演奏 (声楽, 器楽, 指揮, 邦楽各科) の 4 単位は卒業年次の最終専攻実技の試験に合格することにより与えられる。

ニ 学内発表, 作曲・声楽・指揮 (3 年次, 4 年次)・器楽・邦楽各科の学生は 4 年次に於て, 学内発表を必ずしなければならない。但し器楽科ピアノ専攻者は 3 年次において実施する。

8. 卒業特別作品, 演奏, 論文発表

卒業年次に於て, 特定の試験に合格した場合に, 学内又は学外に於て発表する機会が与えられる。但し, 単位は与えない。

9. 保健体育科目の履修について

- 1. 必要単位
講義 2単位 (30時間) 実技 2単位 (90時間)
- 2. イ 講義は集中講義 (9月実施) の予定
ロ 実技は体育教室 (音楽学部1号館前) において主として舞台芸術の基礎としての体操を行う。入学した初年度に必ず取得すること。
- 3. 授業時間割

	12.40～14.05	14.10～ 15.35
月 曜	声 楽	楽 理 ・ 邦 楽
木 曜	弦 楽 ・ 管 打 楽	作 曲 ・ P ・ Org ・ 指 揮

(注) どうしても上の表の通りに出席出来ない者は4月12日 (土) までに体育教官室に申し出て指示を受けること。

- 4. 服 装
運動用のシャツ・ズボンを着用すること。
(注) 詳細は第1回の授業の時説明する。
※第1回の授業には指定された授業時間に必ず出席すること。通常服のままでよい。
月曜のクラス…………… 4月13日
木曜のクラス…………… 4月16日
病気等で出席不可能と思われる者も第1回の授業には必ず出席し直接教官の指示を受けること。

10. 履修手続について

昭和45年度の履修届は昭和45年4月7日 (火) ～15日 (木) の間に行うこと。その際「履修規程」をよく読んで、1年次に履修しようとする学科目等をよく検討して無理のない履修計画を立て、「履修記録簿」にきれいに記入して提出すること、またこの履修記録簿は学年末の成績通知表をも兼ねる大切な原簿であるので各自必ず所定期間内に提出すること。所定期間内に提出のない者にはその年度の履修は一切認めない。

作曲科 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目	授業科目	年次	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数		
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専門教育科目 (専門外国語科目を除く)	主要 学 科 目	作 曲 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	49	76
		作 曲 理 論	2	2	2	2	2	2	2	2	16		
		学 内 作 品 発 表							5	5			
		卒 業 作 品							4	4			
	関 連 学 科 目	ピアノ実技(含合奏)	1	1	1	1	1	1			6	27	
		ソルフェージュ		2		2					4		
		合 唱				1					1		
		指 揮 法						2			2		
		スコアリーディング							4		4		
		音 楽 史	4								4		
		任意の基礎教育科目 又 は 外 国 語	6								6		

※ 自由選択科目として「実技科目」の履修を希望する場合は各年度に発表される履修届方法によること。

※ 3年次でピアノのかわりにチェンバロを履修してもよい。但しピアノの併修は認めない。

※ 関連学科目の「任意の基礎教育科目又外国語」について、外国語で履修する者は一般外国語で取得した以外の種類とする。

外国語科目（専門を含む）	英 語	4	4				} 8	一 専 般 門 8 0 単 単 位 位
	独 語	4	4					
	仏 語	4	4					
								合 計 8 単 位

卒業後教職を志望する者は教員免許状の授与を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として上記専門科目の他に次の科目を付加修得のこと。	科目	合唱	声楽			合計
	単位	3年次 1	3年次 2			3単位

（注）「一般教育科目」・「保健体育科目」ならびに教職志望者の「教職に関する専門科目」の履修方法については4頁〔本書99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

卒業要件として修得すべき 総単位数（124単位）	
内 訳	
一般教育科目	36単位
外国語科目	8 "
保健体育科目	4 "
専門教育科目	76 "

声 楽 科 (声楽) 専攻 教育課程 (カリキュラム) ・ 修得単位年次配当表 (45年 4 月入学生用)

科目	授業科目	年次	1 年次 (45年度)		2 年次 (46年度)		3 年次 (47年度)		4 年次 (48年度)		修得単位数					
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計			
専門教育科目（専門外国語科目を除く）	主要 学 科 目	声 楽 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	44	68			
		ソ ル フ ェ ー ジ （コールシュール含む）	1	1	1	1	1	1	1	1	1			8		
		指 揮 法					1	1						2		
		合 唱	1	1	1	1								4		
		卒 業 演 奏（声楽）								4				4		
		学 内 演 奏							2					2		
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ（合奏含む）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		24		
		選	オ ラ ト リ オ					2		2		4				
		択	オペラ総論演習					2								
		音 楽 史	4								4					
		音 楽 理 論	和 声 学（初級）	4								4			4	
			〃（中級）	4												
			対 位 法	4												
			管 弦 楽 法	2（各期）												
			楽 式 原 論	4												
			楽 曲 分 析	2（各期）												

外 国 語 科 目 (専 門 を 含 む)	独 語	4	4	4		20	一 専 般 門 8 12 単 単 位 位
	仏 語	4	4	4			
	伊 語	4	4	4			
	露 語	4	4				
							合 計 20 単 位

卒業後教職を志望する者は教員免許状の授与を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として上記専門科目の他に次の科目を付加修得のこと。	科目	合唱				合計
	単位	2 3 年次				2 単位

(注) 「一般教育科目」・「保健体育科目」ならびに教職志望者の「教職に関する専門科目」の履修方法については 4 頁〔本書99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

卒業要件として修得すべき 総 単 位 数 (128単位)	
内 訳	(一般教育科目 36単位 外国語科目 8 〃 保健体育科目 4 〃 専門教育科目 80 〃

声 楽 科 (オペラ) 専攻 教育課程 (カリキュラム) ・ 修得単位年次配当表 (45年 4 月入学生用)

科目		授業科目	年次		1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数		
			期別		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専 門 教 育 科 目 (専 門 外 国 語 科 目 を 除 く)	主 要 学 科 目	声 楽 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	52	74		
		ソ ル フ ェ ー ジ	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		合 唱 指 揮 法					1	1			2				
		合 唱	1	1	1	1					4				
		オ ペ ラ 総 論 演 習					2				2				
		オペラ基礎演習(1)					2				2				
		オペラ基礎演習(2)							2		2				
		オペラ演技演出論演習							2		2				
		学 内 演 奏							2		2				
	卒 業 演 奏 (声 楽)								4	4					
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ (含 合 奏)	1	1	1	1	1	1	1	1	8	22			
		音 楽 史	4								4				
		舞 台 語 発 音 法							2		2				
		和 声 学 (初 級)	4								4				
		〃 (中 級)	4								4				
		対 位 法	4												
		管 弦 楽 法	2 (各期)												
		楽 式 原 論	4												
		楽 曲 分 析	2 (各期)												

外 国 語 科 目 (専 門 を 含 む)	独 語	4	4	4		16	一 専 般 門 8 8 単 単 位 位 合 計 16 単 位
	仏 語	4	4	4			
	伊 語	4	4	4			
	露 語	4	4				

卒業後教職を志望する者は教員免許状の授与を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として上記専門科目の他に次の科目を付加修得のこと。	科目	合唱				合計
	単位	2 3 年次				2 単位

(注) 「一般教育科目」・「保健体育科目」ならびに教職志望者の「教職に関する専門科目」の履修方法については 4 頁〔本書99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

卒業要件として修得すべき 総 単 位 数 (130単位)	
内 訳	
一般教育科目	36単位
外国語科目	8 〃
保健体育科目	4 〃
専門教育科目	82 〃

器 楽 科 ピアノ専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目		授業科目	年次 期別	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数			
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計	
専門 教育 科目 (専門外国語科目を除く)	主要 学 科 目	ピアノ実技	3	3	3	3	3	3	3	3	3	24	54	76	
		演奏理論楽曲分析	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
		合奏	2		2		2		2		8				
		伴奏	2		2		2		2		8				
		学内演奏					2				2				
		卒業演奏(ピアノ)							4		4				
	関 連 学 科 目	ソルフェージュ	2		2							4	22		
		合唱	1		1							2			
		音楽史	4								4				
		任意の基礎教育科目 又は外国語およびチ ェンバロ・オルガン	4								4				
		音 楽 理 論	和声学(初級)	4											4
			〃(中級)	4								4			
			対位法	4											
			管弦楽法	2(各期)											
			楽式原論	4											
			楽曲分析	2(各期)											

※ 関連学科目の「任意の基礎教育科目又は外国語およびチェンバロ・オルガン」の履修について、外国語で履修する者は一般外国語で取得した以外の種類とする。またチェンバロ・オルガンの履修は3年次以上に限定する。

外国語科目（専門を含む）	英 語	4	4			8	専門 一般 8 単 位
	独 語	4	4				
	仏 語	4	4				
							合計 8 単 位

卒業後教職を志望する者は教員免許状の授与を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として上記専門科目の他に次の科目を付加修得のこと。	科目	独唱	指揮法			合計
	単位	2	2			4 単位

(注) 「一般教育科目」・「保健体育科目」ならびに教職志望者の「教職に関する専門科目」の履修方法については4 頁〔本書99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

卒業要件として修得すべき 総 単 位 数 (124単位)	
内 訳	一般教育科目 36単位
	外国語科目 8 〃
	保健体育科目 4 〃
	専門教育科目 76 〃

器 楽 科 オルガン専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目		授業科目	年次 期別	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数				
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計		
専 門 教 育 科 目 (専 門 外 国 語 科 目 を 除 く)	主 要 学 科 目	オルガン実技	3	3	3	3	3	3	3	3	3	24	45	76		
		基礎理論・楽曲分析	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		演奏理論	2	2								4				
		オルガン合奏理論				1		1		1		3				
		学 内 演 奏								2		2				
		卒業演奏(オルガン)								4		4				
	関 連 学 科 目	ピアノ(含合奏)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		31	
		ソルフェージュ		2		2							4			
		合 唱				1							1			
		指揮法					1	1					2			
		音楽史	4										4			
		任意の基礎教育科目 又は外国語	4										4			
		和声学(初級)	4													4
		音 〃 (中級)	4													
		対 位 法	4													
		管 弦 楽 法	2 (各期)										4			
		楽 式 原 論	4													
		楽 曲 分 析	2 (各期)													

※ 3・4年次でピアノのかわりにチェンバロを履修してよい、但しピアノの併修は認めない。

※ 「オルガン合奏理論」は集中講義で行う。

※ 関連学科目の「任意の基礎教育科目又は外国語」について、外国語で履修する者は一般外国語で取得した以外の種類とする。

外国語科目(専門を含む)	英 語	4	4			8	一 般 専 門 8 0 単 位 単 位
	独 語	4	4				
	仏 語	4	4				
							合 計 8 単 位

卒業後教職を志望する者は教員免許状の授与を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として上記専門科目の他に次の科目を付加修得のこと。	科目	合唱	独唱			合計
	単位	1	2			3 単位

(注) 「一般教育科目」・「保健体育科目」ならびに教職志望者の「教職に関する専門科目」の履修方法については4頁〔本書99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

卒業要件として修得すべき
総 単 位 数 (124単位)

内 訳	一般教育科目	36単位
	外国語科目	8 〃
	保健体育科目	4 〃
	専門教育科目	76 〃

器 楽 科 弦楽専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目	授業科目	年次	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数			
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計	
専門 教育科目（専門外国語科目を除く）	主要 学 科 目	実 技（ ）	3	3	3	3	3	3	3	3	24	54	76	
		弦 楽 演 奏		4							4			
		室 内 楽		4							4			
		オ ー ケ ス ト ラ				4		6		6	16			
		学 内 演 奏								2	2			
		卒 業 演 奏（ ）								4	4			
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ	1	1	1	1					4	22		
		ソ ル フ ェ ー ジ		2		2					4			
		音 楽 史	4								4			
		任意の基礎教育科目 又 は 外 国 語	2											2
		和 声 学 (初級)		4										4
		〃 (中級)	4											4
		対 位 法	4											
		管 弦 楽 法	2 (各期)											
		楽 式 原 論	4											
楽 曲 分 析	2 (各期)													

※ 「室内楽」について2年次以上は自由選択科目とし、希望者は年度当初所定の手続を取れば履修出来る。

外国語科目(専門を含む)	英 語	4	4			8	専 門 0 単 位 一 般 8 単 位
	独 語	4	4				
	仏 語	4	4				
							合 計 8 単 位

卒業後教職を志望する者は教員免許状の授与を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として上記専門科目の他に次の科目を付加修得のこと。	科目	合唱	独唱	指揮法		合計
	単位	2	2	2		6 単位

(注) 「一般教育科目」・「保健体育科目」ならびに教職志望者の「教職に関する専門科目」の履修方法については4頁〔本書99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

卒業要件として修得すべき 総 単 位 数 (124単位)	
内 訳	(一般教育科目 36単位 外国語科目 8 〃 保健体育科目 4 〃 専門教育科目 76 〃

器 楽 科 管打専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目	授業科目	年次	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数		
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専門教育科目 (専門外国語科目を除く)	主要学 科目	実 技 ()	3	3	3	3	3	3	3	3	24	58	80
		オーケストラ			6	6	4	20					
		管 打 合 奏	4										
		必修	管 打 合 奏				4	8					
		修 択	室 内 楽			4	4						
		学 内 演 奏					2	2					
		卒 業 演 奏 ()					4	4					
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ (含合奏)	1	1	1	1					4	22	
		ソ ル フ ェ ー ジ		2		2					4		
		和 声 学 (初級)		4							4		
		〃 (中級)				4					4		
		対 位 法				4							
		管 弦 楽 法				2 (各期)							
		楽 式 原 論				4							
		楽 曲 分 析				2 (各期)							
		音 楽 史			4						4		
	任意の基礎教育科目・ 外国語および特殊研究				2					2			

※ 関連学科目の「任意の基礎教育科目・外国語および特殊研究」について、「特殊研究」（3 年次以上とする）で履修する者は大学院授業「器楽特殊研究第 5」（吉田教官担当）を履修すること。

※ 「学内演奏」については専攻楽器の独奏を原則とするが、必修選択科目で 3・4 年次で室内楽を履修した者は、室内楽担当教官の許可を得て、学内演奏を室内楽で行ってもよい。

外国語科目（専門を含む）	英 語	4	4			8	一 般 専 門 8 単 位 合 計 8 単 位
	独 語	4	4				
	仏 語	4	4				

卒業後教職を志望する者は教員免許状の授与を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として上記専門科目の他に次の科目を付加修得のこと。	科目	合唱	独唱	指揮法		合計
	単位	2	2	2		6 単位

（注）「一般教育科目」・「保健体育科目」ならびに教職志望者の「教職に関する専門科目」の履修方法については 4 頁〔本書 99 頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

卒業要件として修得すべき 総 単 位 数（128 単位）	
内 訳	一般教育科目 36 単位
	外国語科目 8 〃
	保健体育科目 4 〃
	専門教育科目 80 〃

指揮科 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目	授業科目	年次	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数				
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計		
専門 教育科目 (専門外国語科目を除く)	主要 学 科 目	指揮実技（スコア・リーディング含む）	3	3	3	3	3	3	3	3	24	32	68		
		指 揮 学 内 演 奏					2		2	4					
		卒 業 演 奏（指揮）							4	4					
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ(含合奏)	1	1	1	1	1	1	1	1	8	36			
		管弦打楽器実技	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		ソルフェージュ(指揮科)		2		2					4				
		声 楽			1	1					2				
		合 唱	1	1							2				
		音 楽 史	4								4				
		和声学(初級)	4											4	
		〃 (中級)	4											4	
		対 位 法	4												
		管 弦 楽 法	2 (各期)												
		楽 式 原 論	4												
		楽 曲 分 析	2 (各期)												

※ ソルフェージュは指揮科で開設するものを履修すること。

※ 関連学科目「管弦打楽器実技」の履修は指揮実技担当教官の指示により専攻楽器を選ぶこと。

外国語科目(専門を含む)	英 語	4	4	2		16	専 門 一 般 8 単 位 位
	独 語	4	4	2			
	仏 語	4	4	2			
							合 計 16 単 位
	※ 外国語科目の「専門外国語」8単位のうち「任意の基礎教育科目」で4単位まで履修習得してもよい。						

卒業後教職を志望する者は教員免許状の授与を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として上記専門科目の他に次の科目を付加修得のこと。	科目				合計
	単位	履修の必要なし			単位

(注)「一般教育科目」・「保健体育科目」ならびに教職志望者の「教職に関する専門科目」の履修方法については4頁〔本書99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

卒業要件として修得すべき 総 単 位 数 (124単位)	
内 訳	
一般教育科目	36単位
外国語科目	8 〃
保健体育科目	4 〃
専門教育科目	76 〃

楽 理 科 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

年 次 授業科目		1 年次（45年度）		2 年次（46年度）		3 年次（47年度）		4 年次（48年度）		単位	単位	単位		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計		
必修科目 専攻科目	音 楽 学 概 説	4	4	4	4					20				
	音 楽 学 実 習					1	1	1	1					
選 択 必 修 専 攻 科 目 （8科目中3科目を選ぶ）	音 楽 美 学	講義 ----- 演習	4 2	6						18	48	64 5 70		
	民 族 音 楽 学	講義 ----- 演習	4 2	6										
	音 響 学	講義 ----- 演習	4 2	6		※ 昭和45年度は開講しない。								
	日 本 音 楽 史 Ⅰ	講義 ----- 演習	4 2	6		★ Ⅰ 奇数年（古代・中世）								
	日 本 音 楽 史 Ⅱ	講義 ----- 演習	4 2	6		★ Ⅱ 偶数年（近世以降）								
	東 洋 音 楽 史	講義 ----- 演習	4 2	6										
	西 洋 音 楽 史 Ⅰ	講義 ----- 演習	4 2	6										
	西 洋 音 楽 史 Ⅱ	講義 ----- 演習	4 2	6										
	西 洋 音 楽 史 Ⅲ	講義 ----- 演習	4 2	6										
選 択 科 目	基 礎 教 育 科 目	前・後の各期で各2										10		
	特 殊 講 義	各2 ☆☆☆												
	大学院音楽学専門課程開設授業科目	通年で各4												
	研 修 旅 行	2												
	卒 業 論 文	4												
必修実技科目	ソルフェージュ	2		2						6				
	合 唱	1		1										
選択実技科目	声 楽 ・ 器 楽 雅 楽 演 奏 西 洋 古 楽 演 奏 スコアリーディング	10～16（1年次で器楽ピアノ実技は全員履修するものとする）										10 5 16	16 5 22	

外国語（一般8 専攻4～14）合計 12 ～ 22 単位

科 目	単 位	単 位 合 計
英語, 独語 仏語, 伊語 羅語, 露語	このうち1つを8 任意に4～14	12 } 22
国語（古文・古文書研究）		

音楽理論 8 ～16 単位

科 目	単 位	単 位 合 計
和声初級	4	8 } 16
和声中級	4	
対位法	4	
音楽形式学	4	
楽式原論	4	
管弦楽法	2（各期）	
楽曲分析	2（各期）	

一般教育科目

科 目	単 位	単 位 合 計
人文系列	12	36 36単位のうち8単位まで基礎教育科目のうちから 取得できる。 ★ ★
社会系列	12	
自然系列	12	

体育科目

科 目	単 位	
講義	2	4
実技	2	

教科に関する専門科目

教職志望者はカリキュラム指定の「選択実技科目」の科目から下表の科目を履修すること。

科 目	声 楽	器楽（合奏を含む）スコアード デング西洋古楽器演奏を含む	指揮法概論
単位数	4又は6	4又は6 （但し選択実技科目として 上記科目単位を履修した 場合は履修しなくてよい）	2

★ 日本音楽史はⅠ、Ⅱを奇数年次と偶数年次にわけて交替する。8科目中3科目を選ぶ際に、ⅠとⅡはそれぞれ別の科目として取扱うので、その両者を取得すれば2科目とする。

★★ 基礎教育科目のうち、一般教育科目の単位として取得する場合は、人文、社会、自然の3系列の枠内で、しかも前期・後期を通じて1科目4単位とする。ただ基礎教育科目から一般教育科目への読みかえは、8単位を限度とする。

★★★ 特殊講義＝美術学部開講授業のうち必要なものを認める。

楽理科カリキュラム履修法について

楽理科のカリキュラムは、昭和45年度より大幅に改定されたが、原則として、1年生（昭和45年度生）2年生（昭和44年度生）は新カリキュラム、3年生（昭和43年度生）4年生（昭和42年度生）は旧カリキュラムに従う。各々の学年についての注意事項は以下の通り。なお、□印は旧カリキュラム、□印は新カリキュラム。

I 1年生（昭和45年度生）

全面的に新カリキュラムに従う。

II 2年生（昭和44年度生）

新カリキュラムに従い、旧カリキュラムによる既得の科目と単位を次のように新カリキュラムに読みかえる。

- (イ) 〈音楽学概説〉（2単位）と〈楽書講読〉（2単位）を、□音楽学概説（1年次前期）（4単位）とする。なお□音楽学概説 1年次の後期分は3年次の前期または後期に履修すること。
- (ロ) 〈音楽美学〉は□音楽美学講義，〈東洋音楽史〉は□東洋音楽史・講義，〈音楽史概説〉□西洋音楽史Ⅰ・講義にそれぞれふりかえる。

III 3・4年生（昭和43・42年度生）

旧カリキュラムに従い、新カリキュラムを次のように旧カリキュラムに読みかえる。ただし、外国語・音楽理論・卒業論文に関しては新カリキュラムに従うこと。

- (イ) 〈特殊講義〉（4単位）は、選択科目および□音楽学概説のうちから履修する。
- (ロ) 〈日本音楽史〉（4単位）は、□西洋音楽史Ⅰ □西洋音楽史Ⅲ □日本音楽史の講義のうちから任意に選んで履修する。
- (ハ) 〈演習Ⅰ〉は□選択必修専攻科目の演習のうちから任意に選んで履修する。
- (ニ) 〈演習Ⅱ〉は、3年生の旧カリキュラムにはないが、3・4年生とも□音楽学実習を履修する。
- (ホ) 3年次のカリキュラムの内4年次に指定された「演習Ⅰ」を削除し、3年次に「演習Ⅱ」を加える。
- (ヘ) 〈卒業論文〉（4単位）は、□選択科目のうちから任意に選んで履修する。

邦 楽 科 長唄専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目		授業科目	年次 期別	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数		
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専 門 教 育 科 目	主要 学 科 目	長唄実技 (基礎理論含む)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	16	42	78 5 84 12 5 18
		三 味 線 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		長 唄 囃 子 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		総合実習 (含学内演奏)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		卒 業 演 奏								2	2			
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ 実 技	1	1	1	1						4	24	
		ソ ル フ ェ ー ジ		2		2						4		
		東 洋 音 楽 史 又 は 民 族 音 楽 学				4						4		
		日 本 音 楽 史 I				4						4		
		日 本 音 楽 史 II					4					4		
		国 語					4					4		
	目	邦楽概論 1 (前期・三味線音楽)	2		◎ この中から 4 年間に12～18単位を選択する。 ◎ 西洋音楽理論 1（4 単位）を必修とする。 ◎ 専攻外の邦楽は 2 年次以降に履修すること。						12 5 18			
		邦楽概論 1 (後期・三曲)	2											
		邦楽概論 2 (前期・能楽概論)	2											
		邦楽概論 2 (後期・日本音楽理論)	2											
		専 攻 外 の 邦 楽 1	2											
		専 攻 外 の 邦 楽 2	2											
		専 攻 外 の 邦 楽 3	2											
西洋音楽理論 1 (必修)		4												
西 洋 音 楽 理 論 2		4												
西 洋 音 楽 理 論 3		4												

外 国 語 科 目	英 語	4	4					} 8	一 般 8 専 門 0 単 位 単 位
	独 語	4	4						
	仏 語	4	4						
									合 計 8 単 位

卒業要件として修得すべき 総 単 位 数 (126～132 単位)	
内 訳	一般教育科目 36単位 外国語科目 8 〃 保健体育科目 4 〃 専門教育科目 78～84

(注)「一般教育科目」・「保健体育科目」の履修方法については 2～3 頁〔本書96～97,99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

邦 楽 科 三味線専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目		授業科目	年次 期別	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数			
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計	
専 門 教 育 科 目	主要 学 科 目	三味線実技 (基礎理論含む)	2	2	2	2	2	2	2	2	16	42	78) 84 12) 18		
		長 唄 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		長 唄 囃 子 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		総合実習 (含学内演奏)	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		卒 業 演 奏								2	2				
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ 実 技	1	1	1	1					4	24			
		ソ ル フ ェ ー ジ		2		2					4				
		東 洋 音 楽 史 又 は 民 族 音 楽 学				4					4				
		日 本 音 楽 史 I				4					4				
		日 本 音 楽 史 II						4			4				
		国 語						4			4				
		邦楽概論 1 (前期・三味線音楽)		2	◎ この中から 4 年間に12～18単位を選択する。 ◎ 西洋音楽理論 1（4 単位）を必修とする。 ◎ 専攻外の邦楽は 2 年次以降に履修すること。									12) 18	
		邦楽概論 1 (後期・三曲)		2											
		邦楽概論 2 (前期・能楽概論)		2											
		邦楽概論 2 (後期・日本音楽理論)		2											
		専 攻 外 の 邦 楽 1		2											
		専 攻 外 の 邦 楽 2		2											
		専 攻 外 の 邦 楽 3		2											
		西洋音楽理論 1 (必修)		4											
		西 洋 音 楽 理 論 2		4											
		西 洋 音 楽 理 論 3		4											

外 国 語 科 目	英 語	4	4					} 8	一 般 専 門 8 0 単 単 位 位
	独 語	4	4						
	仏 語	4	4						
									合 計 8 単 位

卒業要件として修得すべき
総 単 位 数 (126～132 単位)

内 訳 (一般教育科目 36単位
外国語科目 8 〃
保健体育科目 4 〃
専門教育科目 78～84)

(注) 「一般教育科目」・「保健体育科目」の履修方法については 2～3 頁〔本書96～97, 99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

邦楽科 長唄囃子専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目 授業科目			年次 期別		1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数		
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計		
専 門 教 育 科 目	主 要 学 科 目	笛・小鼓・大鼓・太鼓この中一科目を主専攻とし基礎理論を含む他の三科目を副主専攻とする	主	2	2	2	2	2	2	2	2	16	42	78 } 84	
			副	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
			長唄及び三味線実技	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
			総合実習 (含学内演奏)	1	1	1	1	1	1	1	8				
			卒 業 演 奏							2	2				
	関 連 学 科 目		ピ ア ノ 実 技	1	1	1	1					4	24		12 } 18
			ソ ル フ ェ ー ジ		2		2					4			
			東 洋 音 楽 史 又 は 民 族 音 楽 学				4					4			
			日 本 音 楽 史 Ⅰ				4					4			
			日 本 音 楽 史 Ⅱ						4			4			
			国 語						4			4			
			邦楽概論 1 (前期・三味線音楽)		2										
			邦楽概論 1 (後期・三曲)		2										
			邦楽概論 2 (前期・能楽概論)		2										
			邦楽概論 2 (後期・日本音楽理論)		2										
			専 攻 外 の 邦 楽 1		2								12		
			専 攻 外 の 邦 楽 2		2										
			専 攻 外 の 邦 楽 3		2										
			◎西洋音楽理論 1 (必修)		4								18		
			西 洋 音 楽 理 論 2		4										
			西 洋 音 楽 理 論 3		4										

◎ この中から 4 年間に12～18単位を選択する。

◎ 西洋音楽理論 1 （ 4 単位）を必修とする。

◎ 専攻外の邦楽は 2 年次以降に履修すること。

- ◎ この中から4年間に12～18単位を選択する。
- ◎ 西洋音楽理論1（4単位）を必修とする。
- ◎ 専攻外の邦楽は2年次以降に履修すること。

外国語科目	英語	4	4					8	専門 一般 8 単位
	独語	4	4						
	仏語	4	4						
									合計8 単位

卒業要件として修得すべき 総単位数 (126～132単位)	
内訳	一般教育科目 36単位 外国語科目 8 〃 保健体育科目 4 〃 専門教育科目 78～84

(注) 「一般教育科目」・「保健体育科目」の履修方法については2～3頁〔本書96～97, 99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

邦 楽 科 箏曲専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年 4月入学生用）

科目	授業科目	年次	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数		
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専 門 教 育 科 目	主 要 学 科 目	箏曲実技 (基礎理論含む)	3	3	3	3	3	3	3	3	24	44	80 } 86 12 } 18
		三 味 線 実 技	2	2	2	2	2	2	2	2	16		
		学 内 演 奏								2	2		
		卒 業 演 奏								2	2		
	専 門 関 連 学 科 目	ピ ア ノ 実 技	1	1	1	1					4	24	
		ソ ル フ ェ ー ジ		2		2					4		
		東 洋 音 楽 史 又 は 民 族 音 楽 学				4					4		
		日 本 音 楽 史 I				4					4		
		日 本 音 楽 史 II					4				4		
		国 語					4				4		
		邦楽概論 1 (前期・三味線音楽)		2								12 } 18	
		邦楽概論 1 (後期・三曲)		2									
		邦楽概論 2 (前期・能楽概論)		2									
		邦楽概論 2 (後期・日本音楽理論)		2									
		専 攻 外 の 邦 楽 1		2									
		専 攻 外 の 邦 楽 2		2									
		専 攻 外 の 邦 楽 3		2									
		◎西洋音楽理論 1 (必修)		4									
		◎西洋音楽理論 2 (必修)		4									
		◎西洋音楽理論 3 (必修)		4									
		◎ この中から 4 年間に12～18単位を選択する。 ◎ 箏曲専攻者は西洋音楽理論 1, 2, 3 (12単位)を必修とする。 ◎ 専攻外の邦楽は 2 年次以降 1 ケ年, 1 種の実技科目にかぎり履修すること。											

外 国 語 科 目	英 語	4	4				} 8	一 専 般 門 8 0 単 単 位 位
	独 語	4	4					
	仏 語	4	4					
								合 計 8 単 位

卒業要件として修得すべき 総 単 位 数 (126～単位)	
内 訳	一般教育科目 36単位
	外国語科目 8 //
	保健体育科目 4 //
	専門教育科目 80～86

(注) 「一般教育科目」・「保健体育科目」の履修方法については 2 ～ 3 頁〔本書96～97, 99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

邦楽科 能楽専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目		授業科目	年次	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数			
			期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計	
専 門 教 育 科 目	主要 学 科 目	謡曲実技 (基礎理論含む)		2	2	2	2	2	2	2	2	16	44	80 { 86 12 { 18	
		仕舞実技 (基礎理論含む)		2	2	2	2	2	2	2	2	16			
		能 楽 囃 子 実 技		1	1	1	1	1	1	1	1	8			
		学 内 演 奏									2	2			
		卒 業 演 奏									2	2			
	関 連 学 科 目														
		ピ ア ノ 実 技		1	1	1	1						4		24
		ソ ル フ ェ ー ジ		2		2						4			
		東 洋 音 楽 史 又 は 民 族 音 楽 学				4						4			
		日 本 音 楽 史 I				4						4			
		日 本 音 楽 史 II						4				4			
		国 語						4				4			
		邦楽概論 1 (前期・三味線音楽)		2											12 { 18
		邦楽概論 1 (後期・三曲)		2											
		邦楽概論 2 (前期・能楽概論)		2											
		邦楽概論 2 (後期・日本音楽理論)		2											
		専攻外の邦楽 1		2											
		専攻外の邦楽 2		2											
		専攻外の邦楽 3		2											
◎西洋音楽理論 1 (必修)		4													
西 洋 音 楽 理 論 2		4													
西 洋 音 楽 理 論 3		4													

◎ この中から 4 年間に12～18単位を選択する。

◎ [西洋]音楽理論 1 (4 単位) を必修とする。

◎ 専攻外の邦楽は 2 年次以降に履修すること。

- この中から4年間に12～18単位を選択する。
- 〔西洋〕音楽理論1（4単位）を必修とする。
- 専攻外の邦楽は2年次以降に履修すること。

外国語科目 (専門を含む)	英語	4	4					8	一 般 8 単 位 専 門 0 単 位 合 計 8 単 位
	独語	4	4						
	仏語	4	4						

卒業要件として修得すべき 総単位数 (128～134単位)	
内訳	一般教育科目 36単位 外国語科目 8 〃 保健体育科目 4 〃 専門教育科目 80～86

(注) 「一般教育科目」「保健体育科目」の履修方法については2～3頁〔本書96～97, 99頁〕に掲載した履修規程の定める方法による。

邦楽科 能楽囃子専攻 教育課程（カリキュラム）・修得単位年次配当表（45年4月入学生用）

科目	授業科目	年次 期別	1 年次(45年度)		2 年次(46年度)		3 年次(47年度)		4 年次(48年度)		修得単位数			
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計	
専 門 教 育 科 学 目	主 要 学 科 目	笛・小鼓・大鼓・太鼓 この中一科目を主専攻とし基礎理論を含める。また他の三科目を副主専攻とする	主	2	2	2	2	2	2	2	2	16	44	80 (86 12 (18
		副	2	2	2	2	2	2	2	2	16			
		謡曲及び仕舞実技		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		学 内 演 奏								2	2			
		卒 業 演 奏								2	2			
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ 実 技		1	1	1	1					4	24	
		ソ ル フ ェ ー ジ		2		2					4			
		東 洋 音 楽 史 又 は 民 族 音 楽 学				4					4			
		日 本 音 楽 史 I				4				4				
		日 本 音 楽 史 II					4			4				
		国 語					4			4				
		邦楽概論 1 (前期・三味線音楽)		2								12 (18		
		邦楽概論 1 (後期・三曲)		2										
		邦楽概論 2 (前期・能楽概論)		2										
		邦楽概論 2 (後期・日本音楽理論)		2										
		専攻外の邦楽 1		2										
		専攻外の邦楽 2		2										
		専攻外の邦楽 3		2										
		◎西洋音楽理論 1 (必修)		4										
		西 洋 音 楽 理 論 2		4										
		西 洋 音 楽 理 論 3		4										

◎ この中から 4 年間に12～18単位を選択する。

◎ 西洋音楽理論 1 （ 4 単位）を必修とする。

◎ 専攻外の邦楽は 2 年次以降に履修すること。

外国語科目（専門を含む）	英 語	4	4					8	一 専 般 門 8 0 単 単 位 位
	独 語	4	4						
	仏 語	4	4						
									合 計 8 単 位

卒業要件として修得すべき 総単位数 ¹²⁸ ～ ¹³⁴ 単位	
内 訳	一般教育科目 36単位 外国語科目 8 〃 保健体育科目 4 〃 専門教育科目 80～86

（注）「一般教育科目」・「保健体育科目」の履修方法については2～3頁（本書96～97,99頁）に掲載した履修規程の定める方法による。

（『東京芸術大学音楽学部 昭和45年度入学生用 履修規程』1～23頁）

昭和46年度

1. 一般教育科目・基礎教育科目表

● 一般教育科目

分野	科 目 名	単位	分野	科 目 名	単位
人 文	美 本 文 学	4	社 会	法 学 (日本国憲法含)	4
	日 本 文 学	4		歴 史	4
	美 文 学	4		文 化 史	4
	⊗西 洋 文 学	1	自 然	心 理 学	4
	西 洋 文 学	2		自 然 科 学	4
	哲 学	4		音 響 学	4
	哲 学	A		音 声 学	4
	宗 教 学	B		音 学 哲 学 (情報理論)	4
	文 化 哲 学	4		楽 器 学	4
	邦 楽 鑑 賞 法	4			
	⊗文 化 芸 術 論	4			

- 「宗教学」……昭和46年度は開講しない。
- 自然科学 ……昭和46年度は集中講義（時期未定）
- ⊗印は両学部交流科目（「西洋文学1」は音楽学部で開講，「文化芸術論」は美術学部で開講する。）
- 基礎教育科目

前 期 (2 単 位) (内 容)	後 期 (2 単 位) (内 容)
作曲家・作品研究 (声 楽)	作曲家・作品研究 (声 楽) 2
〃 (鍵 盤)	〃 (鍵 盤) 2
〃 (管 弦)	〃 (管 弦) 2
音楽思想史 (古典派まで)	音楽思想史 (ロマン派以後) 2
現代と音楽	現代と音楽 2
邦楽概論 I (三味線音楽史)	邦楽概論 I (日本音楽の美学) 2
邦楽概論 II (能楽概論)	邦楽概論 II (日本音楽理論) 2
邦楽概論 III (三曲史)	邦楽概論 III (語り物音楽史) 2
オラトリオ・リート史 (オラトリオ)	オラトリオ・リート史 (リ ー ト) 2
オペラ史 (イタリア)	オペラ史 (独・仏等) 2
鍵盤音楽史 I (バロックまで)	鍵盤音楽史 [I] (古 典 派) 2
〃 II (ロマン派)	〃 [II] (近代・現代) 2
管弦楽史 (ロマン派初期まで)	管弦楽史 (ロマン派中期以後) 2
室内楽史 (〃)	室内楽史 (〃) 2
音楽理論史 (古典派まで)	音楽理論史 (ロマン派以後) 2
対 位 法 (4 単 位)	
管弦楽法	管弦楽法 1
楽式原論	楽式原論 1
楽曲分析	楽曲分析 2
ピアノ伴奏理論	ピアノ伴奏理論 2
ピアノ教授法 (3年以上)	ピアノ教授法 (3年以上) 2
鍵盤楽器演奏法 (3年次以上) 2単位 集中講義 (時期未定)	

2. 履修方法について

(1) 一般教育科目

一般教育科目は人文、社会、自然の三分野があり、その履修方法はそれぞれの分野にわたり科目を選択し36単位まで履修すること。但し36単位のうち12単位までは当該学生の専門教官の指導により基礎教育科目または専門教育科目にかえて履修することができる。

- ◎ 一般教育科目の単位は原則として1科目について前期・後期の通年に⁷⁷且って週1回(1コマ=2時間)の講義形式の授業とする。この授業に出席し、かつ学年末試験に合格したもののについて4単位が与えられる。
- ◎ 一般教育科目の履修計画は毎学年始め発表される授業時間割表と専門教育科目として学科・クラス授業・個人レッスンとの授業時間の調整を充分計画した上、各学年に配当し、4年次までに無理のないように履修することが肝要であるが卒業学年である4年次を除いて第3年次までに修得し終えることが望ましい。
- ◎ 声楽科の学生は自然分野の **音声学** を履修しなければならない。
- ◎ 美術学部開設科目のうち哲学Ⅰ・哲学Ⅱ・文化芸術論の3科目は時間割表に掲載しており音楽学部学生が美術学部に行って受講できる交流科目である。楽理科については別に楽理科教官の指示により美術学部開設科目を受講できる。

(2) 基礎教育科目

基礎教育科目は音楽に直接関連のある専門の基礎をあたえることを目標とする科目である。

- ◎ 対位法は作曲科学生は履修できない。
- ◎ 管弦楽法・楽式原論・楽曲分析の履修は、音楽理論「和声学初級」を履修してからに限る。ただし、作曲科学生および楽理科学生は1年次から履修してもよい。
- ◎ 楽曲分析を履修する者はなるべく「楽式原論」を履修してからが望[ま]しい。
- ◎ 「管弦楽法」「楽式原論」は前期・後期の講義内容が同じなので同一科目を二度続けて履修してもその単位は認めない。
- ◎ ピアノ伴奏理論はピアノ専攻学生は2年次から履修してもよいが、その他の科の学生は3年次から履修すること。

(3) 外国語科目

下記に示す外国語のうち1科目(声楽専攻、オペラ専攻、楽理科以外は太線の中の科目に限る)につき中級まで(初級4単位、中級4単位、計8単位)を必修とする。

外国語科目には次の種類と級がある。

開設科目名	各 ク ラ ス		
	初 級	中 級	上 級
英 語	4	4	4
独 語	4	4	4
仏 語	4	4	4
伊 語	4	4	4
露 語	4	4	

※ 外国語の単位は授業時間割表 (A)、開設科目表 (C) で定めた同一科目番号の授業 (週2回) を1年間 (前、後期) 受講することによって単位が与えられる。

- ◎ 初級、中級においては同一外国語の同一クラスを2度履修しても、その単位は加算しない。但し上級の単位については加算することができる。
- ◎ 中級、上級は夫々、初級中級の単位を修得した者でなければ履修できない。但し初級以上の実力のある者は、担当教官の認定 (単位は認定されない) を受けて最初から中、上級を履修することができる。
- ◎ 声楽科における外国語科目の履修方法はつぎのとおりとする。

1) 履修単位数

系 列	必 修 選 択 単 位	合 計
一 般 外 国 語 科 目	8 単 位	声 楽 専 攻 者 20単位 オ ペ ラ 専 攻 者 16単位
専 門 外 国 語 科 目	声 楽 専 攻 者 12単位 オ ペ ラ 専 攻 者 8 単位	

2) 履 修 方 法

開 設 科 目	開設クラス・単 位 級			一 般 外 国 語 (1 科目 8 単位)	専 門 外 国 語 (2 科目 声楽専攻者12単位 オペラ専攻者8単位)	
	初級	中級	上級		第 1 専門外国語 (4 単位)	第 2 専門 (声楽専攻者8単位) 外 国 語 (オペラ専攻者4単位)
独 語	4	4	4	左記3科目 (種別) のうちいずれか1科目を選択し、初級 (4 単位) 中級 (4 単位) 合せて8単位を必修とする。	一般外国語として選択履修した科目と同一科目の上級 (4 単位) を必修とする。	一般外国語及び第1専門外国語として選択履修した科目以外の外国語を選択し、「声楽専攻者」は初級 (4 単位) 及び中級 (4 単位) を必修とし、「オペラ専攻者」は初級 (4 単位) を必修とする。
仏 語	4	4	4			
伊 語	4	4	4			
露 語	4	4				

(注) 声楽科においては、「英語」の単位は自由選択科目とし、一般外国語、専門外国語の必修単位としない。(卒業の要件である単位のうちに含めない)

- 3) 楽理科の外国語の履修方法については、15ページ〔本書134頁〕の該当する欄を参照のこと。

(4) 保健体育科目

保健体育科目は、講義と実技とに分け、講義は「保健理論」(昭和46年度は集中講義の予定) および「体育理論」の授業であり2単位が与えられる。

実技は卒業迄に90時間以上出席履修した者に2単位が与えられる。なお、保健体育科目は1年次の間に履修して置くことが望ましい。

● 授業時間割

	12.40～14.05	14.10～15.35
月 曜	声 楽	楽 理 ・ 邦 楽
木 曜	弦 楽 ・ 管 打 楽	作曲 ・ P ・ Org ・ 指揮

(注) どうしても上の表の通りには出席出来ない者は4月17日(土)までに体育教官室に申し出て指示を受けること。

● 服 装

運動用のシャツ・ズボンを着用すること。

(注) 詳細は第1回の授業の時説明する。

※第1回の授業には指定された授業時間に必ず出席すること。通常服のままでよい。

月曜のクラス……4月12日

木曜のクラス……4月15日

(5) 専門教育科目(含む専門外国語)

専門教育科目の単位は別表に示す各科カリキュラムの主要学科目・関連学科目と選択関連学科目を履修すること。なお、選択関連学科目の履修単位に幅(～印で示す)のあるものは、一般教育科目(2・3ページ〔本書121頁〕参照)にかえて履修する場合に限って選択できる単位数である。

個人レッスン

- 主要学科目(専攻実技)については原則として毎週1時間、但し作曲科について理論(クラスレッスン)2時間、実技 $\frac{2}{3}$ 時間(1回～2回)の個人レッスンを受け、学期末試験に合格すれば所定の単位が与えられる。(ピアノ・オルガン演奏理論、楽曲分析等は当該実技レッスンの中で行なうので特別に時間割を組んで行なわない)
- 関連学科目および選択関連学科目中の実技については毎週1回の個人レッスンを受ける。副科ピアノおよびチェンバロは1期1単位、その他は1年2単位である。
- 関連学科目および選択関連学科目中の副科実技の履修を希望するときは所定の手続を経て願い出ること。出願期は毎年11月初旬から下旬までである。教官に直接申し込んでも履修することは認められない。
- 関連学科目および選択関連学科目の副科実技を履修できる範囲内は個人レッスンのものは原則として1学年当り1科目とする。但し作曲科、指揮科、楽理科については別途指示する。
 申し込んだ副科実技について無断でレッスンを受けない場合、又はレッスンを受けても無断で試験を受けない場合、その科目についての成績は「不可」とする。
- 選択関連学科目中、前期・後期にわかれて単位が配分されている科目は、通年にわたって履修しなければならない。

なお、2年ないし4年にわたって単位が示されている科目は、それぞれ示されている学年の範囲内において1ケ年履修することを示すものである。

(6) 教育職員免許状取得希望者の科目履修

教育職員免許状（中学校一級，高等学校二級の教育職員免許状が与えられる）の取得を希望する者は一般教育科目36単位を修得しなければならない。このうち12単位までについては当該学生の専門教官の指導により，基礎教育科目でかえることができる。（この場合専門教育科目で代えることはできないから注意すること。）また在学中次の各号に示す教職・教科に関する所定の単位と下記1・3項に示す一般教育科目を必ず修得しなければならない。

A 教職に関する専門科目

科目名	教育原理	教育心理 (含青年心理)	音楽教科教育法	音楽教育実習	道德教育の研究
単位数	2	2	2	2	2
合計	10単位				

1. 法学：一般教育科目中「法学」（憲法2単位を含む）を必ず修得すること。
2. 哲学・倫理学又は宗教学：一般教育科目中「哲学（A）」「哲学（B）」・「宗教学」のうちいずれか1科目（4単位）を必ず修得すること。但し昭和46年度においては「宗教学」は開講しないが「文化哲学」をもってこれにかえることができる。
3. 選択関連学科科目中「音楽通史」（4単位）は「声楽・オペラ・弦楽・指揮」の専攻学生は必ず修得すること。
4. 一般教育科目の中で「邦楽鑑賞法」を履修することが望ましい。

B 教科に関する専門科目

「教科に関する専門科目」は各科のカリキュラムに指定された科目を履修すること。

- (注) ※独唱，器楽は在学中随時年次に履修すれば良い。（1カ年2単位）
※指揮法の2単位は3・4年次の何れかで履修すれば良い。（1カ年2単位）
※合唱（副科合唱）（週1回）を履修する者は2年間（2単位）履修すること。

(7) 履修手続

- ◎ 本「履修規程」（別表）をよく検討して無理のない履修計画を立て，「履修記録簿」にきれいに記入して提出すること。またこの履修記録簿は学年末の成績通知表をも兼ねる大切な原簿であるので各自必ず所定期間内に提出すること。
所定期間内に提出のない者にはその年度の履修は一切認めない。

作曲科 教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

（昭和46年4月入学学生用）

科目		授業科目	年次 期別	1 年次(46年度)		2 年次(47年度)		3 年次(48年度)		4 年次(49年度)		修得単位数		
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専 門 教 育 科 目	主要 学 科 目	作 曲 実 技 Ⅰ	3	3	3	3	3	3	3	3	24	48	76 }	
		作 曲 理 論	2	2	2	2	2	2	2	2	16			
		学 内 作 品 発 表							4	4				
		卒 業 作 品						4	4					
	関 連 学 科 目	ピアノ実技(含合奏)Ⅰ	1	1	1	1					4	12		
		ソルフェージュⅠ	2		2						4			
		音 楽 通 史	4							4				
	選 択 関 連 学 科 目	作 曲 実 技 Ⅱ					3	3	3	3	12	16 }		
		ピ ア ノ Ⅱ					1	1	1	1	4			
		ソルフェージュⅡ					2		2		4			
		スコアリーダー ^ソ	2				2			4				
		ピ ア ノ (伴奏)					2		2		4			
		指 揮 法					2				2			
		合 唱					1		1		2			
		独 唱			2		2				4			
		弦 楽 器			2		2				4			
		管 楽 器			2		2				4			
打 楽 器			2		2				4					
邦 楽 器			2		2				4					
外 国 語	4 ～										4～			

卒業後教職を志望する者は教育職員免許状を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として次に示す科目を付加履修すること。但し、選択関連学科目として次に示す科目単位を修得した場合は履修する必要はない。

科目	△器楽	独唱	合唱	指揮法	合計
単位	2	2	2	2	8

△器楽はピアノ（3年次）または弦・管打・邦楽器

卒業要件として 修得すべき		総単位数	124単位
一般教育科目	24～36	保健体育科目	4
基礎教育科目	～12	専門教育科目	76
外国語科目	8		

声 楽 科 独唱 専攻 教育課程（カリキュラム）修得単位年次表 （昭和46年4月入学生用）

科目		授業科目	年次	1 年次(46年度)		2 年次(47年度)		3 年次(48年度)		4 年次(49年度)		修得単位数			
			期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計	
専 門 教 育 科 目	主要 学 科 目	声 楽 実 技		3	3	3	3	3	3	3	3	24	40	80	
		合 唱		1	1	1	1					4			
		室 内 合 唱						1	1	1	1	4			
		学 内 演 奏								4		4			
		卒 業 演 奏 (独唱)								4		4			
	関 連 学 科 目	ピアノ(合奏含む)Ⅰ		1	1	1	1						4		34
		ソルフェージュⅠ			2		2						4		
		オ ラ ト リ オ						2		2		4			
		オペラ総論演習						2				2			
		和 声 学 (初級)		4								4			
		〃 (中級)				4						4			
		外 国 語	12										12		
	選 択 関 連 学 科 目	朗 読 法 演 習								2		2	6 〃		
		ピ ア ノ Ⅱ						1	1	1	1	4			
		ソルフェージュⅡ						2		2		4			
		ピ ア ノ 伴 奏 法						2		2		4			
		指 揮 法						2				2			
		音 楽 通 史		4								4			
		和 声 学 (上級)						4				4			
		外 国 語	4 ～												4～
		※「ピアノ伴奏法」……集中講義予定（時期未定） ※「音楽通史」……教育職員免許状取得希望者は必ず修得すること。													

卒業後教職を志望する者は教育職員免許状を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として次に示す科目を付加履修すること。但し、選択関連学科目として次に示す科目単位を修得した場合は履修する必要はない。

科 目	指揮法	合 計
単 位	2	2

卒業要件として
修得すべき 総単位数 128単位

一般教育科目	24～36	保健体育科目	4
基礎教育科目	～12	専門教育科目	80
外国語科目	8		

声 楽 科 オペラ 専攻 教育課程（カリキュラム）修得単位年次表（昭和46年4月入学生用）

科目	授業科目	年次		1 年次(46年度)		2 年次(47年度)		3 年次(48年度)		4 年次(49年度)		修得単位数		
		期別		前 期		前 期		前 期		前 期		小計	中計	合計
専門教育科目	主要学 科目	声 楽 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	44	82	
		合 唱	1	1	1	1					4			
		室 内 合 唱					1	1	1	1	4			
		オペラ総論演習					2				2			
		オペラ基礎演習 (1)					2				2			
		オペラ基礎演習 (2)							2		2			
		オペラ演技演出論演習							2		2			
		学 内 演 奏							4		4			
		卒 業 演 奏 (独唱)							4		4			
	関連学 科目	ピアノ (含合奏)Ⅰ	1	1	1	1					4	24		
		ソルフェージュⅠ		2		2					4			
		和 声 学 (初級)		4							4			
		〃 (中級)				4					4			
		外 国 語	8											8
	選 択 関 連 学 科 目	朗 読 法 演 習								2	2	10 }		
		音 楽 通 史	4								4			
		ピ ア ノⅡ					1	1	1	1	4			
		ソルフェージュⅡ					2			2	4			
		ピ ア ノ伴奏法					2			2	4			
		指 揮 法					2				2			
		和 声 学 (上級)							4		4			
		外 国 語	4～											4～
		舞 台 語 発 音 法								2	2			
		オペラ楽曲研究								2	2			
		※「ピアノ伴奏法」……集中講義予定（時期未定） ※「音楽通史」……教育職員免許状取得希望者は必ず修得すること。												

卒業後教職を志望する者は教育職員免許状を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として次に示す科目を付加履修すること。但し、選択関連学科目として次に示す科目単位を修得した場合は履修する必要はない。			
科 目	指揮法	合 計	
単位数	2	2	

卒業要件として 修 得 す べ き		総単位数	130単位
一般教育科目	24～36	保健体育科目	4
基礎教育科目	～12	専門教育科目	82
外国語科目	8		

器 楽 科 ピアノ 専攻 教育課程（カリキュラム）修得単位年次表（昭和46年4月入学生用）

科目	授業科目	年次	1 年次(46年度)		2 年次(47年度)		3 年次(48年度)		4 年次(49年度)		修得単位数		
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専 門 教 育 科 目	主 要 学 科 目	ピ ア ノ 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	38	76
		演奏理論・楽曲分析	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		学 内 演 奏					2				2		
		卒業演奏（ピアノ）							4		4		
	関 連 学 科 目	合 奏	2		2		2		2		8	32	
		伴 奏	2		2		2		2		8		
		ソルフェージュⅠ	2		2						4		
		音 楽 通 史		4							4		
		和 声 学（初級）	4								4		
		〃（中級）			4						4		
	選 択 関 連 学 科 目	合 唱	1		1						2	6 5	
		ソルフェージュⅡ					2		2		4		
		チェンバロ又は オルガン					2				2		
		外 国 語					4～				4～		
		和 声 学（上級）						4			4		

卒業後教職を志望する者は教育職員免許状を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として次に示す科目を付加履修すること。但し、選択関連学科目として次に示す科目単位を修得した場合は履修する必要はない。				
科 目	独 唱	指揮法	合 唱	合 計
単位数	2	2	2	6

卒業要件として 修得すべき		総単位数	124単位
一般教育科目	24～36	保健体育科目	4
基礎教育科目	～12	専門教育科目	76
外国語科目	8		

器 楽 科 オルガン 専攻 教育課程(カリキュラム)修得単位年次表 (昭和46年4月入学生用)

科目	授業科目	年次	1 年次(46年度)		2 年次(47年度)		3 年次(48年度)		4 年次(49年度)		修得単位数			
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計	
専 門 教 育 科 目	主要 学科 科目	オルガン実技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	42	76	
		基礎理論・楽曲分析	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
		オルガン演奏概論	2	2										4
		学 内 演 奏							2		2			
		卒業演奏(オルガン)							4		4			
	関連 学科 科目	ピアノ (含合奏)Ⅰ	1	1	1	1					4	20		
		ソルフェージュⅠ		2		2					4			
		音楽通史			4						4			
		和声学(初級)		4							4			
		〃 (中級)				4					4			
	選択 関連 学科 科目	オルガン 即興実技	1	1	1	1	1	1	1	1	8	14 5		
		ピアノⅡ					1	1	1	1	4			
		チェンバロ					1	1	1	1	4			
		オルガン 合奏理論	1		1						2			
		ソルフェージュⅡ					2		2		4			
		和声学(上級)						4			4			
		外国語					4				4			

卒業後教職を志望する者は教育職員免許状を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として次に示す科目を付加履修すること。					
科 目	独 唱	指揮法	合 唱	合 計	
単位数	2	2	2	6	

卒業要件として 修得すべき		総単位数	124単位
一般教育科目	24～36	保健体育科目	4
基礎教育科目	～12	専門教育科目	76
外国語科目	8		

器 楽 科 弦 楽 専 攻 教 育 課 程 (カ リ キ ュ ラ ム) 修 得 単 位 年 次 表 (昭 和 46 年 4 月 入 学 生 用)

科目		授業科目	年次		1 年次 (46年度)		2 年次 (47年度)		3 年次 (48年度)		4 年次 (49年度)		修得単位数		
			期別		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専 門 教 育 科 目	主要 学科 目	実 技 ()	3	3	3	3	3	3	3	3	24	30	80		
		学 内 演 奏							2	2					
		卒 業 演 奏 ()							4	4					
	関連 学科 目	ピ ア ノ I	1	1	1	1					4	40			
		ソ ル フ ェ ー ジ I	2		2						4				
		弦 楽 合 奏	4								4				
		オ ー ケ ス ト ラ			4		6		6		16				
		和 声 学 (初級)	4								4				
		〃 (中級)			4						4				
		室 内 楽 I	4								4				
	選 択 関 連 学 科 目	ピ ア ノ II					1	1	1	1	4	10 5			
		ソ ル フ ェ ー ジ II					2		2		4				
		室 内 楽 II			2		2		2		4				
		管弦楽基礎奏法研究 (楽器別)							4		4				
		音 楽 通 史		4							4				
和 声 学 (上級)							4			4					
外 国 語		4 ～									4～				
		「※音楽通史」……教育職員免許状取得希望者は必ず修得すること。													

卒業後教職を志望する者は教育職員免許状を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として次に示す科目を付加履修すること。

科 目	独 唱	指 揮 法	合 唱	合 計	
単 位 数	2	2	2	6	

卒業要件として修得すべき 総単位数 128単位

一般教育科目	24～36	保健体育科目	4
基礎教育科目	～12	専門教育科目	80
外国語科目	8		

器 楽 科 管打専攻 教育課程（カリキュラム）修得単位年次表 （昭和46年4月入学生用）

科目	授業科目	年次	1 年次(46年度)		2 年次(47年度)		3 年次(48年度)		4 年次(49年度)		修得単位数		
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専 門 教 育 科 目	主 要 学 科 目	実 技 ()	3	3	3	3	3	3	3	3	24	30	80
		学 内 演 奏							2		2		
		卒 業 演 奏 ()							4		4		
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ I	1	1	1	1					4	42	
		ソルフェージュ I	2		2						4		
		音 楽 通 史		4							4		
		オ ー ケ ス ト ラ			6	6	6			22			
		管 打 合 奏 I	4										
		和 声 学 (初級)	4						4				
		〃 (中級)			4				4				
	選 択 関 連 学 科 目	管 打 合 奏 II							4		4	8	
		室 内 楽					4				4		
		ピ ア ノ II					1	1	1	1	4		
		ソルフェージュ II					2		2		4		
		管弦楽基礎奏法研究 (楽器別)					4				4		
		※器楽特殊研究第 5							2		2		
		和 声 学 (上級)					4				4		
外 国 語				4 ～						4 ～			

※選択関連学科目中「器楽特殊研究第5」は大学院開設科目（吉田教官担当）を履修すること。

卒業後教職を志望する者は教育職員免許状を受け る上に必要な「教科に関する専門科目」として次 に示す科目を付加履修すること。				
科 目	合 唱	独 唱	指揮法	合 計
単位数	2	2	2	6

卒業要件として 修得すべき		総単位数 128単位	
一般教育科目	24～36	保健体育科目	4
基礎教育科目	～12	専門教育科目	80
外国語科目	8		

指揮科 教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

（昭和46年4月入学生用）

科目	授業科目	年次	1年次(46年度)		2年次(47年度)		3年次(48年度)		4年次(49年度)		修得単位数		
		期別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専 門 教 育 科 目	主 要 学 科 目	指 揮 理 論	2	2							4	34	76
		指 揮 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	24		
		学 内 演 奏（指揮）							2		2		
		卒 業 演 奏（指揮）							4		4		
	関 連 学 科 目	スコアリーディングⅠ	1	1	1	1					4	22	
		ピアノ（含合奏）Ⅰ	1	1	1	1					4		
		ソルフェージュⅠ		2		2					4		
		管弦打楽器実技Ⅰ				2					2		
		和 声 学（初級）		4							4		
		〃（中級）				4					4		
	選 択 関 連 学 科 目	スコアリーディングⅡ					1	1	1	1	4	20 5	
		管弦打楽器実技Ⅱ					1	1	1	1	4		
		独 唱		2							2		
		合 唱				1		1			2		
		ピ ア ノ Ⅱ					1	1	1	1	4		
ソルフェージュⅡ							2		2	4			
音 楽 通 史				4						4			
外 国 語						4～				4～			
和 声 学（上級）								4		4			
	※「音楽通史」……教育職員免許状取得希望者は必ず修得すること。												

※関連学科目「管弦打楽器実技」の履修は指揮実技担当教官の指示により専攻楽器を選ぶこと。

卒業後教職を志望する者は教育職員免許状を受ける上に必要な「教科に関する専門科目」として次に示す科目を付加履修すること。但し、選択関連学科目として次に示す科目単位を修得した場合は履修する必要はない。			
科 目	合 唱	独 唱	合 計
単位数	2	2	4

卒業要件として 修得すべき	総単位数 124単位
一般教育科目 24～36	保健体育科目 4
基礎教育科目 ～12	専門教育科目 76
外国語科目 8	

楽 理 科 教育課程（カリキュラム）修得単位年次配当表

（昭和46年4月入学生用）

科目	授業科目	年次 期別	1 年次(46年度)		2 年次(47年度)		3 年次(48年度)		4 年次(49年度)		修得単位数		
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
主 要 学 科 目	必修	音楽学概説	4	4	4	4					20		
		音楽学実習					1	1	1	1			
	選択必修 （9科目中3科目を選ぶ）	音楽美学	講義 ----- 2	4 2	6								
		民族音楽学	講義 ----- 2	4 2	6		※昭和46年度は開講しない						
		音楽音響学	講義 ----- 2	4 2	6		※偶数年に開講する。						
		日本音楽史Ⅰ	講義 ----- 2	4 2	6		★ Ⅰ奇数年（古代・中世）						
		日本音楽史Ⅱ	講義 ----- 2	4 2	6		★ Ⅱ偶数年（近世以後）						
		東洋音楽史	講義 ----- 2	4 2	6								
		西洋音楽史Ⅰ	講義 ----- 2	4 2	6		※ 昭和46年度は開講しない。						
		西洋音楽史Ⅱ	講義 ----- 2	4 2	6		※ 昭和47年度は開講しない。						
		西洋音楽史Ⅲ	講義 ----- 2	4 2	6		※ 昭和48年度は開講しない。						
											18	38	
関 連 学 科 目	必修	ソルフェージュⅠ	2		2						8		
		合唱	1		1								
		ピアノ（含合奏）	2										
	選択	基礎教育科目	前・後の各期で各2										
		楽書講読	通年で各2										
		特殊講義	2	★★★									
		大学院音楽学専門 課程開設授業科目	通年で各4										
		研修旅行	2	★★★★									
		卒業論文	4										
		声楽・器楽 雅楽演奏 西洋古楽演奏 スコアリーディング	10～16								10 16	36 48	
	択	和声中級	4	★★	8～16								
		和声上級	4										
		※対位法	4										
		音楽形式学	4										
		※楽式原論	2										
		※管弦楽法	2										
		※楽曲分析	2										
											8 16		

※印で示した科目は基礎教育科目

外国語（一般8 専攻4～14） 合計12～22単位

科目	単 位	単 位 合 計
英語，独 語 仏 語，伊 語 羅 語，露 語	このうち1つを8 前記の8単位の他 任意に4～14 ※邦楽科 ※※美術学部芸術学科開設科目	12 ～ 22
国語（※古文 ※※古文書研究）		

教科に関する専門科目

教職志望者はカリキュラム指定の「選択実技科目」の科目から下表の科目を履修すること。

科 目	声 楽 (合唱含)	器楽(合奏を含む) スコアリーディング 西洋古楽器演奏を含む	指 揮 法	音楽理論又は 音 楽 史
単 位 数	4又は6	4又は6 (但し、関連学科目中の選択実技として上記科目単位を修得した場合は履修しなくてよい)	2	4
合 計	10		2	4

- ★ 日本音楽史はⅠ，Ⅱを奇数年次と偶数年次にわけて交替する。9科目中3科目を選ぶ際に，ⅠとⅡはそれぞれ別の科目として取扱うので，その両者を取得すれば2科目とする。
- ★★ 昭和45年度に和声学初級を履修し，ひきつづき和声学を履修しようとする者は，和声学中級（楽理）を履修すること。
- ★★★ 特殊講義＝美術学部開講授業のうち必要なものを含む。
- ★★★★ 3年次を優先とする。

卒業要件として修得すべき 総単位数 126～148単位			
一般教育科目	24～36単位	保健体育科目	4単位
基礎教育科目	～12単位	専門外国語科目	4～14単位
外国語科目	8単位	専門教育科目	74～86単位

楽理科カリキュラム履修方法について

楽理科のカリキュラムは、昭和45年度より大幅に改定されたが、原則として、1年生（昭和46年度生）2年生（昭和45年度生）3年生（昭和44年度生）は昭和46年度のカリキュラム（新カリキュラム）、4年生（昭和42・43年度生）は入学時に示されたカリキュラム（旧カリキュラム）に従う。各々の学年についての注意事項は以下の通り。

なお くゝ は旧カリキュラム、□印は新カリキュラム。

I 1年生（昭和46年度生）・2年生（昭和45年度生）

全面的に新カリキュラムに従う。

II 3年生（昭和44年度生）

新カリキュラムに従い、旧カリキュラムによる既得の科目と単位を次のように新カリキュラムに読みかえる。

- (イ) 〈音楽学概説〉（2単位）と〈楽書講読〉（2単位）を、□音楽学概説（1年次前期）（4単位）とする。なお □音楽学概説 1年次の後期分は3年次の前期または後期に履修すること。
- (ロ) 〈音楽美学〉は □音楽美学講義，〈東洋音楽史〉は □東洋音楽史・講義，〈音楽史概説〉は □西洋音楽史Ⅰ・講義 にそれぞれふりかえる。

III 4年生（昭和42・43年度生）

旧カリキュラムに従い、新カリキュラムを次のように旧カリキュラムに読みかえる。ただし、外国語・音楽理論・卒業論文に関しては新カリキュラムに従うこと。

- (イ) 〈特殊講義〉（4単位）は、選択科目および □音楽学概説 のうちから履修する。
- (ロ) 〈日本音楽史〉（4単位）は、□西洋音楽史 □西洋音楽史Ⅲ □日本音楽史 の講義のうちから任意に選んで履修する。
- (ハ) 〈演習1〉は、□選択必修専攻科目 の演習のうちから任意に選んで履修する。
- (ニ) 〈演習2〉は、□音楽学実習 を履修する。
- (ホ) 〈卒業論文〉（4単位）は、□選択科目 のうちから任意に選んで履修する。

邦楽科 長唄専攻 教育課程（カリキュラム）修得単位年次配当表（昭和46年4月入学生用）

科目	授業科目	年次		1年次(46年度)		2年次(47年度)		3年次(48年度)		4年次(49年度)		修得単位数		
		期別		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専門教育科目	主要 学 科 目	長 唄 実 技		2	2	2	2	2	2	2	2	16	42	78
		三 味 線 実 技		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		長 唄 囃 子 実 技		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		総合実習(含学内演奏)		1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		卒 業 演 奏									2	2		
	関 連 学 科 目	ソルフェージュⅠ		2		2						4	28	
		西洋音楽理論Ⅰ		4								4		
		西洋音楽理論Ⅱ				4						4		
		東洋音楽史又は 民族音楽学				4						4		
		日本音楽史Ⅰ						4				4		
		日本音楽史Ⅱ						4				4		
		国 語						4				4		
	選 択 関 連 学 科 目	ピ ア ノ Ⅱ		1	1	1	1						8 5	
		邦楽概論Ⅰ (前期・三味線音楽史)		2										
		邦楽概論Ⅰ (後期・日本音楽の美学)		2										
		邦楽概論Ⅱ (前期・能楽概論)		2										
		邦楽概論Ⅱ (後期・日本音楽理論)		2										
		邦楽概論Ⅲ (前期・三曲史)		2										
		邦楽概論Ⅲ (後期・語り物音楽史)		2										
		専攻外の邦楽Ⅰ		2										
		専攻外の邦楽Ⅱ		2										
		専攻外の邦楽Ⅲ		2										
		西洋音楽理論Ⅲ		4										
		研 究 旅 行		2										
		演 奏 理 論		4										
		外 国 語		4～										

卒業要件として修得すべき総単位数		126単位
一般教育科目	24～36単位	保健体育科目 4単位
基礎教育科目	～12単位	専門教育科目 78単位
外国語科目	8単位	

邦 楽 科 三味線専攻 教育課程(カリキュラム)修得単位年次配当表 (昭和46年4月入学生用)

科目		年次 授業科目	1 年次(46年度)		2 年次(47年度)		3 年次(48年度)		4 年次(49年度)		修得単位数		
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計
専 門 教 育 科 目	主要学 科 目	三 味 線 実 技	2	2	2	2	2	2	2	2	16	42	78
		長 唄 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		長 唄 囃 子 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		総合実習(含学内演奏)	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		卒 業 演 奏								2	2		
	関連学 科 目	ソルフェージュⅠ	2		2						4	28	
		西洋音楽理論Ⅰ	4								4		
		西洋音楽理論Ⅱ			4						4		
		東洋音楽史又は 民族音楽学			4						4		
		日本音楽史Ⅰ					4				4		
		日本音楽史Ⅱ					4				4		
		国 語					4				4		
	選択関 連学 科 目	ピアノⅡ	1	1	1	1						8 5	
		邦楽概論Ⅰ (前期・三味線音楽史)	2				◎ 専攻外の邦楽は2年次以降に履修すること。						
		邦楽概論Ⅰ (後期・日本音楽の美学)	2										
		邦楽概論Ⅱ (前期・能楽概論)	2										
		邦楽概論Ⅱ (後期・日本音楽理論)	2				◎ 演奏理論は3年次または4年次に履修すること。						
		邦楽概論Ⅲ (前期・三曲史)	2										
		邦楽概論Ⅲ (後期・語り物音楽史)	2				◎ 西洋音楽理論Ⅲは、西洋音楽理論ⅠおよびⅡの単位を取得した上で履修すること。						
		専攻外の邦楽Ⅰ	2										
		専攻外の邦楽Ⅱ	2										
		専攻外の邦楽Ⅲ	2										
		西洋音楽理論Ⅲ	4										
		研究旅行	2										
		演奏理論	4										
		外国語	4～										

卒業要件として修得すべき総単位数		126単位
一般教育科目	24～36単位	保健体育科目 4単位
基礎教育科目	～12単位	専門教育科目 78単位
外国語科目	8単位	

邦楽科 長唄囃子専攻 教育課程(カリキュラム)修得単位年次配当表 (昭和46年4月入学生用)

科目		年次		1年次(46年度)		2年次(47年度)		3年次(48年度)		4年次(49年度)		修得単位数				
		期別		前	後	前	後	前	後	前	後	小計	中計	合計		
専門教育科目	主要 学 科 目	笛・小鼓・大鼓・太鼓 この中一科目を主専攻とし、他の三科目を副専攻とする		主	副	2	2	2	2	2	2	2	2	16	42	78
		1	1	1	1	1	1	1	1	8						
		長唄及び三味線実技		1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		総合実習(含学内演奏)		1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		卒業演奏									2	2				
	関 連 学 科 目	ソルフェージュⅠ		2		2						4	28			
		西洋音楽理論Ⅰ		4							4					
		西洋音楽理論Ⅱ				4					4					
		東洋音楽史又は 民族音楽学				4					4					
		日本音楽史Ⅰ						4			4					
		日本音楽史Ⅱ						4			4					
		国語						4			4					
	選 択 関 連 学 科 目	ピアノⅡ		1	1	1	1						8 ()			
		邦楽概論Ⅰ (前期・三味線音楽史)		2												
		邦楽概論Ⅰ (後期・日本音楽の美学)		2												
		邦楽概論Ⅱ (前期・能楽概論)		2												
		邦楽概論Ⅱ (後期・日本音楽理論)		2												
		邦楽概論Ⅲ (前期・三曲史)		2												
		邦楽概論Ⅲ (後期・語り物音楽史)		2												
		専攻外の邦楽Ⅰ		2												
		専攻外の邦楽Ⅱ		2												
		専攻外の邦楽Ⅲ		2												
		西洋音楽理論Ⅲ		4												
		研究旅行		2												
		演奏理論		4												
		外国語		4～												

卒業要件として修得すべき総単位数		126単位
一般教育科目	24～36単位	保健体育科目 4単位
基礎教育科目	～12単位	専門教育科目 78単位
外国語科目	8単位	

邦楽科 箏曲専攻 教育課程（カリキュラム）修得単位年次配当表（昭和46年4月入学生用）

科目	授業科目	年次		1年次(46年度)		2年次(47年度)		3年次(48年度)		4年次(49年度)		修得単位数			
		期別		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計	
専門 教育 科目	主要 学 科 目	箏 曲 実 技		3	3	3	3	3	3	3	3	24	44	80	
		三 味 線 実 技		2	2	2	2	2	2	2	2	16			
		学 内 演 奏									2	2			
		卒 業 演 奏									2	2			
	関 連 学 科 目	ソルフェージュⅠ		2		2						4	28		
		西 洋 音 楽 理 論 Ⅰ		4								4			
		西 洋 音 楽 理 論 Ⅱ				4						4			
		東洋音楽史又は 民 族 音 楽 学				4						4			
		日 本 音 楽 史 Ⅰ						4				4			
		日 本 音 楽 史 Ⅱ						4				4			
		国 語						4				4			
	選 択 関 連 学 科 目	ピ ア ノ Ⅱ		1	1	1	1						85		
		邦 楽 概 論 Ⅰ (前期・三味線音楽史)		2											◎ 専攻外の邦楽は2年次以降に履修すること。 ◎ 演奏理論は3年次または4年次に履修すること。 ◎ 西洋音楽理論Ⅲは、西洋音楽理論ⅠおよびⅡの単位を取得した上で履修すること。
		邦 楽 概 論 Ⅰ (後期・日本音楽の美学)		2											
		邦 楽 概 論 Ⅱ (前期・能楽概論)		2											
		邦 楽 概 論 Ⅱ (後期・日本音楽理論)		2											
		邦 楽 概 論 Ⅲ (前期・三曲史)		2											
		邦 楽 概 論 Ⅲ (後期・語り物音楽史)		2											
		専 攻 外 の 邦 楽 Ⅰ		2											
専 攻 外 の 邦 楽 Ⅱ		2													
専 攻 外 の 邦 楽 Ⅲ		2													
西 洋 音 楽 理 論 Ⅲ		4													
研 究 旅 行		2													
演 奏 理 論		4													
外 国 語		4～													

卒業要件として修得すべき総単位数		128単位
一般教育科目	24～36単位	保健体育科目 4単位
基礎教育科目	～12単位	専門教育科目 80単位
外国語科目	8単位	

邦楽科 能楽専攻 教育課程（カリキュラム）修得単位年次配当表（昭和46年4月入学生用）

科 目		授業科目	年 次		1 年次(46年度)		2 年次(47年度)		3 年次(48年度)		4 年次(49年度)		修得単位数		
			期 別	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	小計	中計	合計	
専 門 教 育 科 目	主要 学 科 目	謡 曲 実 技		2	2	2	2	2	2	2	2	2	16	44	
		仕 舞 実 技		2	2	2	2	2	2	2	2	2	16		
		能 楽 囃 子 実 技		1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		学 内 演 奏										2	2		
		卒 業 演 奏										2	2		
	関 連 学 科 目	ソルフェージュⅠ		2		2							4	28	
		西 洋 音 楽 理 論 Ⅰ		4									4		
		西 洋 音 楽 理 論 Ⅱ				4							4		
		東洋音楽史又は 民族音楽学				4							4		
		日 本 音 楽 史 Ⅰ						4					4		
		日 本 音 楽 史 Ⅱ						4					4		
		国 語						4					4		
	選 択 関 連 学 科 目	ピ ア ノ 実 技		1	1	1	1							80 8)	
		邦 楽 概 論 Ⅰ (前期・三味線音楽史)		2											
		邦 楽 概 論 Ⅰ (後期・日本音楽の美学)		2											
		邦 楽 概 論 Ⅱ (前期・能楽概論)		2											
		邦 楽 概 論 Ⅱ (後期・日本音楽理論)		2											
		邦 楽 概 論 Ⅲ (前期・三曲史)		2											
		邦 楽 概 論 Ⅲ (後期・語り物音楽史)		2											
		専 攻 外 の 邦 楽 Ⅰ		2											
		専 攻 外 の 邦 楽 Ⅱ		2											
		専 攻 外 の 邦 楽 Ⅲ		2											
		西 洋 音 楽 理 論 Ⅲ		4											
		研 究 旅 行		2											
		演 奏 理 論		4											
		外 国 語		4～											

卒業要件として修得すべき総単位数		128単位
一般教育科目	24～36単位	保健体育科目 4単位
基礎教育科目	～12単位	専門教育科目 80単位
外国語科目	8単位	

邦楽科 能楽囃子専攻 教育課程(カリキュラム)修得単位年次配当表 (昭和46年4月入学生用)

科目		年次		1年次(46年度)		2年次(47年度)		3年次(48年度)		4年次(49年度)		修得単位数		
		授業科目	期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
専門 教育 科目	主要 学 科 目	笛・小鼓・大鼓・太鼓 この中一科目を主専攻とし、他の三科目を副専攻とする	主	2	2	2	2	2	2	2	2	16	44	
			副	2	2	2	2	2	2	2	2	16		
		謡曲及び仕舞実技	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
		学内演奏								2	2			
		卒業演奏								2	2			
	関 連 学 科 目	ソルフェージュⅠ	2		2						4	28		
		西洋音楽理論Ⅰ	4							4				
		西洋音楽理論Ⅱ			4					4				
		東洋音楽史又は民族音楽学			4					4				
		日本音楽史Ⅰ					4			4				
		日本音楽史Ⅱ					4			4				
		国語					4			4				
	選 択 関 連 学 科 目	ピアノⅡ	1	1	1	1						80		
		邦楽概論Ⅰ (前期・三味線音楽史)	2											
		邦楽概論Ⅰ (後期・日本音楽の美学)	2											
		邦楽概論Ⅱ (前期・能楽概論)	2											
		邦楽概論Ⅱ (後期・日本音楽理論)	2											
		邦楽概論Ⅲ (前期・三曲史)	2											
		邦楽概論Ⅲ (後期・語り物音楽史)	2											
		専攻外の邦楽Ⅰ	2											
		専攻外の邦楽Ⅱ	2											
		専攻外の邦楽Ⅲ	2											
		西洋音楽理論Ⅲ	4											
		研究旅行	2											
		演奏理論	4											
		外国語	4～											

卒業要件として修得すべき総単位数		128単位
一般教育科目	24～36単位	保健体育科目 4単位
基礎教育科目	～12単位	専門教育科目 80単位
外国語科目	8単位	

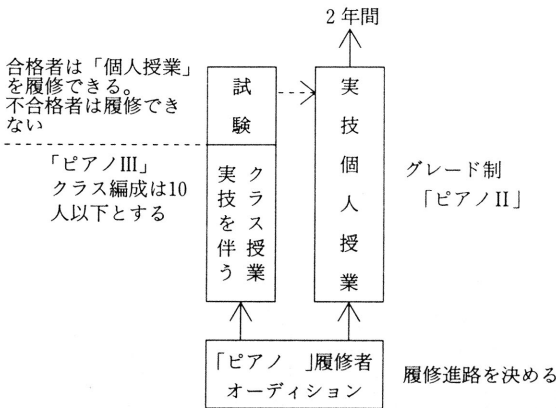
委託教育学生開設科目表（昭和46年4月入学生用）

必修・選択 科目区分	科目名	第1年次		第2年次		合計 単位数	備 考
		前期	後期	前期	後期		
必修科目	専攻実技	3	3	3	3	12	(1)「合奏実習」は委託生クラスを履修すること。 (2)「合唱」は副科合唱を履修すること。 (3)「音楽理論」は和声学の初級から順次1年一科目、中級まで履修すること、いきなり中級から履修することはできない。 (4)「ソルフェージュ」は年度始めにグレードクラス分け試験を受け、指定されたクラスで履修すること。 (5)「基礎教育科目」中、管弦楽法・楽曲分析・楽式原論を履修した者は音楽理論の科目として認定することもできる。
	声楽実習	1	1	1	1	4	
	ピアノ	1	1	1	1	4	
	合唱	1	1	1	1	4	
	ソルフェージュ	1	1	1	1	4	
	合奏実習	2		2		4	
自由選択科目	音楽通史	4				4	
	音楽理論	4		4		8	
	音楽美学	4		4		8	
	音響学	4				4	
	音声学	4				4	
	外国語	4		4		8	
	指揮法	2				2	
	民族音楽学	4				4	
	基礎教育科目	2	2	2	2	8	
教職に関する 専門科目	教育原理	2				2	
	教育心理学	2				2	
	音楽教育法	2				2	
	教育実習	2				2	
	道德教育の研究	2				2	

※ 「教育実習」「音楽教育法」の単位を4単位必要とする者は年度始めに教務係へ申し出ること。

※ 「民族音楽学」……昭和46年度は開講しない。

邦楽科 選択関連学科目「ピアノⅢ」の新設について
〔別紙添付されている〕



(『東京芸術大学音楽学部 昭和46年度入学生用 履修規程』1～23頁)

昭和48年度

器楽科（ピアノ）の選択関連学科目に「伴奏Ⅱ」「合奏Ⅱ」「室内楽」が増設される。

昭和49年度

声楽（独唱）と器楽科（ピアノ）の選択関連学科目に「スコアリーディング」が増設される。
また、声楽（独唱）には「合唱指導法」も増設される。指揮科の主要学科目には「演奏理論・楽曲分析」が増設される。

昭和52年度

邦楽科のカリキュラムは、これまで楽器および分野別に作成されていたのが、流派別となる（昭和62年度のカリキュラムに掲載）。

昭和53年度

副科ピアノのグレード制について記載され、グレードの選択方法などが詳細に指定される。
以下、その区分と注意書きを掲載する。

ハ. 副科ピアノ

副科ピアノ履修内容

I 必修 II 選択	年次 期別 科別	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	作曲科								
	声楽科	I	I	I	I	II	II	II	II
	器楽科								
	指揮科								
	楽理科	I	I	II	II	II	II	II	II
	邦楽科	II	II	II	II				

副科ピアノ I〔必修〕（関連学科目）

専攻科目	年次	グレード	単位数	
			前期	後期
作曲，指揮，オルガン	1	IV	1	1
	2	V	1	1
声楽，弦楽，管，打	1	III	1	1
	2	IV	1	1
楽理 イ) 入試をピアノ又はオルガンで受験した者 ロ) 入試を弦，管又は邦楽器で受験した者	1	(イ) IV (ロ) III	1	1

履修上の注意

- 各科の学生は所定の年次内に単位を修得しなければならない。(所定の年次内に単位の不足を生じた場合は引続き次の学期に不足単位を修得して行かなければならない)
- 表に示した各科のグレードは最低必修とする。

副科ピアノ II〔選択〕 (選択関連学科目)

専攻科目	年次	グレード	単位数	
			前期	後期
作曲, 指揮, オルガン	3	VI	1	1
	4	VII	1	1
声楽, 弦楽, 管, 打	3	V	1	1
	4	VI	1	1
楽理 イ) 入試をピアノ又はオルガンで受験した者 ロ) 入試を弦, 管又は邦楽器で受験した者	2	イ V ロ IV	1	1
	3	イ VI ロ V	1	1
	4	イ VII ロ VI	1	1
邦楽	1	I	1	1
	2	II	1	1

履修上の注意

- ピアノ (II) は, ピアノ (I) の所定の単位を修得した者と, 邦楽科の1年次, 2年次の学生が所定の手続 (履修願の提出) を経て履修することができる
- 履修願を提出した者がその取消しを求める場合は, 新年度授業開始後2週間以内に専門及び副科実技担当教官の承認を得て教務係に申告しなければならない
- 邦楽科の学生で教育職員免許状の取得を希望する場合は履修年限の延長を認めることがある

グレードの概要と履修要項

○概要

- 1) グレード I よりグレード VII までの段階を設け, それぞれのグレードには A 課題と B 課題が含まれる。
- 2) A 課題は, 各グレードの段階に応じたスケール, 練習曲, バッハ等の作品
- 3) B 課題は, 同一グレード内の A 課題とほぼ同程度の楽曲

○履修要項

- 1) 各グレード A, B 両課題を年度始めに発表し, それらの課題によって前期, 後期末に試験を行う
- 2) 各グレードは A 課題から先に受験し, その合格後に B 課題を受験するものとする。1 回の試験に A, B 両課題を同時に受験することはできない。
- 3) 同一グレードに含まれる A, B 両課題の試験に合格しなければ次のグレードに進むことはできない
- 4) グレードは初年次に履修しはじめたグレードより年次ごとに1段階づつ上のグレードを順次に修得して行かなければならない
- 5) 必修年次内の試験に不合格又は失格になった場合には, そのグレードを修得するまで受験を続けなければならない
- 6) 各科所定のグレードは最低必修を示してあるが, 担当教官の指示, 指導によってその上のグレードから履修をはじめても差し支えない
ただし, その場合, その後の履修方法は前4項に準じて行うものとする
- 7) 教育職員免許状の取得する者は, グレード IV を最低必修とする

(『東京藝術大学音楽学部 昭和53年度入学生用 履修規程』5～6頁)

昭和54年度

作曲科の選択関連学科目に「雅楽演奏」「ガムラン演奏」「西洋古楽演奏」が増設される。

昭和55年度

ピアノ以外の副科実技に関しての履修内容が以下のように増える。

(B) 副科実技の履修受付

副科実技の履修届受付は、毎年11月の所定の期間（学事暦に記載）に教務係で受付する。この履修届期間を過ぎて申し込んでも、原則として受け付けないので届期間に十分注意すること。

なお、室内楽IIの履修届期間は履修する年度の4月の履修届期間に教務係に申し込むこと。

○履修上の注意事項

(イ) 履修できる副科実技科目は、当該学生のカリキュラムで必要とされている「選択関連学科目」及び「教科に関する専門科目」とする。なお、当該学生の卒業に必要とされていない副科実技「自由選択科目」（卒業要件単位に含まれない科目）も実技指導教官の承認を受けて履修することができる。

(ロ) 履修できる科目数（副科ピアノを除く）

副科実技「選択関連学科目」—— 1学年・当該学生1科目。ただし、作曲科、指揮科、楽理科の学生は2科目まで

副科実技「自由選択科目」—— 1学年・当該学生1科目。ただし、作曲科、楽理科の学生は2科目まで。なお、担当教官の少ない実技科目については、履修できない場合がある。

(ハ) 履修申込方法

○副科ピアノII——副科ピアノ履修届用紙に記入して申し込む。

（副科ピアノ必修年次は履修届の必要なし）

○副科実技「選択関連学科目」——履修学生名簿の当該欄に○印を記入して申し込む。

○副科実技「自由選択科目」——副科実技自由選択科目履修届用紙に記入して申し込む。

(ニ) 副科実技科目一覧

番号	科 目	番号	科 目
1	副科 独 唱	11	副科 クラリネット
2	〃 オ ル ガ ン	12	〃 バ ス ー ン
3	〃 チ ェ ン バ ロ	13	〃 サクソフォーン
4	〃 バ イ オ リ ン	14	〃 ホ ル ン
5	〃 ビ オ ラ	15	〃 トランペット
6	〃 チ ェ ロ	16	〃 トロンボーン
7	〃 コントラバス	17	〃 チ ュ ー バ
8	〃 ハ ー プ	18	〃 打 楽 器
9	〃 フ ル ー ト	19	〃 長 唄 三 味 線
10	〃 オ ー ボ エ	20	〃 常盤津三味線

番号	科 目	番号	科 目
21	副科 清 元 三 味 線	31	副科 尺 八
22	〃 長 唄	32	〃 能 楽(観世流)
23	〃 常盤津	33	〃 〃 (宝生流)
24	〃 清 元	34	〃 能楽囃子 (笛)
25	〃 長唄囃子(小鼓)	35	〃 〃 (小鼓)
26	〃 〃 (大鼓)	36	〃 〃 (大鼓)
27	〃 〃 (太鼓)	37	〃 〃 (太鼓)
28	〃 〃 (笛)	38	〃 〃 狂 言
29	〃 箏 曲(山田流)	※	〃 ピ ア ノ II
30	〃 〃 (生田流)		

(『東京芸術大学音楽学部 昭和55年度入学生用 履修規程』7～8頁)

昭和56年度

邦楽科尺八専攻の選択関連学科目に「他様式の尺八」が増設される。また、室内楽の履修について以下のように記載されるようになる。

(ハ) 室内楽の履修

- 関連学科目及び選択関連学科目中の室内楽については、出席日数が足りない場合、あるいは無断で試験を受けない場合は「失格」となり、又成績が「不可」の場合も同じく単位は認められない。

室内楽履修表

専攻別 \ 年次 期別	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
弦 楽 器	I 4	II 2	II 2	II 2
管 ・ 打 楽 器	I 4	II 2	II 2	II 2
ピ ア ノ			II 2	II 2

注) I は関連学科目、II は選択関連学科目。数字は単位数を表わす。

- ピアノ・弦・管・打楽器専攻の学生は、室内楽IIを履修することが出来る。ピアノ専攻については3年次以上とし、弦・管・打楽器専攻については2年次以上とする。

室内楽IIの授業は、次の通り行なわれる。

- ・ピアノと弦楽器（管楽器）による編成はピアノ四重奏・五重奏を主とする。
- ・弦楽器は弦楽四重奏を主とし、三重奏～八重奏までとする。
- ・木管楽器（ホルンを含む）は木管五重奏・六重奏を主とし、三重奏～八重奏までとする。
- ・サクソフォンはサクソフォン四重奏を主とする。
- ・金管楽器は五重奏を主とする。

・打楽器は六重奏を主とする。

○履修にあたっては毎年4月の履修届出期間中に“室内楽実技履修願”をグループ単位で教務係に提出する。

○室内楽履修学生は毎年秋に行われる「芸大定期演奏会室内楽」のためのオーディションを受けることができ、これは毎年7月に行われる。

(『東京芸術大学音楽学部 昭和56年度入学生用 履修規程』9～10頁)

昭和57年度

声楽科独唱専攻の選択関連学科目に「舞台語発音法」と「オペラ楽曲研究」が増設される。
声楽科オペラ専攻には、「オラトリオ」が増設される。

昭和58年度

邦楽科の選択関連学科目に「器楽合奏」が増設される。また、邦楽科能楽の「能楽演奏論」は廃止される。

昭和60年度

器楽科(管打楽器)の選択関連学科目に「指揮法」が増設される。

ソルフェージュが、以下のように基礎と展開に分かれる。

ウ. ソルフェージュ ㊤

ソルフェージュの授業は、基礎から展開への2段階を通して行なわれる。

基礎の各クラスは、共通した授業内容をもつが、展開は授業内容に応じて独立したいいくつかのクラスに分れる。

対 象	科 目 名	単 位		単位区分	履 修 内 容
		前期	後期		
邦楽科以外 の 全 科	ソルフェージュ I a (基礎)	1	1	必 修 (4単位)	入学時に行ったソルフェージュ実 力考査試験によるクラス (I a 又は I b) で履修すること。 なお、I a (基礎) 履修者は、終 了試験に合格しなければ、I b (展 開) の履修ができない。
	ソルフェージュ I b (展開)	1	1		
	ソルフェージュ II (展開)	1	1	選 択	必修4単位を取得した者は、継続 して展開を履修することによりソ ルフェージュ II の単位として認める。
邦 楽 科	ソルフェージュ A (基礎)	1	1	必 修 (2単位)	入学時に行ったソルフェージュ実 力考査試験によるクラスで履修す ること。
	ソルフェージュ B (教職)	1	1	選 択	ソルフェージュ A (基礎) 2単位 を取得した者で、教職を希望する者 が履修できる。

(『昭和60年度 履修便覧 (東京芸術大学音楽学部)』19頁)

昭和61年度

器楽科にチェンバロ専攻が増設される。以下はそのカリキュラムである。

カ. 器 楽 科 チェンバロ専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計	
必修科目	主要 学 科 目	チェンバロ実技		3	3	3	3	3	3	3	3	24	42	76	
		基礎理論・楽曲分析		1	1	1	1	1	1	1	1	8			
		古楽演奏概論		2	2							4			
		学内演奏								2		2			
		卒業演奏								4		4			
	関連 学 科 目	ピアノ I		1	1							2	24		
		ソルフェージュⅠa (基礎)		1	1	1	1					4			
		ソルフェージュⅠb (展開)		1	1	1	1								
		音楽通史		4								4			
		和声 (初級)		4								4			
		和声 (中級)				4						4			
		通奏低音		2		2						4			
		合奏Ⅰ				2						2			
選択 科目	選択関連 学 科 目	合奏Ⅱ						2		2		10			
		オルガンⅠ・Ⅱ				1	1	1	1	1	1				
		指揮法						2							
		ソルフェージュⅡ (展開)						1	1	1	1				
		和声 (上級)						4							
		西洋古楽演奏				2		2		2					
			※「西洋古楽演奏」……楽理科開設選択関連科目 (注) 基礎教育科目「対位法」の履修が望ましい。												

(『昭和61年度 履修便覧 (東京芸術大学音楽学部)』26頁)

目 次

[原資料
中の頁]

I. 学則（抄）	1 頁
II. 音楽学部規則	4 頁
III. 音楽学部履修規程	7 頁
IV. 卒業要件単位について	8 頁
1. 一般教育科目	9 頁
(1) 開設科目一覧	9 頁
2. 外国語科目（含、専門外国語）	10 頁
(1) 開設科目一覧	10 頁
(2) 仏語の履修について	10 頁
(3) 伊語長文講読クラスの新設について	11 頁
(4) 各科ごとの履修について	11 頁
(5) その他	12 頁
(6) 言語・音声トレーニングセンター開設科目について	12 頁
3. 保健体育科目	12 頁
(1) 開設科目一覧	12 頁
(2) 履修について	12 頁
4. 基礎教育科目	13 頁
(1) 開設科目一覧	13 頁
(2) 履修について	14 頁
5. 専門教育科目	15 頁
(1) 専門教育科目の概要	15 頁
(2) 副科実技、室内楽、ソルフェージュ、和声等、専攻外邦楽について	15 頁
ア. 副科実技	15 頁
(A) 副科ピアノ	15 頁
① 履修区分表	15 頁
② グレードの概要と履修要領について	16 頁
③ 副科ピアノ I（必修）の履修について	16 頁
④ 副科ピアノ II（選択）の履修について	17 頁
⑤ 邦楽科学生の教育職員免許状の取得希望者の履修について	17 頁
(B) 副科ピアノ以外の副科実技	17 頁
1. 初級について	17 頁
2. 中級について	17 頁
○ 開設科目一覧	18 頁
3. 初級、中級の履修について	18 頁
イ. 室内楽	18 頁
ウ. ソルフェージュ	19 頁

エ. 和声等	20頁
オ. 専攻外邦楽（邦楽科学学生のみ対象）	20頁
(3) 各科教育課程（カリキュラム）修得単位年次表	
ア. 作曲科	21頁
イ. 声楽科（独唱専攻）	22頁
ウ. 〃 （オペラ専攻）	23頁
エ. 器楽科（ピアノ専攻）	24頁
オ. 〃 （オルガン専攻）	25頁
カ. 〃 （チェンバロ専攻）	26頁
キ. 〃 （弦楽専攻）	27頁
ク. 〃 （管打楽専攻）	28頁
ケ. 指揮科	29頁
コ. 楽理科	30頁
サ. 邦楽科（長唄三味線専攻）	32頁
シ. 〃 （常磐津三味線専攻）	33頁
ス. 〃 （清元三味線専攻）	34頁
セ. 〃 （長唄専攻）	35頁
ソ. 〃 （常磐津専攻）	36頁
タ. 〃 （清元専攻）	37頁
チ. 〃 （長唄囃子専攻）	38頁
ツ. 〃 （箏曲専攻）	39頁
テ. 〃 （尺八専攻）	40頁
ト. 〃 （能楽〈囃子を除く〉専攻）	41頁
ナ. 〃 （能楽囃子専攻）	42頁
V. 教職課程	43頁
(1) 免許状の種類	43頁
(2) 教職に関する専門科目	43頁
(3) 教科に関する専門科目	43頁
(4) その他の科目	44頁
(5) 他の大学または短期大学において修得した教職科目の単位の取扱いについて	44頁
ア. 申請できる科目	44頁
イ. 申請手続について	44頁
(6) 教育実習	45頁
(7) 教員免許状について	46頁
VI. 他の大学または短期大学において修得した単位の認定について	47頁
VII. 履修届	47頁
VIII. 音楽学部（大学院を含む）開設授業公欠の承認基準	48頁
略記法等（巻末）	

I 東京芸術大学学則（抄）

第1章 総則

第1節 目的

第1条 本学は、広く芸術に関する知識を授けるとともに、深く専門芸術の技能、理論及び応用の教授並びに研究を目的とする。

第2節 構成

第2条 本学に、次の学部を置く。

美術学部

音楽学部

2 学部の学科及び課程は、次のとおりとする。

音楽学部 作曲科

声楽科

器楽科

指揮科

楽理科

邦楽科

（特別教科教員養成課程）

第2章 学部

第1節 修業年限、学生定員

第22条 修業年限は、4年とする。

第23条 学生の定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	学生定員
音楽学部	作曲科	20	80
	声楽科	60	240
	器楽科	107	428
	指揮科	2	8
	楽理科	25	100
	邦楽科	33	132
	計	247	988

注 特別教科教員養成課程（音楽科）として入学定員30名音楽学部を含む。

第2節 学年、学期、休業日

第24条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第25条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

第26条 休業日（授業を行わない日）は、次のとおりとする。

日曜日および国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日

開学記念日 10月4日

春季休業 3月26日から4月9日まで

夏季休業 7月11日から8月31日まで

冬季休業 12月25日から翌年1月10日まで

第27条 春季、夏季及び冬季休業期間については、都合により変更することがある。

（注）当該年度の休業期間は、その都度、学事暦記載のとおり決定される。

第28条 第26条に定める休業日のほかに臨時の休業は、学長がそのつど定める。

2 前項の休業の中、授業の都合により3日以内の休業は、学部長が定めることができる。

第3節 入学、退学、転学、除籍、その他

第29条 入学、転学、休学、退学は、その学部教授会の議を経て、学長が許可する。

第34条 選抜試験をうけようとする者は、指定の期日までに入学願書及び所定の書類に入学検定料を添えて願出しなければならない。

第35条 選抜試験に合格した者は、指定の期日までに誓約書、戸籍抄本及びその他所要の書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。ただし、第65条の規定により入学料の免除の許可を受けようとする者については、入学料免除申請書の受理をもって、入学手続上入学料の納付にかえることができる。

第40条 編入学及び再入学については、第34条及び第35条の規定を準用する。

（授業欠席）

第41条 病気その他の理由により欠席しようとする者は、その期間及び理由を届け出なければならない。病気のため1週間以上欠席するときは、医師の診断書を添えなければならない。

（休学）

第42条 病気その他の理由により引き続き2か月以上欠席しようとする者は、所定の手続を経て休学することができる。病気のため休学するときは、医師の診断書を添えなければならない。

第43条 病気その他の理由で、修学が不適當と認められる者は、その学部教授会の議を経て学長が、休学させることができる。

第44条 休学の理由がやんだときは、復学願に医師の診断書又は理由書を添えて提出し、許可を得て復学することができる。

第45条 休学の期間は、1年以内とする。

2 特別な理由があるときは、許可を得て更に1年を限り休学を延長することができる。ただし、通算して2年を越えることはできない。

第46条 休学の期間は、これを在学期間に算入しない。

第47条 退学又は他の大学へ転学を希望する者は、その理由を添えて願出しなければならない。

(除籍処分)

第48条 次に掲げる各号の一に該当する者は、当該学部教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 在学6年にして卒業できない者
- (2) 2年の休学期間を経過した者
- (3) 授業料を滞納し督促をうけても納入しない者
- (4) 行方不明の者
- (5) 入学料の免除を申請し、免除の不許可又は半額免除の許可の告知を受け、所定の前日までに入学金を納付しない者

第4節 教育課程、履修、修了認定

第49条 授業科目は、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及び専門教育科目に分けるものとする。

- 2 前項に規定するもののほか、学部及び学科又は課程によっては、基礎教育科目を置くことができる。

第49条の2 教育職員免許状を取得しようとする者のため、教科及び教職に関する授業科目を開設する。

- 2 前項の授業科目及びその履修方法については、別に定める。
- 3 教育職員免許状の種類及び免許教科は、次の表のとおりとする。

学 部	免 許 状 の 種 類	免許教科
音楽学部	中学校教諭1級普通免許状 高等学校教諭2級普通免許状	音 楽

第50条 各科目の授業科目及び単位数は、別表Ⅰ及びⅡによるものとする。(別表省略)
(単位基準)

第50条の2 前条に規程する各授業科目に対する単位数は、次の基準によるものとする。

- (1) 講義については、教室内における1時間の講義に対して教室外における2時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週1時間15週の講義をもって1単位とする。ただし、教室外の準備のための学修が、基準どおりできない事情があるとき又は教育効果を考慮して必要があるときは、1時間半又は2時間の講義に対してそれぞれ教室外における1時間半又は1時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週1時間半又は2時間15週の講義をもって1単位とすることがある。
- (2) 演習については、教室内における2時間の演習に対して教室外における1時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週2時間15週の演習をもって1単位とする。ただし、授業科目の種類によっては、教室外の準備のための学修が基準どおりできない事情があるとき又は教育効果を考慮して必要があるときは、1時間の演習に対して教室外における2時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週1時間15週の演習をもって1単位と

することがある。

- (3) 実験、実習及び実技等の授業については、学修はすべて実験室、実習場、実技教室等で行われるものとして、毎週3時間15週の実験、実習又は実技をもって1単位とする。ただし、専門教育科目中の実技については、授業科目の種類によって、演習として取り扱うことがある。

第51条 学生は、各学部履修規程の定めるところにより所定の課程を履修しなければならない。

第52条 課程の修了は、〔科目の修了によるものとし、〔平成元年度訂正〕〕科目の修了の認定は、平常の出席及び成績によって行う。

2 成績の審査については、別に定める。

第53条 科目の修了者には、所定の単位を与える。

第53条の2 本学入学前に大学又は短期大学を卒業又は中途退学し新たに入学した学生の既修単位については、教授会の承認を得て本学において修得した単位として認定することができる。

ただし、修業年限を短縮することはできない。

第5節 卒業、学士称号

第54条 大学に4年以上在学し、各学部規則に定めるところにより合計124単位以上を修得した者については、各学部教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

2 学長は卒業を認定した者に対して卒業証書（別記様式）を授与する。

第55条 大学を卒業した者は、芸術学士と称することができる。

第3章 賞罰

第56条 学生にして表彰に値する行為があったとき、学長が、表彰することがある。

第57条 学生にして次の各号の一に該当する者あるときは、学長又は学部長が、これを懲戒するものとする。

- (1) 性行不良の者
- (2) 学力劣等の者
- (3) 正当の理由なく出席常でない者
- (4) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第58条 懲戒は退学、停学及び訓告とし、退学及び停学にあつては、その学部教授会及び評議会の議を経て学長が行い、訓告にあつては、その学部教授会の議を経て学部長が行うものとする。

II 東京芸術大学音楽学部規則

(昭和36年6月26日)
全 部 改 正

最近改正 昭和55年1月24日

第1章 総則

第1条 東京芸術大学音楽学部（以下「本学部」という。）に関する事項は、東京芸術大学学則に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

第2条 本学部の学科は、東京芸術大学学則第2条第2項に掲げるとおりとする。

第3条 学生の所属する科は指揮科への転科を除き、入学時において決定し、その変更は許可しない。

2 指揮科への転科は、教授会の議を経て学長が許可するものとする。

第4条 指揮科への転科は、邦楽科を除く各科に2年在学し、所定の単位を取得した者の中から選考するものとする。

2 前項の選考は、試験により行うものとする。

第2章 履修及び試験

第5条 学生は、音楽学部履修規程の定めるところにより、一般教育科目について人文、社会及び自然の3分野にわたり36単位、外国語科目について1の外国語の科目8単位、保健体育科目について講義及び実技4単位、専門教育科目76単位、合計124単位以上を履修しなければならない。ただし、一般教育科目については学科、課程又は専攻により修得すべき単位のうち12単位までを外国語科目、基礎教育科目についての単位で代えることができる。

2 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法に定める科目の単位を修得しなければならない。

(単位認定)

第5条の2 学則第53条の2に規定する単位認定は、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の単位について、履修規程の定めるところにより、合計30単位を超えない範囲で行うことができる。

(授業科目・時間割等)

第6条 授業科目、授業時間割及び担当教官は、学年の始めに公示する。ただし、臨時講義等についてはそのつど公示する。

第7条 学生は、所定の手続きによって履修科目の申告を行い、担当教官の承認を得なければならない。

(修了試験)

第8条 各科目の修了試験は、学期末又は学年末に行うものとする。ただし、学期又は学年の中途において授業が完結するとき、又は臨時講義等にあつては、そのつどこれを行うことがある。

(成績の評価)

第9条 試験の成績は秀・優・良・可及び不可の評語をもって表し、可以上を合格とし、不可は不合格とする。(注：(イ)参照)

第10条 試験に合格した者には、所定の単位を与える。

第11条 修了試験は、その科目の授業時数の $\frac{2}{3}$ 以上出席した者が受けることができる。(注：(ロ)参照)

(追 試 験)

第12条 前条の受験資格があつて病気又は事故のため試験を受けることができない者は、所定の期日までに追試験願に下記の書類をそえて、学部長に提出し、その許可を得て受験することができる。

病 気 の 場 合	医師の診断書
事 故 の 場 合	所轄の官署が発行する事故証明書

(卒業試験)

第13条 卒業試験は、次のとおりとする。

(1) 作曲科は、作品試験とする。

(2) 声楽科、器楽科、指揮科及び邦楽科は演奏試験とする。

第14条 卒業試験は、本学部にて3年をこえて在学した者で、所定の単位 $\frac{2}{3}$ 以上を取得した者が受けることができる。

第15条 卒業作品又は卒業論文は所定の日まで学部長に提出しなければならない。

第3章 演奏

第16条 学生は本学の演奏会又は本学が特に指定した演奏会に出演を命じられたときは、これに出演しなければならない。

第17条 学生が学外の演奏会等に出演しようとするとき、若しくは作品又は論文を学外に発表しようとするときはあらかじめ学長の許可を得なければならない。

第18条 第16条及び第17条の規定に違反した者は、東京芸術大学学則第57条及び第58条の規定により懲戒することがある。

第4章 楽器使用

第19条 学生は学修のため、特に必要があると認められるときは、本学所有の楽器を借り受けることができる。

2 前項により楽器を借り受けようとする者は、所定の借用証を提出し、学部長の許可を得なければならない。

第20条 前条により借り受けた楽器は、これを転貸してはならない。又返還を命じられたときは、直ちにこれを返還しなければならない。

第21条 借り受けた楽器を毀損した場合は、直ちにこれを返還し、本学の指示に従い修理しなければならない。又亡失若しくは修理不能のときは、本学の指示に従い弁償しなければならない。

第22条 学生は学部長の許可を得て、指定の時間に限り本学部備付のピアノ、オルガン等を使用することができる。

(注) (イ) 評点方法

(1) 学科関係は100点法による。(下記評点基準を参照)

(2) 実技関係は $\left\{ \begin{matrix} 5, & 4, & 3, & 2, & 1 \\ A_s, & A, & B, & C, & D \end{matrix} \right\}$ 法による。

(下記評点基準を参照)

(3) 出席不良等によって評点できない場合は「失格」。

評 点 基 準			
秀	100-95	A _s	5
優	94-80	A	4
良	79-60	B	3
可	59-50	C	2
不 可	49以下	D	1

(4) 追試験の成績は、当該者の得点から20%減じたものを評価の対象とする。

(ロ) 公欠(特別の事由により学部が認めた公の授業欠席)による場合は、当該者の授業回数に算入しない。

III 東京芸術大学音楽学部履修規程

46.2.23制定

第1条 東京芸術大学音楽学部規則第5条の規定に基づいて東京芸術大学音楽学部履修規程を定める。

第2条 音楽学部の授業科目、単位、履修方法は、学則並びに音楽学部規則に定めるもののほかこの規程の定めるところによる。

第3条 音楽学部における各学科、課程又は専攻の科目及び単位は別表のとおりとする。

第4条 学生は卒業の要件とする授業科目の履修に際しては、学生の所属する学科、課程又は専攻の指導教官の指導により所定の必修科目並びに選択科目を履修するものとする。

第5条 学生は前条に規定された授業科目のほかに、本学部内において開設する科目を、また本学他学部の科目を履修することができる。

2 前項の科目を履修しようとするときは、予め当該科目担当教官の承認を受けなければならない。

附則

1. この規程は昭和46年4月1日から施行する。

2. 昭和54年12月13日別表一部改正、昭和55年4月1日から施行する。ただし、別表VI、他大学で修得した

- 一般教育科目・保健体育科目・一般外国語科目の単位認定については、昭和54年度入学生から適用する。
- 昭和55年12月11日別表一部改正，昭和56年4月1日から施行する。
 - 昭和56年12月10日別表一部改正，昭和57年4月1日から施行する。
 - 昭和57年12月9日別表一部改正，昭和58年4月1日から施行する。弦楽専攻及び管打楽専攻並びに邦楽科の昭和58年4月1日在学生にも適用する。別表VI，他大学又は短期大学で修得した一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の単位の認定中短期大学にかかる部分については，昭和57年度入学生から適用する。
 - 昭和58年2月28日別表一部改正，即日施行する。
 - 昭和58年12月9日別表一部改正，即日施行する。
 - 昭和59年12月13日卒業要件単位等一部改正，即日施行する。

IV 卒業要件単位について

本学部を卒業するための要件単位は下表に示したとおりである。なお，この表はあくまでも最低必修単位であるので，各自この履修便覧をよく検討し，無理のない計画を立てて，単位を修得されたい。

区 分		一般教育 科 目	外 国 語 科 目 (含，専門外国語)	保健体育 科 目	基礎教育 科 目	専門教育 科 目	計
作 曲		36	8	4	任意に履修	76	124
声 楽	独 唱	36	一般 8 専門 12 } 20	4	〃	69 (除，専門外国語)	129
	オ ペ ラ	36	一般 8 専門 8 } 16	4	〃	75 (除，専門外国語)	131
器 楽	ピ ア ノ	36	8	4	〃	76	124
	オ ル ガ ン	36	8	4	〃	76	124
	チェンバロ	36	8	4	〃	76	124
	弦 楽	36	8	4	〃	78	126
	管 打 楽	36	8	4	〃	78	126
	指 揮	36	8	4	〃	78	126
楽 理		36	一般 8 専門 4 ~ 14 } 12~22	4	〃	78~92	130~154
邦 楽	長 唄 三 味 線 常 磐 津 三 味 線 清 元 三 味 線 長 唄 唄 常 磐 津 清 元	36	8	4	〃	76	124
	長 唄 囃 子	36	8	4	〃	78	126
	箏 曲	36	8	4	〃	80	128
	尺 八	36	8	4	〃	76	124
	能 楽	36	8	4	〃	76	124
	能 楽 囃 子	36	8	4	〃	76	124

(注) 楽理科の学生は，要件単位にとらわれることなく履修するように，外国語科目および専門教育科目は，単位数に幅をもたせている。

1. 一般教育科目

一般教育科目の履修は、人文・社会・自然の3分野と総合科目にわたり、36単位以上修得すること。なお、各分野（総合科目を除く）とも最低1科目は必ず修得しなければならない。（3分野のいずれをも欠くことができない。）

一般教育科目36単位のうち、12単位までは、基礎教育科目（12頁〔本書163頁〕参照）、外国語科目〔所定単位以上の単位（10頁〔本書160頁〕参照）〕又は専門教育科目〔所定単位以上の単位（各専攻の専門教育科目欄参照）〕の単位で代えることができる。（楽理科学生は、「基礎教育科目」以外は単位を代えることができない。）なお、当該最終年次生（4年次以上の者）は、履修登録期間内に所定の「単位修得計画書」及び「取得単位振替計画書」を教務係に提出しなければならない。
※人文・社会・自然の各分野からそれぞれ最低1科目を修得しなければならない。

(1) 開設科目一覧

分野	科 目	単位	備 考
人 文	美 学	4	36 単 位 〔各分野（総合科目を除く）とも最低1科目を必ず単位修得すること。ただし、12単位までは「基礎教育科目」「外国語科目」「専門教育科目」の単位で代えることができる。〕
	日 本 文 学	4	
	美 術	4	
	西洋文学Ⅰ（仏文学）	4	
	西洋文学Ⅱ（英米文学）	4	
	西 洋 哲 学 史	4	
	日 本 ・ 東 洋 思 想 史	4	
	倫 理 学	4	
	宗 教 学	4	
	邦 楽 鑑 賞 法	4	
	文 化 芸 術 論	4	
社 会	社 会 学	2	
	文 化 人 類 学（前期）	2	
	文 化 人 類 学	4	
	法学（含、日本国憲法）	4	
	歴 史	4	
	文 化 史	4	
	経 済 学	4	
自 然	心 理 学 概 説	4	
	自 然 科 学	4	
	音 響 学	4	
	音 声 学	4	
	音 響 生 理 学	4	
	楽 器 学	4	
総 合	総 合 講 義	4	

表中の略記について

- ☆ …美術学部で開講し、音楽学部学生も履修できる交流科目である。
 - ★ …音楽学部 // 美術学部学生 //
 - ※ …集中講義科目である。
 - ◎ …教職関連科目。教職を希望する者は、できるだけ履修することが望ましい。
- 注 1, 「文化人類学 (前期)」 2 単位と, 「文化人類学」 4 単位は, 同系科目なのでいずれかの単位しか認めない。(両方履修しても 6 単位とはならない。)
- 注 2, 「教育心理学」 (2 単位) を履修する予定の者は必修のこと。
- 注 3, 他大学 (短期大学を含む。) で修得した単位の認定については, 47 頁 (本書 198 頁) を参照のこと。
- 注 4, 「総合講義」 は, 昭和の偶数年度に音楽学部で, 奇数年度に美術学部で開講する。

2. 外国語科目 (含, 専門外国語)

外国語科目は, 読解技術等の修得を通じて, 様々な形での教養を身につけることを目的とした必修および選択科目である。なお, 楽理科学生以外は, 修得すべき一般教育科目の単位のうち, 12 単位までを所定の単位 [声楽科は 20 又は 16 単位, その他の科は 8 単位 (8 頁 (本書 158 頁) 参照)] を超えて修得した単位をもって振替えることができる。(9 頁 (本書 159 頁) 参照)

(1) 開設科目一覧

科 目	クラス	単位	履 修 内 容		
			授 業 [開設科目表の同一科目番号 による授業を受講する。]	条 件	そ の 他
英 語 独 語 仏 語 伊 語 露 語 (初級・中級のみ)	初級	4	1 年間 (週 2 回)	1 年次から履修すること。	既修得単位の科目で同一教官を再履修しても単位加算できないが, 他の教官ならば, 単位加算できる。
	中級	2 [露語は 4]	1 年間 (週 1 回) [露語は, 週 2 回] [授業する。]	初級または中級の単位を修得した者, および当該科目の担当教官が履修に相当する実力をもっていると認め, 許可された者でなければ履修できない。	
	上級	2	1 年間 (週 1 回)		既修得単位の科目の同一教官を再履修した場合, 単位加算できる。
羅 語	× ×	4	1 年間 (週 2 回)	英・独・仏・伊・露語の必修単位を修得してから履修することが望ましい。	既修得単位の科目を再履修しても単位加算できない。
語 学 演 習 (オランダ語)	× ×	無単位	1 年間 (週 1 回)		履修希望者数により, 受講生を制限することがある。

- (注 1) 昭和 60 年度以降入学者で仏語を履修する者は, 下記 (2) の区分によること。
- (注 2) 英語上級は, 美術学部学生も履修できる交流科目である。

(2) 仏語の履修について

昭和60年度以降入学者で仏語を履修する者は、下記のコース区分により履修すること。
(昭和60年度以前の入学者は、上記(1)の区分によること。)

コース	A		B		C		
内 容	3年間で初級文法を修了する。		2年間で初級文法を修了する。		1年間で初級文法を修了する。		
1 年 次	A I (初)	A I (初)	B I (初)	B I (初)	C I (初)	C I (初)	①仏語初級基礎演習
2 年 次	A II (初)	A II (初)	B II (初)	B II (初)	C II (中)	C II (中)	①仏語視聴覚演習等
3 年 次	A III (初)	①声楽仏語朗読法演習等を選択	B III (中)	①仏語会話・作文等を選択	C III (上)	言語・音声トレーニングセンター開設科目を選択	

履修条件等

A I はAコース1年次の意味で、以下同様である。

Aコースは3年間、初級程度の文法を基礎に学習させる着実コースで、他外国語も同時に学習せねばならぬ声楽科学生の負担を軽減し、しかも基本は身につけられるように配慮したものであり、発音を特に重視することとする。また、文法は、従来初年度は教科書の前半を、2年次には後半をというふうに分けて教授する方式を考えていたが、今年度からは独自の教科書を作製して、1年次には接続法に至る文法のごく基本をいちおうまんべんなく学習させることとし、2年次にはさらにそれを強化し、3年次(週1回)はその応用と習熟をさせるものである。

Bコース作曲・ピアノ・弦楽・管打・邦楽など本学部の実技学生の主要コースであり、学生の負担を考慮しつつ、2年間でほぼ初級程度の基礎と実力を把握させようとするものである。このコースの学生はフランス語が第1外国語となるので、もっとも大事なコースとなる。3年次には一般大学の中級程度の実力を身につけさせるものである。

Cコースは楽理科主体の普通コースで、1年次は言語・音声トレーニングセンター開設授業科目の「仏語初級基礎演習」(コラ教官、火曜1時限)を受講させ、週3コマ。また2年次には、コラ教官の「仏語視聴覚演習」、「仏語会話II」等も受講することを勧め、これも週3コマとし、3年次の上級では、ある程度の能力を発揮させるようにする。

注1. 原則として中級は初級の単位を、上級は中級の単位を取得した者でなければ履修できない。

注2. 卒業要件単位としての単位取得は(イ)初級のみ8単位 (ロ)初級4単位及び中級または上級から4単位計8単位のいずれかの方法によること。

(3) 伊語長文講読クラスについて ㊤

- ① 声楽科・楽理科学生の内、イタリア音楽を専攻する学生を対象とし、オペラ、詩歌、楽書等の講読により長文講読の習得の場を与えることを目的とする。
- ② 受講資格は伊語中級を習得した者とする。
- ③ 希望者には上級の単位（2単位）を与える。

(4) 各科ごとの履修について

対 象	履 修 科 目		単位 合計	条 件 等				
	一 般 外 国 語	専門外国語（含、国語）						
作曲科 器楽科 指揮科 邦楽科	英・独・仏のうち1科目を選択し、初級を4単位、中級または上級から4単位、計8単位を修得すること。 ただし、60年度以降入学者の仏語については初級のみ8単位でも可。	×	×	×	8	×	×	×
声楽科	独・仏・伊のうち1科目を選択し、初級を4単位、中級を4単位、計8単位修得すること。 ただし、60年度以降入学者の仏語については初級のみ8単位でも可。	第1専門 外 国 語	第2専門 外 国 語		独 唱 専攻者 20 オペラ 専攻者 16	英語の履修は、英語歌曲を専攻する者以外、外国語の必修単位に含ませない。 英語歌曲専攻者が英語を履修する場合、指導教官の承認を得て、教務係に届出ること。		
		一般外国語として選択した同一科目の上級を4単位修得すること。	左記以外の科目を1科目選択し、独唱専攻者は、初級4単位、中級以上から4単位、計8単位を、オペラ専攻者は初級・中級・上級のいずれから4単位を修得すること。					
楽理科	独・仏・伊・露のうち1科目を選択し、初級を4単位、中級以上から4単位、計8単位を修得すること。	英・独・仏・伊・露・羅・国語（古文）から任意に4単位～14単位修得すること。			12～22	英語は、楽理科学生の場合、上級に限り履修できる。この場合、他の外国語を8単位、中級まで履修することが望ましい。 英語上級の再履修による単位加算は、8単位を限度とする。 入学試験時に英語以外の科目で受験した者は、楽理科教室内で別途指示する。 独語初級は週3回の講義を履修し、試験に合格した者に4単位が与えられる。 国語（古文）は、邦楽科専門教育科目として開設している。		

(5) その他

楽理科以外の学生は、外国語科目の単位として認定された科目のほかに、修得した単位がある場合、12単位までは一般教育科目の単位として代えることができる。（9頁〔本書159頁〕参照）。

(6) 言語・音声トレーニングセンター開設科目について

「言語・音声トレーニングセンター」で開設されている科目を修得した場合、下表のとおり外国語科目の単位として認定する。（別紙「東京芸術大学言語・音声トレーニングセンター履修案内」を参照のこと。）

なお、既修得単位の科目を再履修しても、単位加算できない。

対 象	言語・音声トレーニングセンター	外国語科目として認定する内容等
楽理科 以外の 全 科	会 話 I 作 文 I 基礎演習 I・II 視聴覚演習 ㊤	左のうち、いずれかの1科目を2単位に限り 中級の単位として認定する。
	会 話 II 作 文 II	左のうち、いずれかの1科目を2単位に限り 上級の単位として認定する。
楽理科	会 話 I・II 作 文 I・II	左のそれぞれの科目を、専門外国語の単位と して認定する。 ＊ただし英語のIについては認めない。

3. 保健体育科目

保健体育科目は、講義と実技に分かれていて、そのいずれも修得しなければならない必修科目である。

(1) 開設科目一覧

科 目			履 修 内 容	単位
保健体育	講義	保健理論	集中講義（年2回…それぞれ出席すること。）	2
		体育理論	体育実技の時間に含めて行う。	
	実技	体育実技	週1回の授業を1年次に1年間、2年次以上に前期または後期いずれかを選択し、半年間受講する。	2

(2) 履修について

保健理論……………履修届期間に受け付ける。

体育実技・体育理論…ガイダンスを新入生は入学式の日に、2年次以上の者は新入生終了後に、それぞれ行い登録を受け付ける。（学事暦参照のこと。）
その他、体育の履修に関して相談がある場合は、直接、体育教官室へ行くこと。

4. 基礎教育科目

基礎教育科目は、専門教育の基礎となる授業科目で、専門教育に入る前に音楽に直接関連のある基礎の学習を与えることを目的とする選択科目である。

なお、修得すべき一般教育科目のうち12単位までを修得した基礎教育科目の単位をもって振替えることができる。

(1) 開設科目一覧

注1. 表中の科目に(奇)は昭和の奇数年度、(偶)は昭和の偶数年度、無印は毎年度開講する。

注2. 表中の科目に※は、履修条件のある科目である。(14頁〔本書165頁〕参照)

注3. ピアノ教授法1, 2は昭和62年度は開講しない。

注4. 専攻外邦楽Bは、昭和62年度から開設したもので、邦楽専攻生以外の学生のために開設したものである。

前 期			後 期			
科	目	単位	科	目	単位	
(奇)作曲家・作品研究A 1	(声 楽)	2	(奇)作曲家・作品研究A 2	(声 楽)	2	
(偶)作曲家・作品研究B 1	(鍵 盤)	2	(偶)作曲家・作品研究B 2	(鍵 盤)	2	
(奇)作曲家・作品研究C 1	(管 弦)	2	(奇)作曲家・作品研究C 2	(管 弦)	2	
(偶)作曲家・作品研究D 1	(室 内 楽)	2	(偶)作曲家・作品研究D 2	(室 内 楽)	2	
(奇)声 楽 史 A 1	(中世・ルネッサンス)	2	(奇)声 楽 史 A 2	(バロック・古典派)	2	
(偶)声 楽 史 B 1	(ロ マ ン 派)	2	(偶)声 楽 史 B 2	(近 代 ・ 現 代)	2	
(奇)オ ペ ラ 史 1	(古 典 派 まで)	2	(奇)オ ペ ラ 史 2	(ロマン派以後)	2	
(奇)鍵 盤 音 楽 史 A 1	(バロックまで)	2	(奇)鍵 盤 音 楽 史 A 2	(古 典 派)	2	
(偶)鍵 盤 音 楽 史 B 1	(ロ マ ン 派)	2	(偶)鍵 盤 音 楽 史 B 2	(近 代 ・ 現 代)	2	
(奇)室 内 楽 史 1	(ロマン派初期まで)	2	(奇)室 内 楽 史 2	(ロマン派中期以後)	2	
(偶)管 弦 楽 史 1	(ロマン派初期まで)	2	(偶)管 弦 楽 史 2	(ロマン派中期以後)	2	
(奇)音 楽 演 奏 史 1	(バロックまで)	2	(奇)音 楽 演 奏 史 2	(古 典 派 以 後)	2	
(奇)邦 楽 概 論 A 1	(邦楽基礎理論)	2	(奇)邦 楽 概 論 A 2	(邦楽基礎理論)	2	
(偶)邦 楽 概 論 B 1	(劇 音 楽)	2	(偶)邦 楽 概 論 B 2	(劇 音 楽)	2	
(奇)邦 楽 概 論 C 1	(器 楽)	2	(奇)邦 楽 概 論 C 2	(器 楽)	2	
(偶)邦 楽 概 論 D 1	(声 楽)	2	(偶)邦 楽 概 論 D 2	(声 楽)	2	
(奇)音 楽 理 論 史 1		2	(奇)音 楽 理 論 史 2		2	
(偶)音 楽 思 想 史 1		2	(偶)音 楽 思 想 史 2		2	
ジャズ・ポピュラー音楽 1		2	ジャズ・ポピュラー音楽 2		2	
楽 曲 分 析 1※		2	楽 曲 分 析 2※		2	
ピ ア ノ 伴 奏 理 論 1 (声 楽 曲)※		2	ピ ア ノ 伴 奏 理 論 2 (声 楽 曲)※		2	
ピ ア ノ 伴 奏 理 論 1 (器 楽 曲)※		2	ピ ア ノ 伴 奏 理 論 2 (器 楽 曲)※		2	
ピ ア ノ 教 授 法 1 (3 年 次 以 上)		2	ピ ア ノ 教 授 法 2 (3 年 次 以 上)		2	
通 年	科 目					単位
	対 位 法※					4
	管 弦 楽 概 論					4
	管 弦 楽 法※					4
	楽 式 原 論※					4
	電 子 音 楽 概 論※					4
	電 子 音 楽 法※					4
	AV メ デ ィ ア※					2
	音 楽 総 合 解 析					4
集 中 講 義	専 攻 外 邦 楽 B					2
	科 目					単位
	鍵盤楽器演奏法(チェンバロ)〈2年次以上〉					2
	音楽学関係科目(題目未定) 1					2
	音楽学関係科目(題目未定) 2					2

(2) 履修について

基礎教育科目は、一覧表のとおり、同じ科目名のものが前期と後期、また講義内容別に分かれている場合が多いが、それぞれ独立した科目として扱う。

なお、下表に示した科目は、履修条件があるので、注意すること。

科 目	履 修 条 件
管 弦 楽 法	作曲科以外の学生は、「管弦楽概論」を修得した者に限る。
対 位 法	作曲科学生は、履修できない。その他の学生は、「和声初級」を修得した者に限る。
管 弦 楽 概 論 楽 式 原 論 楽 曲 分 析	作曲科・指揮科・楽理科以外の学生は、「和声初級」を修得してからに限る。 また、作曲科以外の学生が「楽曲分析」を履修する場合、「楽式原論」を修得していることが望ましい。
電 子 音 楽 概 論 電 子 音 楽 法	作曲科学生で、専門教育科目「作曲実技Ⅱ」に「電子音楽作曲実技」を履修する者は、「電子音楽概論」と「電子音楽法」を修得していることが望ましい。 なお、上記以外の学生で、「電子音楽法」を履修する場合、「電子音楽概論」を履修している者に限る。
ピアノ伴奏理論（声楽曲） 昭和62年度は開講しない。	ピアノ専攻学生は、2年次から履修できるが、その他の学生は、3年次から履修すること。
〃（器楽曲） 昭和62年度は開講しない。	
A V メ デ ィ ア	一般教育科目の自然分野から2科目（音響学を含む。）以上を履修していることが望ましい。

5. 専門教育科目

専門教育科目は、それぞれの専攻、学年に応じて設定されている必修および選択科目である。以下、履修内容および方法等について概説するが、詳細については、各専攻ごとの指導教官等が行うガイダンスによること。

(1) 専門教育科目の概要

科 目	科 目 の 種 類	履 修 内 容	備 考
主 要 学 科 目 （専門実技等）	必 修	専門実技、理論および副科実技等を主体とした授業で、原則として週1回のレッスン等を行う。 また、各科目とも学年指定があり、前期・後期それぞれ単位が独立しているが、通年で1年間履修すること。	各専攻ごとの履修科目は21頁〔本書173頁〕以下を参照すること。
関 連 学 科 目 （副科実技等）		なお、副科実技等は必修と選択に分かれていて、選択科目を履修する場合、11月初旬の履修受付によること。（学事暦および副科実技の項を参照のこと。）	
選択関連学科目 （副科実技等）	選 択 〔所定の単位を選択し、修得しなければならない科目〕		

(2) 副科実技、室内楽、ソルフェージュ、和声等、専攻外邦楽について

ア. 副科実技

副科実技は、「副科ピアノ（Ⅰは必修、Ⅱは選択）」と「副科ピアノ以外の実技（すべて選択科目）」とが開設されている。

なお、選択科目の履修受付は、毎年11月初旬に行っているのので、学事暦および掲示で確認すること。（副科ピアノⅠは、履修登録をしなくてよい。）

(A) 副科ピアノ

①履修区分表（Ⅰは必修、Ⅱは選択） 下表区分に従い履修すること。

区 分	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
作 曲 科 声 楽 科 器 楽 科 指 揮 科	I	I	II	II
楽 理 科	I	II	II	II
邦 楽 科	II	II	II	II

※チェンバロ専攻の学生は1年次のⅠ（必修）のみ

②グレードの概要と履修要領について

○概 要

- 1) グレード1よりグレード7までの段階を設け、それぞれのグレードにはA課題とB課題が含まれる。
- 2) A課題は、各グレードの段階に応じたスケール、練習曲、バッハ等の作品。
- 3) B課題は、同一グレード内のA課題とほぼ同程度の楽曲。

○履修要領

- 1) 各グレードA、B両課題を年度始めに発表し、それらの課題によって前期、後期末に試験を行う。
- 2) 各グレードはA課題から先に受験し、その合格後にB課題を受験するものとする。
1回の試験にA、B両課題を同時に受験することはできない。
- 3) 同一グレードに含まれるA、B両課題の試験に合格しなければ、次のグレードに進むことはできない。
- 4) グレードは初年次に履修しはじめたグレードより年次ごとに1段階ずつ上のグレードを順次に修得して行かなければならない。
- 5) 必修年次内の試験に不合格又は失格になった場合には、そのグレードを修得するまで受験を続けなければならない。
- 6) 各科所定のグレードは最低必修を示してあるが、担当教官の指示、指導によってその上のグレードから履修をはじめても差し支えない。

ただし、その場合、その後の履修方法は前4項に準じて行うものとする。

7) 教育職員免許状を取得する者は、グレード4を最低必修とする。

③副科ピアノⅠ（必修）の履修について

専攻・科	年次	グレード	単位数	
			前期	後期
作曲、指揮、オルガン	1	4	1	1
	2	5	1	1
声楽、弦楽、管打楽	1	3	1	1
	2	4	1	1
楽理 (イ) 入試をピアノ又はオルガンで受験した者 (ロ) 入試を弦、管又は邦楽器で受験した者	1	(イ) 4 (ロ) 3	1	1

※チェンバロ専攻の学生は楽理(イ)の学生と同様の扱いとする。

履修上の注意

- 各科の学生は所定の年次内に単位を修得しなければならない。
(所定の年次内に単位の不足を生じた場合は、引き続き次の学期に不足単位を修得して行かなければならない) ただし、その期限は4年次までとする。〈5, 6年次の履修は認めない。〉
- 表に示した各科のグレードは最低必修とする。

④副科ピアノⅡ（選択）の履修について

専攻・科	年次	グレード	単位数	
			前期	後期
作曲、指揮、オルガン	3	6	1	1
	4	7	1	1
声楽、弦楽、管打楽	3	5	1	1
	4	6	1	1
楽理 (イ) 入試をピアノ又はオルガンで受験した者 (ロ) 入試を弦、管又は邦楽器で受験した者	2	(イ) (ロ) 5 4	1	1
	3	(イ) (ロ) 6 5	1	1
	4	(イ) (ロ) 7 6	1	1
邦楽	1	1	1	1
	2	2	1	1

履修上の注意

- ピアノ(Ⅱ)は、ピアノ(Ⅰ)の所定の単位を修得した者と、邦楽科の学生が所定の手続(履修願の提出)を経て履修することができる。
- 履修願を提出した者がその取消しを求める場合は、新年度授業開始後2週間以内に専門及び副科実技担当教官の承認を得て教務係に申告しなければならない。

⑤邦楽科学生の教育職員免許状の取得希望者の履修について

- 副科ピアノ履修は1年次より始めること。
- 失格、欠席、不合格で単位を落とした場合はその時点で打ち切り、以後の履修は認めない。
- 4年次までに、4グレードまでを取得しなければならない。

〔履修方法例〕

開始 グレード	年 次		1 年		2 年		3 年		4 年	
			前 期	後 期	前	後	前	後	前	後
1	グレードより取得する場合		1 A	1 B	2 A	2 B	3 A	3 B	4 A	4 B
2	〃		2 A	2 B	3 A	3 B	4 A	4 B		
3	〃		3 A	3 B	4 A	4 B				
4	〃		4 A	4 B						

(B) 副科ピアノ以外の副科実技

実技科目は、独唱、弦楽器、管楽器、打楽器、邦楽の各楽器等で開設されている選択科目である。授業は、初級と中級に区分されていて、その履修内容も異なっている。各実技科目とも2単位である。

1. 初級について

初級は、グループレッスン（10～15人）を主体に行う授業である。

開設科目（楽器等）は、年度ごとに異なるので、履修受付時（11月初旬）の掲示発表によること。ただし、教職専門科目となっている「独唱」は、毎年度開講する。（教職履修者以外は、履修できない。）

2. 中級について

中級は、個人レッスン授業である。履修者については、原則として初級を履修し、かつオーディションに合格した者を認める。ただし、初級を履修していない者であっても、オーディションに合格し、指導教官が認めた場合は、特例として履修できる。

○開設科目一覧

科 目		科 目		科 目		科 目	
声乐	独 唱	管 打 楽 器	フルート	邦 楽	長唄三味線	邦 楽	箏 曲(山田流)
鍵盤 楽器	オルガン		オーボエ		清元三味線		〃 (生田流)
	チェンバロ		クラリネット		常磐津三味線		尺 八
弦 楽 器	ヴァイオリン		ファゴット		長 唄		能 楽(観世流)
	ヴィオラ		サクソフォン		常 磐 津		〃 (宝生流)
	チェロ		ホルン		清 元		能楽囃子(笛)
	コントラバス		トランペット	楽	長唄囃子(小鼓)	楽	〃 (小 鼓)
	ハープ		トロンボーン		〃 (大鼓)		〃 (大 鼓)
			ユーフォニウム		〃 (太鼓)		〃 (太 鼓)
			チューバ		〃 (笛)		能楽狂言
			打 楽 器				

3. 初級、中級の履修について

各専攻学生が履修できる科目は、下表のとおりである。

履修区分表 ○印：履修可，×印：履修不可。

専攻別 副科実技		作曲科	声楽科	器 楽 科				指揮科	楽理科	邦楽科
				ピアノ	オルガン	弦楽	管打楽			
独 唱	初級	○	×	○	○	○	○	○	○	○
	中級	○	×	○	○	○	○	○	○	○
チェンバロ	初級	○	×	○	○	×	×	×	○	○
	中級	○	×	○	○	×	×	×	○	○
オルガン 弦 楽 器 管 打 楽 器 邦 楽 器	初級	○	×	○ ogのみ	×	×	×	○ 弦・管打楽のみ	○	○
	中級	○	×	○ ogのみ	×	×	×	○ 弦・管打楽のみ	○	○

注 ① 一年間に履修できる科目数は、作曲〔科〕・指揮科・楽理科の学生は2科目までとし、他の学生は1科目までとする。

ただし、教職履修者は、この他に「独唱」を履修できる。

② 「チェンバロ（初級・中級）」と副科ピアノⅡの併修は認めない。

③ 1年次生の受講は、認めない。

④ 試験は、前期・後期の2回または後期に1回行う。試験を放棄した者には、その期以降、当該楽器の履修を認めない。

イ. 室内楽 ㊤

履修区分表（初級は必修，中級・上級は選択，数字は単位数）

専攻別	年次	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
弦 楽 器		初 4	中 2	中 2 上 2	中 2 上 2
管 ・ 打 楽 器		初 2	中 2	中 2 上 2	中 2 上 2
ピ ア ノ		×	×	中 2	中 2 上 2

○室内楽中級の履修は、出席日数が足りない場合、あるいは試験を無断で受けない場合は「失格」とし、成績が「不可」の場合は「不合格」とする。

○室内楽上級の履修は、室内楽中級を履修したグループに限る。履修許可は、室内楽中級の単位認定試験の成績によって決められる。

○ピアノ・弦・管・打楽器専攻の学生は、それぞれの専門実技担当教官の承認を得て、室内楽中級を履修することができる。ピアノ専攻学生については3年次以上とし、弦・管・打楽器専攻学生は2年次以上とする。

○授業方法

室内楽初級はクラス授業として行う。室内楽中級は2グループ合同の小クラス授業として行う。室内楽上級はグループ別の授業として行う。

○編成は次の通りとする。

〈弦 楽 器〉 弦楽四重奏，弦楽五重奏，弦楽六重奏に限る。

(コントラバスとハープは例外とする。)

〈ピ ア ノ〉 ピアノ三重奏，ピアノ四重奏，ピアノ五重奏に限る。

〈木管楽器〉 木管四重奏，木管五重奏，木管八重奏に限る。

(サックスは例外とする)

〈金 管〉 金管五重奏に限る。(チューバ，ユーフォニアムは例外とする)

〈打 楽 器〉 打楽器合奏

○室内楽中級を弦楽器で履修するグループは教材として Haydn, Mozart, Beethoven, Schubert, Brahms 等の作品を選ぶこと。

○専攻楽器によって2グループ迄重複がみとめられる。

〈弦〉 チェロ，ヴィオラ

(ヴァイオリン専攻学生は，ヴィオラに持ちかえた場合のみ)

〈管〉 フルート，クラリネットを除いた楽器。

○履修にあたっては室内楽中級，室内楽上級とも前年度11月の副科実技履修申し込み受付期間と同時期に「室内楽履修願」をグループ単位で教務係に提出する。グループ構成員は，全員が同じ時間に履修できる者であること。

○試験で優秀な成績を修めたグループは「芸大定期演奏会室内楽」のためのオーディションを受けることができる。

ウ. ソルフェージュ

ソルフェージュの授業は，基礎から展開への2段階を通して行なわれる。

基礎の各クラスは，共通した授業内容をもつが，展開は授業内容に応じて独立したいくつかのクラスに分れる。

ソルフェージュ（展開）Ⅰb、及びⅡの履修について

1. ソルフェージュ（基礎）Ⅰa の終了試験に合格した学生が受講する。
2. ソルフェージュⅡ（展開）を選択する学生も下記の科目の中から受講すること。
3. 授業は通年、週二回（月木の同時限）とする（2単位）。ただし成績の優秀な学生は、教官の同意のもとに前期終了時に試験を受け（1単位取得）、別のクラスを履修することが出来る。
4. 訓練科目は以下の通りである。学生はこの中から選択する。ただしクラス編成の都合上、希望通りにならないこともある。

また、Score Reading の履修を希望する学生は、前もって行う試験に合格しなければならない。

課 目 名	時 限	クラス数	対 象 学 生	授 業 内 容
Score Reading （総譜視奏法）	月のみ Ⅲ・Ⅳ	3	ピアノが弾ける学生	オーケストラ・スコア、および各種スコアの視奏 〔準備訓練〕 弦楽四重奏、移調楽器のスコアの視奏 オーケストラ・スコアのピアノ編曲 （学生は各種音部記号の読譜に上達していることが望ましい）
Dechiffage <A> （初見視奏・器楽）	月・木Ⅰ 月・木Ⅱ	2 6	器楽科学生 ピアノが弾ける学生	器楽アンサンブルの形による初見視奏 〔準備訓練〕 専攻楽器を用いた初見視奏、リズム奏、楽譜の速読
Dechiffage （初見視奏・ 声楽伴奏）	月・木 Ⅱ	1	ピアノが弾ける学生	声楽レパートリー（歌曲・オペラ等）を声楽専攻学生と共に初見視奏 〔準備訓練〕 移調、ピアノ伴奏パートの初見視奏
Solfege <A> （教 育 法）			限定しない 教員免許取得希望者は受講するのが望ましい	（62年度より開講）
Solfege （リ ズ ム）	月・木 Ⅱ	1	限定しないが、原則として、声楽科学生を除く	リズムの構造分析的学習と応用
Solfege <C> （声楽専攻）	月・木 Ⅰ	3	声楽科学生を主とする	視唱（特に半音階的音程訓練と、視唱によるリズム訓練） （成績優秀者は Dechiffage を受講することができる）
Solfege <D> （ソルフェージュ 専攻）	月・木 Ⅱ	6	限定しない	視唱、リズム、読譜、聴音のより高度な訓練

対 象	科 目 名	単 位		単位区分	履 修 内 容
		前期	後期		
邦楽科以外の全 科	ソルフェージュⅠa (基礎)	1	1	必 修 (4単位)	入学時に行ったソルフェージュ実力考査試験によるクラス(Ⅰa又はⅠb)で履修すること。 なお、Ⅰa(基礎)履修者は、終了試験に合格しなければ、Ⅰb(展開)の履修ができない。
	ソルフェージュⅠb (展開)	1	1		
	ソルフェージュⅡ (展開)	1	1	選 択	必修4単位を取得した者は、継続して展開を履修することによりソルフェージュⅡの単位として認める。
邦 楽 科	ソルフェージュA (基礎)	1	1	必 修 (2単位)	入学時に行ったソルフェージュ実力考査試験によるクラスで履修すること。
	ソルフェージュB (教職)	1	1	選 択	ソルフェージュA(基礎)2単位を取得した者で、教職を希望する者が履修できる。

エ. 和声等

対 象	科 目 名	単位	単位区分	履 修 内 容
声 楽 科 器 楽 科	和 声	初級	4	必修 (1・2年次) 毎年、4月に履修者のクラスを指定する。
		中級	4	
		上級	4	
指 揮 科 楽 理 科	和 声	I	4	指揮科は、必修 (1・2年次) 楽理科は、選択 (1年次～) I・II、上級(指揮科のみ)と段階的に履修すること。
		II	4	
		上級	4	
邦 楽 科	西洋音楽理論	I	4	選 択 (1年次～)
		II	4	

オ. 専攻外邦楽

科 目 名	単 位	単位区分	履 修 内 容
専攻外邦楽	A 2 (通年)	選 択	邦楽科の各専攻において、開設している実技授業
	B 2 (通年)		専攻実技以外に、邦楽に関連した実技を行うクラス授業である。 毎年新しい内容を行い、それぞれ完結する。

(3) 各科教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

ア. 作曲科 専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数				
			期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計	
必修科目	主要 学 科 目	作 曲 実 技 I	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	24	48	76		
		作 曲 理 論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	16				
		学 内 作 品 発 表									4		4				
		卒 業 作 品									4		4				
	関連 学 科 目	ピ ア ノ I	1	1	1	1							4	12			
		ソルフェージュⅠa(基礎)	1	1	1	1							4				
		ソルフェージュⅠb(展開)	1	1	1	1											
		音 楽 通 史	4										4				
選択 科目	選 択 関 連 学 科 目	作 曲 実 技 II						3	3	3	3			16	76		
		ピ ア ノ II						1	1	1	1						
		ソルフェージュⅡ(展開)						1	1	1	1						
		スコアリーディング	2						2								
		ピ ア ノ 伴 奏 法						2		2							
		指 揮 法						2									
		合 唱						1		1							
		独 唱				2		2									
		弦 楽 器				2		2									
		管 楽 器				2		2									
		打 楽 器				2		2									
		邦 楽				2		2		2							
		雅 楽 演 奏			} 通年で各2（2～4）												
		ガ ム ラ ン 演 奏															
西 洋 古 楽 演 奏																	

	※「邦楽」は、邦楽科で開設されている実技授業のことで、そのいずれをも選択の対象とすることができる。 ※「雅楽演奏」「ガムラン演奏」「西洋古楽演奏」は、いずれも楽理科の開設科目である。31頁〔本書183頁〕の注意事項⑥を参照のこと。 ※「ピアノ伴奏法」は集中講義の予定である。 ※ピアノⅡのほかに、オルガン又はチェンバロを選択して履修することもできる。
--	--

イ. 声 楽 科 独唱専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次 期別		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要 学科 科目	声 楽 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	41	69 (81)		
		合 唱	1	1	1	1	1	1		6					
		室 内 合 唱					1		1	1	3				
		学 内 演 奏							4	4					
		卒 業 演 奏							4	4					
	関連 学科 科目	ピ ア ノ I	1	1	1	1					4	22 (34)			
		ソルフェージュⅠa(基礎)	1	1	1	1					4				
		ソルフェージュⅠb(展開)	1	1	1	1									
		オ ラ ト リ オ					2		2	4					
		オ ペ ラ 基 礎 演 技			2					2					
		和 声 (初級)	4							4					
		和 声 (中級)			4					4					
	専門外国語(注2参照)		(12)											(12)	
選択 科目	選 択 関 連 学 科 目	朗 読 法 演 習 ①							2	6					
		ピ ア ノ II					1	1	1		1				
		ソルフェージュⅡ(展開)					1	1	1		1				
		ピ ア ノ 伴 奏 法					2		2						
		スコアリーディング					2		2						
		指 揮 法					2								
		音 楽 通 史	4												
		和 声 (上級)					4								
		合 唱 指 導 法					2		2						
		舞 台 語 発 音 法					2								
		オ ペ ラ 楽 曲 研 究							2						
			※「オペラ楽曲研究」・「ピアノ伴奏法」……集中講義の予定である。 ※「オラトリオ」……集中講義の予定である。 ※「音楽通史」……教育職員免許状取得希望者は必ず修得すること。 ※「朗読法演習」……言語・音声トレーニングセンター開設科目「朗読法演習」を履修のこと。												

(注) 1. 3年次の4月の履修届期間内に独唱専攻かオペラ専攻かを選択して教務係に届出ること。

(注) 2. 専門外国語の履修については、10頁〔本書160頁〕を参照のこと。

ウ. 声 楽 科 オペラ専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次 期別		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要 学 科 目	声 楽 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	24	49	75 (83)
		合 唱	1	1	1	1	1	1					6		
		室 内 合 唱					1		1	1			3		
		オ ペ ラ 基 礎 演 技				2							2		
		オ ペ ラ 実 習 I						2					2		
		オ ペ ラ 実 習 II								2			2		
		ボディ・テクニク								2			2		
		学 内 演 奏									4		4		
	関 連 学 科 目	卒 業 演 奏 (独 唱)										4	4		
		ピ ア ノ I	1	1	1	1							4		
		ソルフェージュⅠa (基礎)	1	1	1	1							4		
		ソルフェージュⅠb (展開)	1	1	1	1									
		和 声 (初級)		4									4		
		和 声 (中級)				4							4		
		舞 台 語 発 音 法							2				2		
		専門外国語(注2参照)	(8)										(8)		
選 択 科 目	選 択 関 連 学 科 目	朗 読 法 演 習 ①								2		8			
		音 楽 通 史		4											
		ピ ア ノ II					1	1	1	1					
		ソルフェージュⅡ(展開)					1	1	1	1					
		ピ ア ノ 伴 奏 法					2		2						
		指 揮 法					2								
		和 声 (上級)							4						
		合 唱 指 導 法						2		2					
		オ ペ ラ 楽 曲 研 究									2				
		オ ラ ト リ オ						2		2					
			※「オペラ実習Ⅰ」……芸大定期オペラ公演に合唱を伴うときには、通常のオペラ実習の授業の他に、そのための臨時練習（7月～9月）と公演に参加しなければならない。（音楽学部規則16条，18条参照） ※「音楽通史」……教育職員免許状取得希望者は必ず修得すること。 ※「朗読法演習」……言語・音声トレーニングセンター開設科目「朗読法演習」を履修のこと。 ※「オペラ楽曲研究」・「ピアノ伴奏法」……集中講義の予定である。												

(注) 1. 3年次の4月の履修届期間内に独唱専攻かオペラ専攻かを選択して教務係に届出ること。

(注) 2. 専門外国語の履修については、10頁〔本書160頁〕を参照のこと。

エ. 器 楽 科 ピアノ専攻

教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計
必修科目	主要 学 科 目	ピ ア ノ 実 技		3	3	3	3	3	3	3	3	3	24	38	76
		演奏理論・楽曲分析		1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		学 内 演 奏						2					2		
		卒 業 演 奏								4		4			
	関 連 学 科 目	合 奏 I		2		2							4	24	
		伴 奏 I		2		2							4		
		ソルフェージュⅠa(基礎)		1	1	1	1						4		
		ソルフェージュⅠb(展開)		1	1	1	1								
		音 楽 通 史		4									4		
		和 声 (初級)		4									4		
		和 声 (中級)				4							4		
	選 択 関 連 学 科 目	合 唱		1		1								14	
		ソルフェージュⅡ(展開)						1	1	1	1				
チェンバロ又はオルガン							2								
スコアリーディング							2		2						
和 声 (上級)							4								
合 奏 Ⅱ							2		2						
伴 奏 Ⅱ							2		2						
室 内 楽 (中級)							2		2						
室 内 楽 (上級)									2	㊦					
			※「合奏Ⅰ」は9月（前期集中講義期間）に、「合奏Ⅱ」は7月（前期集中講義期間）にそれぞれ集中して行う。（履修届は4月の履修届期間に行う） (注) 伴奏Ⅱ受講者はソルフェージュⅡ及びスコアリーディングを併修することが望ましい。												

オ. 器 楽 科 オルガン専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次 期別		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要 学 科 目	オルガン実技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	42	76		
		基礎理論・楽曲分析	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		オルガン演奏概論	2	2							4				
		学 内 演 奏							2		2				
		卒 業 演 奏							4		4				
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ I	1	1	1	1					4	20			
		ソルフェージュⅠa(基礎)	1	1	1	1					4				
		ソルフェージュⅠb(展開)	1	1	1	1									
		音 楽 通 史	4								4				
		和 声 (初級)	4							4					
		和 声 (中級)					4				4				
選 択 科 目	選 択 関 連 学 科 目	オルガン即興実技			1	1	1	1	1	1		14			
		ピ ア ノ II					1	1	1	1					
		チ ェ ン バ ロ					1	1	1	1					
		ソルフェージュII(展開)					1	1	1	1					
		和 声 (上級)					4								

カ. 器 楽 科 チェンバロ専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計	
必修科目	主要 学 科 目	チェンバロ実技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	42	76		
		基礎理論・楽曲分析	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		古楽演奏概論	2	2							4				
		学内演奏							2		2				
		卒業演奏							4		4				
	関連 学 科 目	ピアノⅠ	1	1								2		24	
		ソルフェージュⅠa(基礎)	1	1	1	1						4			
		ソルフェージュⅠb(展開)	1	1	1	1									
		音楽通史	4									4			
		和声(初級)	4									4			
		和声(中級)			4							4			
		通奏低音	2		2							4			
		合奏Ⅰ			2							2			
選択 科 目	選択 関 連 学 科 目	合奏Ⅱ					2		2		10				
		オルガンⅠ・Ⅱ			1	1	1	1	1	1		1			
		指揮法					2								
		ソルフェージュⅡ(展開)					1	1	1	1		1			
		和声(上級)					4								
		西洋古楽演奏			2		2		2						
					※「西洋古楽演奏」……楽理科開設選択関連科目 (注)基礎教育科目「対位法」の履修が望ましい。										

キ. 器 楽 科 弦楽専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
科目	授業科目	年次 期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要 学科 目	専 攻 実 技 ()	3	3	3	3	3	3	3	3	24	30	78
		学 内 演 奏					2				2		
		卒 業 演 奏 ()							4		4		
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ I	1	1	1	1					4	42	
		ソルフェージュⅠa(基礎)									4		
		ソルフェージュⅠb(展開)											
		弦 楽 合 奏	4							4			
		オ ー ケ ス ト ラ			6		6		6	18			
		和 声 (初級)	4							4			
		和 声 (中級)			4					4			
		室 内 楽 (初級)	4							4			
選 択 科 目	選 択 関 連 学 科 目	ピ ア ノ II				1	1	1	1	6			
		ソルフェージュⅡ(展開)				1	1	1	1				
		室 内 楽 (中級)			2		2		2				
		室 内 楽 (上級)					2 ㊥		2 ㊥				
		音 楽 通 史		4									
		和 声 (上級)					4						
			※「音楽通史」……教育職員免許状取得希望者は必ず修得すること。										

ク. 器 楽 科 管打楽専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次 期別		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要 学 科 目	専 攻 実 技 ()	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	24	30	78
		学 内 演 奏									2		2		
		卒 業 演 奏 ()									4		4		
	関 連 学 科 目	ピ ア ノ I	1	1	1	1							4	42	
		ソルフェージュⅠa(基礎)	1	1	1	1							4		
		ソルフェージュⅠb(展開)	1	1	1	1									
		音 楽 通 史	4									4			
		オ ー ケ ス ト ラ			} 6		} 6		6		20				
		管 打 合 奏 I	2												
		室 内 楽 (初級)	2						2						
		和 声 (初級)	4						4						
	和 声 (中級)			4				4							
選 択 科 目	選 択 関 連 学 科 目	管 打 合 奏 II								4		6			
		室 内 楽 (中級)			2		2		2						
		室 内 楽 (上級)					2 ㊥		2 ㊥						
		ピ ア ノ II					1	1	1	1					
		ソルフェージュⅡ(展開)					1	1	1	1					
		管弦楽基礎奏法研究					4								
		和 声 (上級)					4								
		指 揮 法					2 ㊥								
※管弦楽基礎奏法研究は、打楽器専攻生に限り履修できる。															

ケ. 指揮科

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			期別		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要 学科目	指 揮 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	24	42	78		
		指 揮 理 論	2	2						4					
		演奏理論・楽曲分析	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		学 内 演 奏							2	2					
		卒 業 演 奏							4	4					
	関連 学科目	スコアリーディングⅠ		2		2					4	24			
		ピ ア ノ Ⅰ	1	1	1	1				4					
		ソルフェージュⅠa(基礎)	1	1	1	1				4					
		ソルフェージュⅠb(展開)	1	1	1	1									
		弦管打楽器実技Ⅰ		2		2			4						
		和 声 Ⅰ		4					4						
		和 声 Ⅱ				4			4						
選択 科目	選 択 関 連 学 科 目	スコアリーディングⅡ					2		2	12					
		弦管打楽器実技Ⅱ					2		2						
		独 唱		2											
		合 唱				1		1							
		ピ ア ノ Ⅱ					1	1	1		1				
		ソルフェージュⅡ(展開)					1	1	1		1				
		音 楽 通 史		4											
		和 声 (上級)					4								
				※「音楽通史」……教育職員免許状取得希望者は必ず修得すること。 ※関連学科目・選択関連学科目「弦管打楽器実技Ⅰ・Ⅱ」の履修は指揮実技担当教官の指示により専攻楽器を選ぶこと。											

コ. 楽 理 科

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目			授業科目	年次 期別	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数						
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計				
主 要 学 科 目	必 修	音 楽 学 概 説		4	4	4	4					24	42						
		音 楽 学 実 習					2		2										
		卒 業 論 文							4										
	選 択 関 連 （9科目中3科目を選ぶ） 注①参照	音 楽 美 学	講義 演習	4 2	6										18				
		民 族 音 楽 学	講義 演習	4 2	6														
		音 楽 音 響 学	講義 演習	4 2	6		※昭和の偶数年度に開講する。												
		日 本 音 楽 史Ⅰ	講義 演習	4 2	6		※昭和の奇数年度に開講する。												
		日 本 音 楽 史Ⅱ	講義 演習	4 2	6		※昭和の偶数年度に開講する。												
		東 洋 音 楽 史	講義 演習	4 2	6														
		西 洋 音 楽 史Ⅰ	講義 演習	4 2	6														
		西 洋 音 楽 史Ⅱ	講義 演習	4 2	6		※昭和62年度は開講しない。												
		西 洋 音 楽 史Ⅲ	講義 演習	4 2	6		※昭和63年度は開講しない。												
関 連 学 科 目	必 修	ソルフェージュⅠa（基礎）		1	1	1	1					4	8	78～92					
		ソルフェージュⅠb（展開）		1	1	1	1												
		合 唱		1		1									2				
		ピ ア ノ		1	1										2				
	選 択	基 礎 教 育 科 目	前・後の各期で各2										13頁〔本書164頁〕参照			10	36～50		
		楽 書 講 読	通年で各2										注②参照						
		特 殊 講 義	通年で各4										注③参照						
		大学院音楽学専攻 開設授業科目	通年で各4										注④参照						
		研 究 旅 行	2										注⑤参照						
		声 楽 ・ 器 楽	通年で各2 ※昭和の偶数年度開講 ※昭和の奇数年度開講										10～16			8～16			
		邦 楽 演 奏																	
		西 洋 古 楽 演 奏																	
		ガ ム ラ ン 演 奏																	
		シ タ ー ル 演 奏																	
		伽 倻 琴 演 奏																	
		スコアリーディング											注⑥参照						
		採 音 楽 理 論	和 声Ⅰ		4														
			和 声Ⅱ		4														
			◎ 対 位 法		4														
	音 楽 分 析 論		注⑧	4															
	◎ 楽 式 原 論			4															
	◎ 管 弦 楽 概 論		注⑦	4															
	◎ 管 弦 楽 法			4															
	◎ 楽 曲 分 析		注⑦	2～4	◎印で示した科目は基礎教育科目														

◎印で示した科目は基礎教育科目

外国語（一般8，専門4～14） 合計 12～22単位

科 目	単 位	単位合計
注⑦ 英語，独語，仏語， 伊語，露語	} このうち1つを } 8単位	12～22
羅語 国語（古文）	} 前記の8単位の外 } 任意に4～14 } ※国語（古文）は音楽学部邦楽科開設科目	

注意事項

- ① 9科目中3科目を選ぶ際に，たとえば，ⅠとⅡはそれぞれ別の科目として取扱うので，その両者を取得すれば2科目となる。各科目は講義，演習の両方を履修したうえで，はじめて単位（6単位）として認められる。ただし，同一年度内に履修する必要はない。
- ② 英・独・仏・伊・羅（ただし伊と羅は隔年交代）古文。
- ③ 特殊講義は美術学部開講授業を含み，そのうち必要なもの。
- ④ ただし，原典特殊講義はのぞく。
- ⑤ 3年次を優先とする。
- ⑥ 雅楽演奏・西洋古楽演奏・ガムラン演奏はそれぞれⅠとⅡを開講するが，Ⅰは初心者用，Ⅱは経験者用なので，同一年度に両方を履修することはできない。
 ○シタール演奏は昭和の偶数年度に，伽倻琴演奏は昭和の奇数年度にそれぞれ開講する。
- ⑦ この規程は，在学生全員に適用する。
- ⑧ 現在のところ開講の予定はない。

サ. 邦 楽 科 長唄三味線専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次 期別		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要 学 科 目	長 唄 三 味 線 実 技	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	16	24	76
		総 合 実 習	1		1		1		1		1		4		
		学 内 演 奏									2		2		
		卒 業 演 奏									2		2		
科 目	関連 学 科 目	長 唄 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	22	
		長 唄 囃 子 実 技 Ⅰ (小鼓・大鼓・太鼓)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		三味線音楽演奏論	4										4		
		ソルフエージュA(基礎)	1	1									2		
選 択 関 連 科 学 目		長 唄 囃 子 実 技 Ⅱ (笛・ < 竹笛・能管 >)	1～4										10	14	
		邦 楽 合 奏 研 究					2～4								
		専 攻 外 邦 楽 A	2～												
		専 攻 外 邦 楽 B	2～16												
		※ 雅 楽 演 奏					2								
		研 究 旅 行					2								
		※日本音楽史Ⅰ 講義	4										6		
		〃 演習	2												
		※日本音楽史Ⅱ 講義	4												
		〃 演習	2												
		※東洋音楽史 講義	4												
		〃 演習	2												
		※民族音楽学 講義	4												
		〃 演習	2												
		国 語 (古 文)					4								
		邦 楽 歌 詞 研 究					4								
		ピ ア ノ Ⅱ	1	1	1	1					6				
		ピアノ以外の洋楽器					2～								
		器 楽 合 奏	1												
		独 唱					2～								
		合 唱	1		1										
		ソルフエージュB(教職)					2								
		音 楽 通 史	4												
西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ	4～8														
指 揮 法							2								
			①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏，東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中，日本音楽史Ⅰ・Ⅱ，東洋音楽史，民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。												

シ. 邦 楽 科 常磐津三味線専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計	
必修	主要 学科目	常磐津三味線実技	2	2	2	2	3	3	3	3	20	28			
		総合実習	1		1		1		1		4				
		学内演奏							2		2				
		卒業演奏							2		2				
科 目	関連 学科目	常磐津実技	1	1	1	1	1	1	1	1	8	18			
		長唄囃子実技Ⅰ (小鼓・大鼓・太鼓)	1	1	1	1					4				
		三味線音楽演奏論	4								4				
		ソルフェージュA(基礎)	1	1						2					
選 択 科 目	選 択 開 連 科 目	他様式の浄瑠璃	1	1	1～6									10	
		長唄囃子実技Ⅰ (小鼓・大鼓・太鼓)			1～4										
		長唄囃子実技Ⅱ (笛・<竹笛・能管>)			1～4										
		邦楽合奏研究			2～4										
		専攻外邦楽A	2～												
		専攻外邦楽B	2～16												
		※雅楽演奏			2										
		研究旅行			2										
		※日本音楽史Ⅰ 講義	4								14				
		〃 演習	2												
		※日本音楽史Ⅱ 講義	4												
		〃 演習	2												
		※東洋音楽史 講義	4												
		〃 演習	2												
		※民族音楽学 講義	4												
		〃 演習	2												
		国語(古文)			4										
		邦楽歌詞研究			4										
		ピアノⅡ	1	1	1	1									6
		ピアノ以外の洋楽器			2～										
		器楽合奏	1												
		独唱			2～										
		合唱	1		1										
		ソルフェージュB(教職)			2										
音楽通史	4														
西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ	4～8														
指揮法			2												
①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏、東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中、日本音楽史Ⅰ・Ⅱ、東洋音楽史、民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。															

ス. 邦 楽 科 清元三味線専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目	授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要学科目	清 元 三 味 線 実 技	2	2	2	2	3	3	3	3	20	28	76	
	総 合 実 習	1		1		1		1		4				
	学 内 演 奏							2		2				
	卒 業 演 奏							2		2				
関連学科目	清 元 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	8	18	76		
	長 唄 囃 子 実 技 Ⅰ (小鼓・大鼓・太鼓)	1	1	1	1					4				
	三味線音楽演奏論	4												4
	ソルフェージュA(基礎)	1	1							2				
選択科目	関係科目	他 様 式 の 浄 瑠 璃	1～6									10	76	
		長 唄 囃 子 実 技 Ⅰ (小鼓・大鼓・太鼓)	1～4											
		長 唄 囃 子 実 技 Ⅱ (笛・<竹笛・能管>)	1～4											
		邦 楽 合 奏 研 究	2～4											
		専 攻 外 邦 楽 A	2～											
		専 攻 外 邦 楽 B	2～16											
		※ 雅 楽 演 奏	2											
		研 究 旅 行	2											
		※日本音楽史Ⅰ 講義	4											
		〃 演習	2											
		※日本音楽史Ⅱ 講義	4											
		〃 演習	2											
		※東洋音楽史 講義	4											
		〃 演習	2											
		※民族音楽学 講義	4											
		〃 演習	2											
		国 語 (古 文)	4											
		邦 楽 歌 詞 研 究	4											
		ピ ア ノ Ⅱ	1	1	1	1						6		
		ピアノ以外の洋楽器	2～											
		器 楽 合 奏	1											
		独 唱	2～											
		合 唱	1	1										
		ソルフェージュB(教職)	2											
		音 楽 通 史	4											
		西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ	4～8											
		指 揮 法	2											
①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏、東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中、日本音楽史Ⅰ・Ⅱ、東洋音楽史、民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。														

セ. 邦楽科 長唄専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目			授業科目	年次 期別	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要 学 科 目	長 唄 実 技	2	2	2	2	2	2	2	2	2	16	24	76	
		総 合 実 習	1		1		1		1		4				
		学 内 演 奏							2		2				
		卒 業 演 奏							2		2				
科目	関連 学 科 目	長唄三味線実技	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	22		
		長唄囃子実技Ⅰ (小鼓・大鼓・太鼓)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
		三味線音楽演奏論	4								4				
		ソルフェージュA(基礎)	1	1							2				
選択 関 連 学 科 目	選 択 関 連 学 科 目	長唄囃子実技Ⅱ (笛・<竹笛・能管>)	1～4								10	14			
		邦 楽 合 奏 研 究					2～4								
		専 攻 外 邦 楽 A	2～												
		専 攻 外 邦 楽 B	2～16												
		※ 雅 楽 演 奏			2										
		研 究 旅 行					2								
		※日本音楽史Ⅰ 講義	4								6				
		〃 演習	2												
		※日本音楽史Ⅱ 講義	4												
		〃 演習	2												
		※東洋音楽史 講義	4												
		〃 演習	2												
		※民族音楽学 講義	4												
		〃 演習	2												
		国 語 (古 文)			4										
		邦 楽 歌 詞 研 究			4										
		ピ ア ノ Ⅱ	1	1	1	1									
		ピアノ以外の洋楽器			2～										
		器 楽 合 奏	1												
		独 唱			2～										
		合 唱	1		1										
		ソルフェージュB(教職)	2												
		音 楽 通 史	4												
		西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ	4～8												
		指 揮 法					2								
					①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏，東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中，日本音楽史Ⅰ・Ⅱ，東洋音楽史，民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。										

ソ. 邦 楽 科 常磐津専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次 期別		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計		
必修科目	主要 学 科 目	常 磐 津 実 技	2	2	2	2	3	3	3	3	20	28	76				
		総 合 実 習	1		1		1		1		4						
		学 内 演 奏							2		2						
		卒 業 演 奏							2		2						
	関連 学 科 目	常磐津三味線実技	1	1	1	1	1	1	1	1	8	18					
		長 唄 囃 子 実 技 Ⅰ (小鼓・大鼓・太鼓)	1	1	1	1					4						
		三味線音楽演奏論	4								4						
		ソルフェージュA(基礎)	1	1							2						
選択 科目	関連 学 科 目	他 様 式 の 浄 瑠 璃			1～6										10		
		長 唄 囃 子 実 技 Ⅰ (小鼓・大鼓・太鼓)							1～4								
		長 唄 囃 子 実 技 Ⅱ (笛・<竹笛・能管>)							1～4								
		邦 楽 合 奏 研 究							2～4								
		専 攻 外 邦 楽 A	2～								14						
		専 攻 外 邦 楽 B	2～16														
		※ 雅 楽 演 奏							2								
		研 究 旅 行							2								
		※日本音楽史Ⅰ 講義	4														
		〃 演習	2														
		※日本音楽史Ⅱ 講義	4														
		〃 演習	2														
		※東洋音楽史 講義	4														
		〃 演習	2														
		※民族音楽学 講義	4														
		〃 演習	2														
		国 語 (古 文)			4												
		邦 楽 歌 詞 研 究			4												
		ピ ア ノ Ⅱ	1	1	1	1									6		
		ピアノ以外の洋楽器			2～												
		器 楽 合 奏	1														
		独 唱			2～												
		合 唱	1		1												
		ソルフェージュB(教職)	2														
		音 楽 通 史	4														
		西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ	4～8														
指 揮 法					2												
①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏、東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中、日本音楽史Ⅰ・Ⅱ、東洋音楽史、民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。																	

タ. 邦 楽 科 清元専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目			授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
				期別		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要学科目	清 元 実 技	2	2	2	2	3	3	3	3	20	28	76			
		総 合 実 習	1		1		1		1		4					
		学 内 演 奏							2		2					
		卒 業 演 奏							2		2					
科目	関連学科目	清 元 三 味 線 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	8	18				
		長 唄 囃 子 実 技 I (小鼓・大鼓・太鼓)	1	1	1	1					4					
		三味線音楽演奏論	4								4					
		ソルフェージュ A (基礎)	1	1							2					
選択科目	関係学科目	他 様 式 の 浄 瑠 璃			1 ～ 6									10		
		長 唄 囃 子 実 技 I (小鼓・大鼓・太鼓)			1 ～ 4											
		長 唄 囃 子 実 技 II (笛・く竹笛・能管)			1 ～ 4											
		邦 楽 合 奏 研 究			2 ～ 4											
		専 攻 外 邦 楽 A	2 ～													
		専 攻 外 邦 楽 B	2 ～ 16													
		※ 雅 楽 演 奏			2											
		研 究 旅 行			2											
		※日本音楽史 I 講義	4								14					
		〃 演習	2													
		※日本音楽史 II 講義	4													
		〃 演習	2													
		※東洋音楽史 講義	4													
		〃 演習	2													
		※民族音楽学 講義	4													
		〃 演習	2													
		国 語 (古 文)			4											
		邦 楽 歌 詞 研 究			4											
		ピ ア ノ II	1	1	1	1					6					
		ピアノ以外の洋楽器			2 ～											
		器 楽 合 奏	1													
		独 唱			2 ～											
		合 唱	1		1											
		ソルフェージュ B (教職)	2													
		音 楽 通 史	4													
		西洋音楽理論 I・II	4 ～ 8													
		指 揮 法							2							
			①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏，東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中，日本音楽史 I・II，東洋音楽史，民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論は I から順次履修すること。													

チ. 邦 楽 科 長唄囃子専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

			1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
科目	授業科目	年次 期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計
必修科目	主要 学 科 目	長唄囃子実技 ()	2	2	2	2	2	2	2	2	16	24	78
		総 合 実 習	1		1		1		1		4		
		学 内 演 奏							2		2		
		卒 業 演 奏							2		2		
	関連 学 科 目	長唄囃子実技 { ()	1		1		1		1		4	26	
			1		1		1		1		4		
			1		1		1		1		4		
		長唄又は長唄三味線実技	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		三味線音楽演奏論	4								4		
		ソルフェージュA(基礎)	1	1							2		
選択 科目	関連 学 科 目	邦 楽 合 奏 研 究					2～4				8	14	78
		専 攻 外 邦 楽 A	2～										
		専 攻 外 邦 楽 B	2～16										
		※ 雅 楽 演 奏					2						
		研 究 旅 行					2						
		※日本音楽史Ⅰ 講義					4				14		
		〃 演習					2						
		※日本音楽史Ⅱ 講義					4						
		〃 演習					2						
		※東洋音楽史 講義					4						
		〃 演習					2						
		※民族音楽学 講義					4						
		〃 演習					2						
	国 語 (古 文)					4							
	邦 楽 歌 詞 研 究					4							
	ピ ア ノ II	1	1	1	1					6			
	ピアノ以外の洋楽器					2～							
	器 楽 合 奏	1											
	独 唱					2～							
	合 唱	1		1									
ソルフェージュB(教職)					2								
音 楽 通 史	4												
西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ	4～8												
指 揮 法							2						
			①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏、東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中、日本音楽史Ⅰ・Ⅱ、東洋音楽史、民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。 ④長唄囃子実技については、笛・小鼓・大鼓・太鼓の中から1科目を主要学科目に選択し、他の3科目を関連学科目として履修すること。										

ツ. 邦楽科 箏曲専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
			期別	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計
必修科目	主要 学 科 目	箏 実 技	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	16	48	80
		箏 歌 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		箏 曲 三 絃 実 技	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		総 合 実 習	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		
		関 連 箏 曲 A (生田) 又 B (山田)					1	1	1	1	4				
		学 内 演 奏							2	2					
		卒 業 演 奏							2	2					
	学関 科連 目	箏 曲 演 奏 論	4										4	6	
ソルフェージュ A (基礎)	1	1							2						
選択 科目	選 択 関 連 学 科 目	他 様 式 の 箏 曲				1							4		
		邦 楽 合 奏 研 究							2 ～ 4						
		専 攻 外 邦 楽 A					2 ～								
		専 攻 外 邦 楽 B					2 ～ 16								
		※ 雅 楽 演 奏					2								
		研 究 旅 行					2								
		※日本音楽史Ⅰ 講義					4				12				
		〃 演習					2								
		※日本音楽史Ⅱ 講義					4								
		〃 演習					2								
		※東洋音楽史 講義					4								
		〃 演習					2								
		※民族音楽学 講義					4								
		〃 演習					2								
		国 語 (古 文)					4				10				
		邦 楽 歌 詞 研 究					4								
		ピ ア ノ Ⅱ	1	1	1	1									
		ピアノ以外の洋楽器					2 ～								
		器 楽 合 奏					1								
		独 唱					2 ～								
		合 唱	1		1										
		ソルフェージュ B (教職)					2								
		音 楽 通 史	4												
		西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ					4 ～ 8								
		指 揮 法							2						
			①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏，東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中，日本音楽史Ⅰ・Ⅱ，東洋音楽史，民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。 ④関連邦楽（箏曲）A，B 箏曲に深く関連するもので，専攻課程が設置されていない邦楽についての実技授業。通年。原則として二科目を開講し，A，B とする。												

テ. 邦 楽 科 尺八専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目		年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計		
必修科目	主要 学科 科目	尺 八 実 技	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	24	36	76	
		総 合 実 習	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
		学 内 演 奏								2		2				
		卒 業 演 奏								2		2				
	関連 学科 科目	箏 曲 実 技	1	1									2	14		
		箏 曲 三 絃 実 技			1	1							2			
	箏曲又は三絃実技					1	1	1	1			4				
	尺 八 演 奏 論	4										4				
	ソルフェージュA(基礎)	1	1									2				
選択 科目	関連 学科 科目	他 様 式 の 箏 曲				1								4		
		邦 楽 合 奏 研 究								2 ～ 4						
		専 攻 外 邦 楽 A	2 ～													
		専 攻 外 邦 楽 B	2 ～ 16													
		※ 雅 楽 演 奏							2							
		研 究 旅 行							2							
		※日本音楽史Ⅰ 講義	4											12		
		〃 演習	2													
		※日本音楽史Ⅱ 講義	4													
		〃 演習	2													
		※東洋音楽史 講義	4													
		〃 演習	2													
		※民族音楽学 講義	4													
		〃 演習	2													
		国 語 (古 文)							4							
		邦 楽 歌 詞 研 究							4							
		ピ ア ノ Ⅱ	1	1	1	1								10		
		ピアノ以外の洋楽器							2 ～							
		器 楽 合 奏	1													
	独 唱							2 ～								
	合 唱	1		1												
	ソルフェージュB(教職)	2														
	音 楽 通 史	4														
西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ	4 ～ 8															
指 揮 法						2										
														①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏，東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中，日本音楽史Ⅰ・Ⅱ，東洋音楽史，民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。		

ト. 邦 楽 科 能楽（囃子を除く）専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

		年次 期別	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計		
科目	授業科目														
必修科目	主要 学科 科目	謡 曲 実 技	2	2	2	2	2	2	2	2	16	38	76		
		仕舞又は小舞実技	2	2	2	2	2	2	2	2	16				
		総 合 実 習					1		1		2				
		学 内 演 奏							2		2				
		卒 業 演 奏							2		2				
	関連 学科 科目	地 拍 子					1		1		2	20			
		能楽囃子実技	笛	1		1		1		1				4	
				小	1		1		1		1				4
				大	1		1		1		1				4
				太	1		1		1		1				4
		ソルフェージュA(基礎)	1	1							2				
	選択 科目 目	選 択 関 連 学 科 目	他 様 式 の 能 楽						1～2			4		76	
			専 攻 外 邦 楽 A					2～							
			専 攻 外 邦 楽 B					2～16							
※ 雅 楽 演 奏							2								
研 究 旅 行							2								
※日本音楽史Ⅰ 講義							4				10				
〃 演習							2								
※日本音楽史Ⅱ 講義							4								
〃 演習							2								
※東洋音楽史 講義							4								
〃 演習						2									
※民族音楽学 講義						4									
〃 演習						2									
国 語 (古 文)						4									
邦 楽 歌 詞 研 究						4									
科 目		ピ ア ノ Ⅱ	1	1	1	1						4			
		ピアノ以外の洋楽器					2～								
		器 楽 合 奏					1								
		独 唱					2～								
		合 唱	1		1										
	ソルフェージュB(教職)					2									
	音 楽 通 史	4													
	西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ					4～8									
	指 揮 法					2									
	①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏，東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中，日本音楽史Ⅰ・Ⅱ，東洋音楽史，民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。														

ナ. 邦 楽 科 能楽囃子専攻

専門教育課程（カリキュラム）修得単位年次表

科目		授業科目	年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		修 得 単 位 数				
			期別		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	小計	中計	合計		
必修科目	主要学科目	能 楽 囃 子 実 技 ()	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	16	32	76		
		総 合 実 習					1		1		2						
		学 内 演 奏							2		2						
		卒 業 演 奏							2		2						
	関連学科目	能楽囃子実技 { ()	()	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8		34	
			()	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
			()	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8			
		謡曲又は仕舞実技	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8				
		ソルフェージュA(基礎)	1	1									2				
	選択科目	関連科学目	専 攻 外 邦 楽 A	2 ～										4		12	76
専 攻 外 邦 楽 B			2 ～16														
※ 雅 楽 演 奏									2								
研 究 旅 行									2								
※日本音楽史Ⅰ 講義			4										4				
〃 演習			2														
※日本音楽史Ⅱ 講義			4														
〃 演習			2														
※東洋音楽史 講義			4														
〃 演習			2														
科目		※民族音楽学 講義	4										4				
		〃 演習	2														
		国 語 (古 文)							4								
		邦 楽 歌 詞 研 究							4								
		ピ ア ノ Ⅱ	1	1	1	1											
		ピアノ以外の洋楽器							2 ～								
		器 楽 合 奏	1														
		独 唱							2 ～								
		合 唱	1		1												
		ソルフェージュB(教職)	2														
		音 楽 通 史	4														
		西洋音楽理論Ⅰ・Ⅱ	4 ～ 8														
		指 揮 法							2								
					①※印は楽理科の開講科目である。 雅楽演奏，東洋音楽史演習については履修者を制限することがある。 ②※印の科目中，日本音楽史Ⅰ・Ⅱ，東洋音楽史，民族音楽学については演習のみを履修することはできない。 ③西洋音楽理論はⅠから順次履修すること。 ④能楽囃子実技については笛・小鼓・大鼓・太鼓の中から1科目を主要学科目に選択し，他の3科目を関連学科目として履修すること。												

V 教 職 課 程

卒業後、教職につく意志がある者は、各専攻の卒業要件単位の他に「教職に関する専門科目」、「教科に関する専門科目」、「その他の科目」の所定単位を修得し、かつ「教育職員免許状」を自分で本学または教育委員会に申請しなければならない。

(1) 免許状の種類

教科	免許状の種類	備 考
音 楽	中学校教諭 1 級普通免許状	} 同一の所定単位で、2 種類の免許状を申請することができる。
	高等学校教諭 2 級普通免許状	

(2) 教職に関する専門科目

科 目 名	単 位	備 考
教 育 原 理	2	1, 2 年次で履修
教育心理学(含, 青年心理学)	2	「心理学概説」(4 単位) を修得した者に限る
音 楽 教 科 教 育 法	2	3 年次履修
教 育 実 習	2	4 年次履修 (45 頁〔本書196～197 頁〕参照)
道 徳 教 育 の 研 究	2	1, 2 年次で履修
計	10	

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目は、下表(A)「所定の単位」のとおり合計18単位必要であるが、この単位中には、専門科目の必修単位(卒業要件単位)が含まれているので、(B)「各科等の履修単位」に示した単位を付加履修すれば、所定の単位を充足したことになる。

(A)所定の単位		(B) 各 科 等 の 履 修 単 位											
科 目 名	単位	科 目 名	年間 単位	作曲	声楽	ピアノ	オル ガン	弦楽	管打楽	指揮	楽理	邦楽	備考
ソルフェージュ	4	ソルフェージュ	2									2	
声 楽 (合唱を含む)	4 又は 6	独 唱	2	2		2	2	2	2	2	2 又は 4	4 又は 6	注①
		合 唱	1	2		2	2	2	2	2	6 又は 4	10 又は 6	
器 楽 (合奏を含む)	4 又は 6	器 楽	2	2									注②
		器 楽 合 奏 (リコーダー合奏)	1	(1)	1		1			1	(1)	(1)	注③
指 揮 法	2	指 揮 法	2	2	2	2	2	2	2		2	2	注④
音楽理論および 音楽史	2	音 楽 通 史	4		4			4		4		4	注⑤
計	18	計		8 (9)	7	6	7	10	6	9	8 (9)	18 (19)	

注意事項

- ① 副科合唱を履修すること。
 - ② 楽器は、副科実技のピアノ(作曲は3年以上、楽理は2年以上)、オルガン、チェンバロ、弦楽器、管打楽器および雅楽演奏、ガムラン演奏、シタール演奏、伽倻琴演奏、西洋古楽演奏の中から選択すること。
 - ③ 集中講義(7月、12月の年2回、各15時間)で行う。なお、作曲、楽理、邦楽の学生で、雅楽演奏、ガムラン演奏、シタール演奏、伽倻琴演奏、西洋古楽演奏を器楽に選択した者は履修しなくてよい。
 - ④ 通年授業(副科指揮法)または集中講義(指揮法概論)で履修すること。
 - ⑤ 声楽、弦楽、指揮、邦楽の学生は、所定の単位(2単位)より多くなるが、必ず履修しなければならない。
- (4) その他の科目
- 一般教育科目のうち「邦楽鑑賞法」(4単位)、「法学(含、日本国憲法)」(4単位)の2科目と、「哲学(西洋哲学史、日本・東洋思想史、倫理学)」(4単位)または「宗教学」(4単位)のうちいずれか1科目を、計3科目(12単位)履修することが望ましい。(9頁〔本書159頁〕◎印参照)
- また、基礎科目中の「専攻外邦楽B」(昭和62年度開設)を将来、教職に就く希望の者は、日本音楽の理解のために履修することが望ましい。
- (5) 他の大学または短期大学において修得した教職科目の単位の取扱いについて
- 他の大学(4年制)を卒業した者で、教職科目の単位を修得した者は、下記の基準により、その単位を申請できる。
- なお、短期大学を卒業した者は、教職科目の単位を修得していても高等学校教諭2級普通免許状取得のための単位申請はできない。(本学であらたに履修しなすこと。)
- ア、申請できる教職科目
- 「教職に関する専門科目」—「教育原理」、「教育心理学(含、青年心理)」、「音楽教科教育法」、「教育実習」、「道德教育の研究」の計5科目のみ。
- (注)「音楽教科教育法」を除き、出身大学の学部・学科等を問わず申請できる。
- イ、申請手続について
- 免許状申請時に授与願を出身大学に提出し、単位取得の証明を受けること(46頁〔本書198頁〕を参照のこと)。
- (6) 教育実習
- (イ) 教育実習履修者
- 教育実習は、次の要件をみたす者が履修できる。
- ① 4年次以上の学生であること。
 - ② 学部卒業に必要な単位取得見込者であること。

③教育職員免許状取得に必要な教職科目の単位取得見込確実な者であること。

④教職に就く意志の有る者であること。(実習校で教職に就く意志の有無を質問されることがある。)

(ロ) 履修届の提出

a. 3年次に教務係に届け出る(実習する4年次に届け出るのではないから間違えないこと)。

b. 教育実習と履修届の説明は、3年次に履修する音楽教科教育法の授業で行う(4月下旬頃の予定)。

c. 履修届の受付は、3年次の6月30日に締切る。

d. 上記2項目の日程の確定・変更は、毎年学事暦・教務係の掲示又は授業の際の指示により行うので、3年次には注意していること。

(リ) 教育実習の方法(下記の(1)又は(2)のいずれか一つの方法で行う。)

(1) 都内私立中・高校及び都外の公、私立中・高校で行う教育実習。

主として上記学校の出身者がこれに該当する。

この場合、事前にその学校に連絡して内諾を得ること。

(2) 都内公立中・高校で行う実習

(1)の方法によれない者及び都内公立中・高校出身者が該当する。

この場合、大学から東京都教育委員会に一括申請して、その指示によって行うので、必ずしも希望した学校で実習を行えるとは限らない。

従来の実績からみて(2)の方法による東京都教育委員会からの実習校の割り当ての数は非常に少ない。したがって、なるべく(1)の方法により実習を行ってほしい。その方法としては、6月中に実習希望校を訪問して受け入れの諾否を確認しておくこと。その後の手続き等は、それぞれの実習校の実状に応じて教務係において行う。

(ニ) 期間と時期

教育実習の期間は、原則として9月の集中講義期間中の2週間とするが、実習校の実状によっては6月以降の他の期間でもやむを得ない。この場合、欠席する授業は、欠席扱いをしないこと(公欠扱い)にしているので、各教官に教育実習のため欠席する旨を申し出ておくこと(届出用紙は教務係窓口にある)。

(ホ) オリエンテーション

実習に関するオリエンテーション授業を4月～5月(実習を行う年)に行うので必ず出席すること(日時については4月に掲示)。この席で必要書類・用紙を配布する。

(ヘ) 健康診断

4月に行なわれる定期健康診断(内科・レントゲン共)を必ず受けておくこと。

(7) 教員免許状について

教員免許状は、大学の所定単位を取得しても、本人が授与願の申請を大学又は教育委員会に行わない限り、免許状は発行されない。

(イ) 免許状授与願の申請について

申請区分	対 象	受付場所	受付時期	申 請 手 続 順
一括申請	在学生	本 学 学 生 部	12 月 上 旬	① 授与手数料 1 件2,000円(中 1, 高 2 同時申請の場合は, 4,000円)と印鑑を持参し, 手続きをする。 ② 他大学出身者は申請手続時に窓口で相談すること。 (一括申請者の手続は終了)
個人申請	卒業生	現 住 所 の都道府県 教育委員会	教育委員会 によって異なる	③ 本学で「授与願」に単位取得証明を受ける。 ④ 個人申請者は「授与願」を教育委員会に提出する。

(ロ) 授与された免許状について

免許状は, 再発行されないので各自大切に保管すること。万一, 紛失等した場合は, 教育委員会に「免許状授与証明書」を申請すること。この場合, 自己の免許状の種類, 番号が必要となるので, 紛失する, しないにかかわらず, 免許状のコピーを各自用意しておくことが望ましい。

VI 他の大学または短期大学において修得した単位の認定について

他の大学または短期大学 (以下, 短大という。) を卒業または中途退学して本学部に入学者の既修得単位については, その申請に基づき, 下記の基準により本学部の単位として認定する。

(1) 単位認定の基準

認 定 科 目	認 定 基 準	認定単位数の限度
一般教育科目	音楽分野（例：音響学等）以外の科目であること。（2 単位科目または本学部において開設していない科目であっても申請できる。）	単位を総合して、 30単位まで
外国語科目	大学で修得した単位の場合、1 ヶ国語に限り、8 単位まで一般外国語の初級（4 単位）・中級（4 単位）として申請できる。短大の場合は、1 ヶ国語に限り、6 単位まで一般外国語の初級（4 単位）・中級（2 単位）として申請できる。 いずれの場合も、専門外国語の単位としては認めない。 （注）一般外国語（卒業要件科目）の単位として認定できる科目は、この履修規程上、各学科ごとに指定された外国語に限るので、これ以外の外国語の申請者は改めて指定された外国語を履修しなければならない。なお、この場合でも単に第 2 外国語（自由科目）の単位として申請できる。詳細は教務係に照会すること。	
保健体育科目	大学で修得した単位は、理論（2 単位）・実技（2 単位）とも申請できる。短大の場合は、実技（1 単位）のみ、2 年次以上の単位として申請できる。〔1 年次に 1 年間（1 単位）、履修すること。〕	

(2) 単位認定の申請について

4月初旬、所定の申請書に前大学または短大の「単位取得成績証明書」を添付して教務係に提出すること。認定の結果は本人に通知する。

(3) 教職課程の単位の取扱いについては、44頁〔本書196頁〕を参照のこと。

VII 履 修 届

本履修規程をよく検討して無理のない履修計画を立て、4月の履修届期間内(学事暦に記載)に履修学生名簿の氏名欄に○印を記入して申し込む。なお、併せて「履修記録票」に自己の履修届をした科目を所定欄に記入して教務係に提出すること。提出期限は厳守のこと。なお、毎年4月の履修届出期間中教務係において履修相談を受け付けているので、単位の取りこぼしのないよう利用することをすすめる。

VIII 音楽学部(大学院を含む。)開設授業公欠の承認基準

昭和59年11月8日教授会決定

(趣旨)

第1条 この基準は学生(大学院学生を含む。)が授業を欠席する場合において、特別の事由により公欠する場合の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 公欠とは、特別の事由により音楽学部(以下「学部」という。)が認めた公の授業欠席をいう。

(特別の事由)

第3条 前条に定める特別の事由は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 忌引
- (2) 教育実習
- (3) 学部定期演奏会ゲネプロ
- (4) メサイア公演ゲネプロ
- (5) 学内演奏会・作曲科学内作品演奏審査及びオーケストラ作品試演会
- (6) 卒業試験公開演奏会
- (7) 学部特別講座
- (8) その他学部教授会が認めた特別事由

(承認手続)

第4条 前条に定める特別事由に該当する場合は、学部教授会の承認があったものとみなす。

但し、第3号、第7号及び第8号に該当する場合は、各別に学部教授会の承認を得なければならない。

第5条 特別の事由に該当して授業を欠席する場合は、当該学生が別に定める欠席届を原則と

して事前に当該科目の担当教官に提出しなければならない。

(公欠の対象となる科目)

第6条 公欠の対象となる授業科目は、原則としてクラス授業とし、実技の個人レッスンを除く。

2 特別の事由に該当する場合でも、欠席しようとする授業が集中講義科目のときは、公欠として認めない。

(公欠の処理)

第7条 公欠をした場合、当該公欠の時数(回数)は、当該科目の総授業時数に算入しない。

(実施細則)

第8条 この基準に定めるもののほか、公欠の取扱いに関し必要な事項は、学部教授会の定めるところによる。

附則

この基準は昭和59年11月8日から実施する。

略記法

55.12.11教務委員会決定

科・声種・楽器名			略記法	科・声種・楽器名			略記法	科・声種・楽器名			略記法
作 曲				弦 楽	ヴァイオリン	Vn	金 管	トロンボーン	Tb		
声	独 唱		ヴ ィ オ ラ		Va	ユーフォニアム		Eup			
	オ ペ ラ		チ ェ ロ		Vc	チ ュ ー バ		Tu			
	ソ プ ラ ノ	S	コントラバス	Cb	打 楽 器	Pc					
楽	ア ル ト	A	木 管	ハ ー プ	Hp	室 内 楽					
	メゾソプラノ	Ms		フ ル ー ト	Fl	指 揮					
	テ ノ ー ル	T		オ ー ボ エ	Ob	楽 理 ・ 音 楽 学					
	バ リ ト ン	Br		クラリネット	Cl	音 楽 教 育					
	バ ス	B		ファゴット	Fg	ソルフェージュ					
ピ ア ノ			P	金 管	サクソフォン	Sx	邦 楽				
オ ル ガ ン			Og		ホ ル ン	Hr					
チ ェ ン バ ロ			Cem		トランペット	Tp					
〔略記法の表現について〕											
1. 原則として、2字以内にまとめた。											
2. 頭文字は、大文字を使い、2文目は小文字とした。											
3. 科名等を表現するときは、日本語のままとし、専攻（声種・楽器名）を略記法の対象とした。											

○「外国人名」、「楽器名」及び「音楽専門用語」の外来語の「V」の音の表記について
従来、「バ、ビ、ブ、ベ、ボ」の音として表記していたものについて、「ヴァ、ヴィ、ヴウ、ヴェ、ヴォ」の音として表記したほうが適当と認められる場合は、これに従うこととする。但し、音楽学部内で使用する場合に限るものとし、公文書等には「バビブベボ」の表記を使用する。

(昭, 59. 1. 12「教務委員会・教授会承認」)

(『昭和62年度 履修便覧(東京芸術大学音楽学部)』1～49頁)